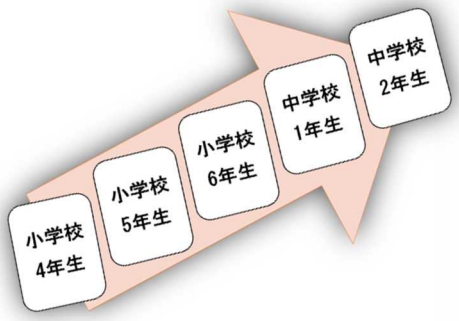
令和４年度

ふくしま学力調査
分　析　報　告　書

子どもたちが
どれだけ自分が伸びたかを実感し、
自信を深め、意欲を高め、
さらに学力を伸ばすために
「ふくしま学力調査」を実施します



ふくしま応援！
「ベコ太郎」

令和４年１１月
福島県教育委員会

目　次

1　ふくしま学力調査について　・・・・　1
2　調査結果から見える県全体としての傾向　・・・・　3
3　教科に関する調査の結果　・・・・　6
（１）県全体の平均正答率（%）と「学力のレベル」　・・・・　６
（２）県全体のカテゴリー別平均正答率（%）　・・・・　６
（３）県全体の「学力のレベル」と「学力の伸び」の変化　・・・・　７
（４）県全体の「学力のレベル」の分布　・・・・　８
①　国語　・・・・　８
②　算数・数学　・・・・１０
（５）県全体の「学力の伸び」の状況　・・・・１２
①　国語　・・・・１２
②　算数・数学　・・・・１４
4　学習指導のポイント　・・・・１６
（１）教科別授業改善の視点　・・・・１６
（２）国語　・・・・１８
（３）算数・数学　・・・・２８
5　「非認知能力」・「学習方略」等に関する分析について　・・・・３８
（１）「非認知能力」について　・・・・３８
（２）「学習方略」について　・・・・４１
（３）「主体的・対話的で深い学び」について　・・・・４３
（４）帳票４０を活用した分析について　・・・・４４
6　児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」　・・・・４５
（１）授業に関すること　・・・・４５
（２）学習意欲や学習環境に関すること　・・・・５３
（３）家庭での生活に関すること　・・・・７１
7　児童生徒質問紙調査結果と「学力の伸び」　・・・・８４
（１）授業に関すること　・・・・８４
（２）学習意欲や学習環境に関すること　・・・・８６
（３）家庭での生活に関すること　・・・・９０
8　エビデンスに基づく授業改善に向けた支援について　・・・９４

令和４年度　ふくしま学力調査　分析報告書

令和４年１１月２２日
福島県教育委員会

１　ふくしま学力調査について

１　調査の目的

児童生徒一人一人の学力の伸びや学習等に対する意識、生活の状況等を把握する調査を実施し、教育及び教育施策等の成果と課題を検証するとともに、その改善を図るための方策を構築し、一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

２　調査実施日

令和４年４月１３日（水）

※　新型コロナウイルス感染拡大防止のための学級閉鎖等により調査実施日に実施が困難な学校に限り、調査実施日を令和４年４月１４日（木）から５月２日（月）までの任意の日に変更して実施した。

３　参加学校数・参加人数

（１）小学校　４０２校

※　義務教育学校前期課程及び県立特別支援学校小学部を含む。以下同じ。

（２）中学校　２１５校

※　義務教育学校後期課程及び県立特別支援学校中学部を含む。以下同じ。

（３）児童生徒数（人）（質問紙を含むいずれかの教科を１つ以上実施した児童生徒の人数）

小学校４年生	小学校５年生	小学校６年生	中学校１年生	中学校２年生
１３，０９８	１３，５７８	１３，９６９	１３，７５０	１３，７３４

４　調査事項

（１）教科に関する調査

①　小学校第４学年～第６学年　国語、算数

②　中学校第１学年・第２学年　国語、数学

（２）質問紙調査

○　学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

５　結果の活用について

（１）児童生徒の学習改善に活用する

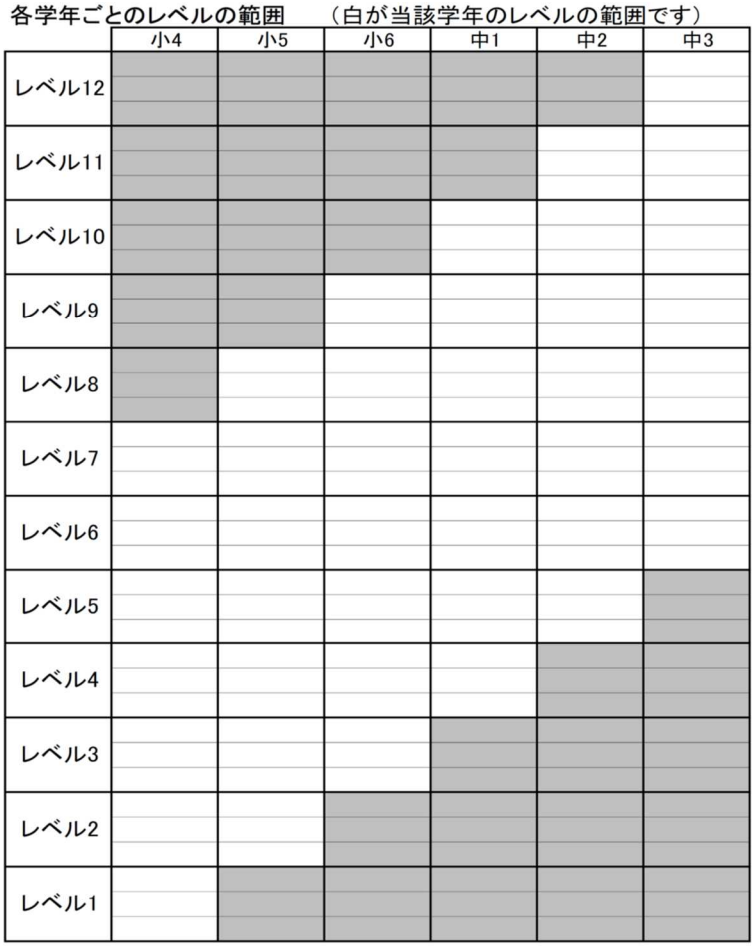
各学校は、個人結果票をもとに児童生徒に学習改善に向けたアドバイスを行う。また、個人結果票を保護者と連携するための資料とし、家庭学習の充実につなげていく。

（２）各学校の授業改善に活用する

各学校は、返却された結果から児童生徒の「学力のレベル」や「学力の伸び」の状況を分析し、学力を伸ばした可能性の高い取組を校内で共有するなど学力向上のプラン等を見直し、今後の授業改善につなげていく。

６　「学力のレベル」と「学力の伸び」について

各学年ごとのレベルの範囲　（白が当該学年のレベルの範囲です）

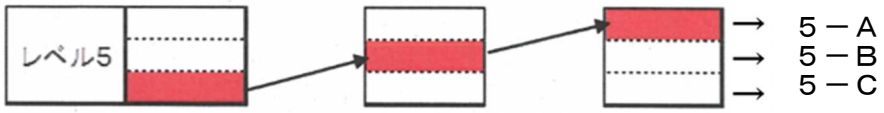


レベル	レベル（3分割）	数値
レベル12	12−A	36
	12−B	35
	12−C	34
レベル11	11−A	33
	11−B	32
	11−C	31
レベル10	10−A	30
	10−B	29
	10−C	28
レベル9	9−A	27
	9−B	26
	9−C	25
レベル8	8−A	24
	8−B	23
	8−C	22
レベル7	7−A	21
	7−B	20
	7−C	19
レベル6	6−A	18
	6−B	17
	6−C	16
レベル5	5−A	15
	5−B	14
	5−C	13
レベル4	4−A	12
	4−B	11
	4−C	10
レベル3	3−A	9
	3−B	8
	3−C	7
レベル2	2−A	6
	2−B	5
	2−C	4
レベル1	1−A	3
	1−B	2
	1−C	1

（１）学力のレベル

全ての問題に難易度を設定し、「どのくらい難しい問題を解く力があるか」を「学力のレベル」で表す。「学力のレベル」はレベル１からレベル１２まであるが、測定は各学年７つのレベルで行う。なお、福島県で中学３年生は実施しないため、「学力のレベル」はレベル１１までである。

さらに、１つの「学力のレベル」は３分割され、「学力の伸び」が詳細に分かる。例えば、同じレベル５でも、「学力のレベル」が高くなるとバーの位置が上がる。



（２）学力の伸び

集計対象となる児童生徒の「学力のレベル（３分割）」を数値化し、前回調査との差を計算する（例：１－Ｃは“１”、１１－Ａは“３３”）。

（３）「学力が伸びた児童生徒」の定義

「学力のレベル（３分割）」を数値化した数値が、前年度から１以上増加した児童生徒を「学力が伸びた児童生徒」と捉える。

2　調査結果から見える県全体としての傾向

1　教科に関する調査の結果から

【国語】

（1）県全体の「学力のレベル」と「学力の伸び」の変化（P7）

○　小学校６年生から中学校２年生は、令和３年度調査から数値が２上がっており、着実に学力が伸びている。小学校５年生は、令和３年度の小学校４年生段階で高い学力を身に付けており、その水準を維持している。

○　どの学年も、約５割から８割の児童生徒が、令和３年度調査から学力を伸ばしている。

（2）県全体の「学力のレベル」の分布（P8～9）

○　同じ学年集団の経年比較から、小学校６年生、中学校１年生は、「学力のレベル」の平均の位置が１つ上がり、最下位レベルの割合が少なくなっている。

●　学年が上がるにつれて、最上位レベルの割合が少なくなっている。

（3）県全体の「学力の伸び」の状況（P12～13）

○　全ての学年において、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルは、令和３年度調査と比べて数値が３上がっており、着実に学力が伸びている。

●　小学校５年生、中学校１年生、中学校２年生においては、上位から２５％～７５％に位置する児童生徒が属するレベルが、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルほど上がっていない。小学校５年生においては、上位から２５％～中央に位置する児童が属するレベルが下がっており、中位層の児童生徒の「学力の伸び」が少ない。

ほぼ全ての学年において、年々着実に学力が伸びている。小学校５年生は、令和３年度の小学校４年生段階で高い学力を身に付けており、その水準を維持している。また、どの学年も、約５割から８割の児童生徒が、令和３年度調査から学力を伸ばしている。

一方、中位層の「学力の伸び」が少ないことから、児童生徒の**言語能力を確実に高めることができる**よう、系統性を意識して指導に当たることが求められる。また、児童生徒が何をどのように学習したのかを自覚できるような単元及び授業を構想することが重要である。

【算数・数学】

（１）県全体の「学力のレベル」と「学力の伸び」の変化（P7）

○　全ての学年において、令和３年度調査から数値が１～３上がっており、学年によって伸び幅に違いはあるが、学力が伸びている。

○　どの学年も、７割前後の児童生徒が、令和３年度調査から学力を伸ばしている。

（２）県全体の「学力のレベル」の分布（P10～11）

○　同じ学年集団の経年比較から、中学２年生以外は、「学力のレベル」の平均の位置が１つ上がっている。

●　学年が上がるにつれて、中央のレベルより下位の児童生徒の割合が多くなっていく。

（３）県全体の「学力の伸び」の状況（P14～15）

○　全ての学年において、児童生徒が属する全てのレベルが上がっており、着実に学力が伸びている。

●　小学校５年生、中学校１年生、中学校２年生においては、上位から２５％～７５％に位置する児童生徒が属するレベルが、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルほど上がっておらず、中位層の児童生徒の「学力の伸び」が少ない。

学年によって伸び幅に違いはあるものの、全ての学年において、年々学力が伸びている。また、どの学年も、７割前後の児童生徒が、令和３年度調査から学力を伸ばしている。

一方、学年が上がるにつれて、中央のレベルより下位の児童生徒の割合が多くなっていく。このことから、**早い段階でつまずきを解消できる**よう、児童生徒一人一人がどのようなつまずきをしているのかを分析し、具体的な支援を行うなど、個別最適化された学びを実現することが求められる。

※　各学年の公開問題及び指導上のポイントについては「分析報告書」で紹介している。

２　児童生徒質問紙調査と学力の関係から（P16～21）

【「学力のレベル」の高さと関係が見られた回答】

（１）授業に関すること

○　授業で学習の見通しを持つことや、話合い活動で自分の考えを持つこと、学習内容のつながりを明確にすることがあったとする回答。

（２）学習意欲や学習環境に関すること

○　学習の準備を整え、授業に臨むことができているとする回答。

○　教師及び他の児童生徒から認められたことがよくあるとする回答。

○　教師の話や友達の発表をしっかり聞き、発表することができているとする回答。

（３）家庭での生活に関すること

○　中学生において、土曜日や日曜日など学校が休みの日に勉強する時間が長いとする回答。

○　読書の冊数が多いとする回答。

【「学力の伸び」との関係】

県全体としてクロス集計を行った結果、どの質問項目においても、「学力の伸び」の大きさと関係が見られた回答はなかった。

一人一人の学力の伸びの要因は実に様々であり、まさに各学校における児童生徒の実態を捉え、個別最適化された学びを実現することが必要であると言える。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、学習意欲や自己肯定感の醸成などにつながる学級経営、家庭学習の充実等が学力向上に与える影響が大きい。引き続き、「ふくしまの『授業スタンダード』」を活用した授業改善、一人一人の児童生徒を大切にした学級経営、「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」を基にした自己マネジメント能力の育成を通して、児童生徒の資質・能力の育成を図っていくことが重要である。

上記の結果は、県全体としての傾向であり、そのまま各自治体や各学校・各学級においても同じであるとは限らない。県全体としての傾向を参考にしつつ、各自治体や各学校に送付されている結果帳票を活用し、詳細に分析することが重要である。その分析結果から実態を捉え、授業の質の向上や望ましい学級集団づくり等に生かしていくことで、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばしていくことが期待できる。

なお、本稿「８　エビデンスに基づく授業改善に向けた支援について」で紹介している「学力のレベルと学力の伸び」を可視化する「グラフ化ツール」については、後日各学校へ配付する。

3　教科に関する調査の結果

（１）県全体の平均正答率（％）と「学力のレベル」

	小学校４年生	小学校５年生	小学校６年生	中学校１年生	中学校２年生
国語	５７．９	５５．３	６２．３	５８．３	５５．６
	５－Ａ（１５）	６－Ａ（１８）	７－Ｂ（２０）	８－Ｃ（２２）	８－Ｂ（２３）
算数 数学	６０．７	６２．８	５９．５	５８．３	４９．３
	５－Ｂ（１４）	６－Ｃ（１６）	７－Ｃ（１９）	７－Ａ（２１）	７－Ａ（２１）

上段：平均正答率（％）　下段：平均の学力のレベル（数値）

（２）県全体のカテゴリー別平均正答率（％）

【国語】

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率		
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方、我が国の言語文化	話すこと・聞くこと、書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
小学校４年	65.5	52.2	39.5	58.8	63.2	48.0	―	64.8	48.7	14.6
小学校５年	63.2	54.0	51.9	42.8	62.1	46.3	―	57.9	53.0	26.4
小学校６年	63.7	74.7	65.3	54.6	65.0	58.7	―	64.8	58.5	41.0
中学校１年	61.5	58.0	54.7	55.5	60.7	55.2	―	62.8	46.0	46.3
中学校２年	52.9	59.8	54.9	57.2	55.1	56.4		58.0	46.4	53.8

【算数・数学】

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率		
	数と計算	図形	測定（小４）変化と関係（小５～中１）	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
小学校４年	61.6	49.9	60.8	71.3	63.0	46.2	―	58.1	65.1	39.0
小学校５年	64.6	53.6	73.0	62.5	63.5	58.9	―	60.8	66.9	38.3
小学校６年	63.8	57.9	63.1	49.1	60.0	54.7	―	59.9	60.7	33.5
中学校１年	62.0	52.9	56.5	60.6	59.0	51.1	―	56.5	60.6	48.6
	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率		
	数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
中学校２年	50.5	45.1	53.3	47.7	50.6	39.9	―	48.7	51.0	29.5

（３）県全体の「学力のレベル」と「学力の伸び」の変化

○　国語

学年	小４	小５	小６	中１	中２
現中２	―	H31 １７	R2 中止	R3 ２１	**R4 ２３**
現中１	H31 １６	R2 中止	R3 ２０	**R4 ２２**	
現小６	R2 中止	R3 １８	**R4 ２０**		
現小５	R3 １８	**R4 １８**			
現小４	**R4 １５**				

○　算数・数学

学年	小４	小５	小６	中１	中２
現中２	―	H31 １６	R2 中止	R3 ２０	**R4 ２１**
現中１	H31 １５	R2 中止	R3 １８	**R4 ２１**	
現小６	R2 中止	R3 １６	**R4 １９**		
現小５	R3 １４	**R4 １６**			
現小４	**R4 １４**				

※　表の中の数値は、児童生徒の「学力のレベル（３分割）」を数値化したものである。

※　横に見ると「同じ学年集団」を、縦に見ると「年度の異なる同じ学年」を比較することができる。

○　令和３年度調査から学力が伸びた児童生徒の割合（%）（県全体）

	小学校５年生	小学校６年生	中学校１年生	中学校２年生
国語	５２．５	７７．３	６７．５	６６．８
算数・数学	６５．５	７５．９	７１．０	６５．５

※　小学校４年生の学力の伸びが見られるのは、令和５年度調査実施後となる。

【国語】

（同じ学年集団の経年比較）

○　小学校６年生から中学校２年生は、令和３年度調査から数値が２上がっており、着実に学力が伸びている。小学校５年生は、令和３年度の小学校４年生段階で高い学力を身に付けており、その水準を維持している。

○　どの学年も、約５割から８割の児童生徒が、令和３年度調査から学力を伸ばしている。

（年度の異なる同じ学年の比較）

○　小学校５年生と小学校６年生は前年度と同じ数値である。中学校１年生は前年度より数値が１高くなっている。

【算数・数学】

（同じ学年集団の経年比較）

○　全ての学年において、令和３年度調査から数値が１～３上がっており、学年によって伸び幅に違いはあるが、学力が伸びている。

○　どの学年も、７割前後の児童生徒が、令和３年度調査から学力を伸ばしている。

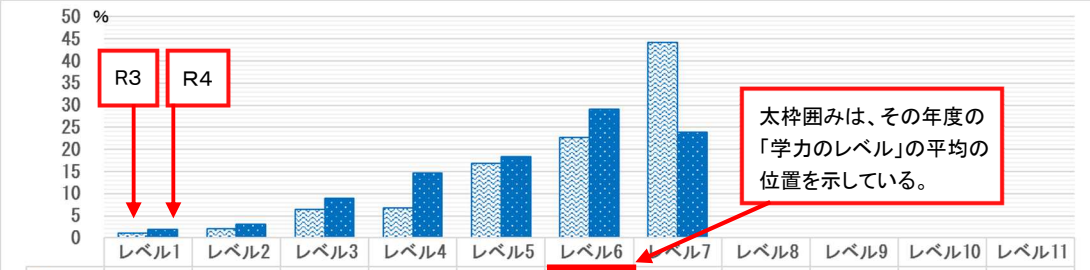
（年度の異なる同じ学年の比較）

○　小学校４年生と小学校５年生は前年度と同じ数値である。小学校６年生と中学校１年生は前年度より数値が１高くなっている。

（４）県全体の「学力のレベル」の分布　①　国語

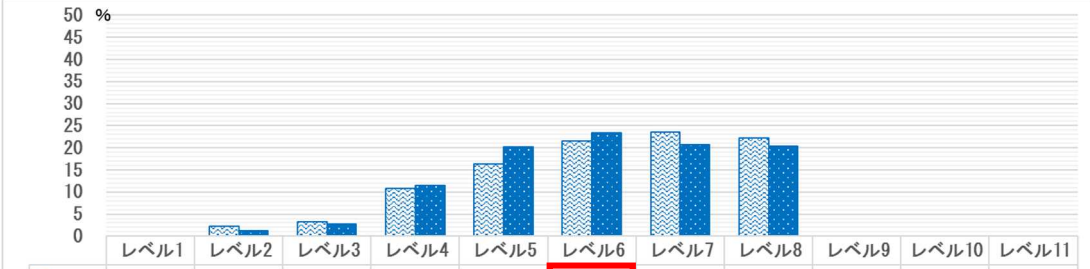
【年度の異なる同じ学年の比較（国語）】

小学校４年生の分布



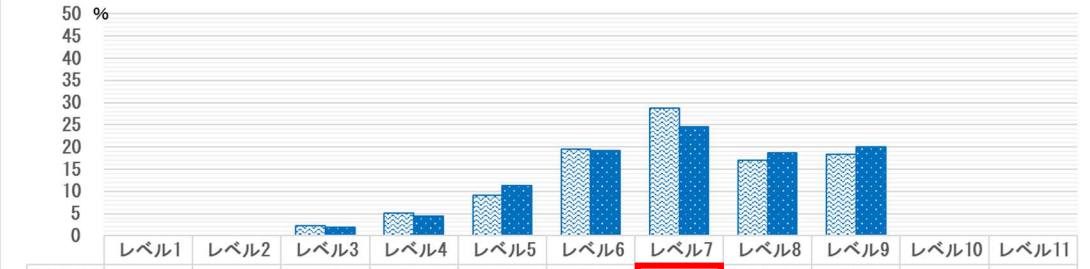
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 小4	1.1	2.0	6.5	6.7	16.8	22.7	44.2				
R4 小4	2.0	3.1	8.9	14.7	18.3	29.2	23.8				

小学校５年生の分布



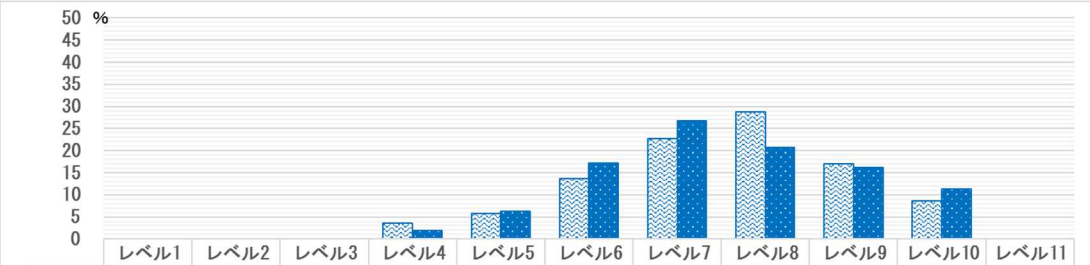
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 小5		2.3	3.3	10.8	16.4	21.5	23.5	22.2			
R4 小5		1.2	2.7	11.5	20.2	23.3	20.8	20.3			

小学校６年生の分布



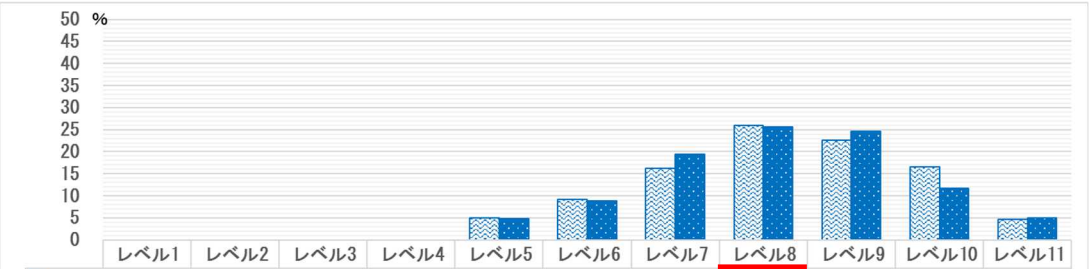
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 小6			2.2	5.1	9.2	19.5	28.8	17.0	18.3		
R4 小6			1.8	4.3	11.4	19.2	24.5	18.7	20.1		

中学校１年生の分布



	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 中1				3.6	5.8	13.6	22.7	28.7	17.0	8.6	
R4 中1				1.9	6.3	17.1	26.7	20.6	16.1	11.2	

中学校２年生の分布

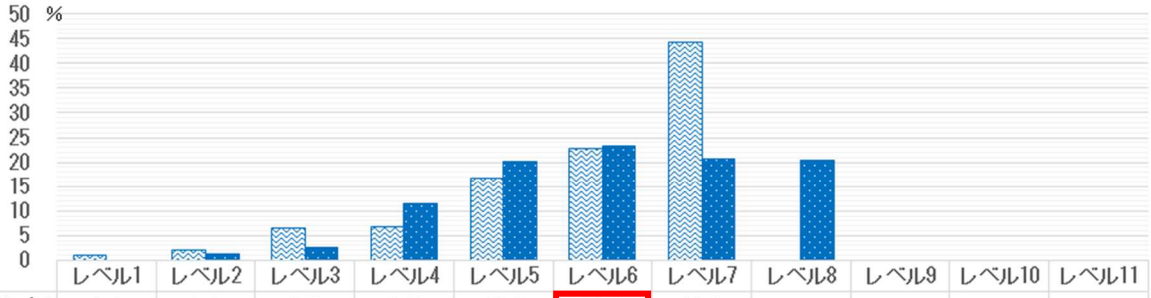


	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 中2					4.9	9.1	16.2	26.0	22.6	16.6	4.6
R4 中2					4.8	8.8	19.5	25.7	24.6	11.7	5.0

※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

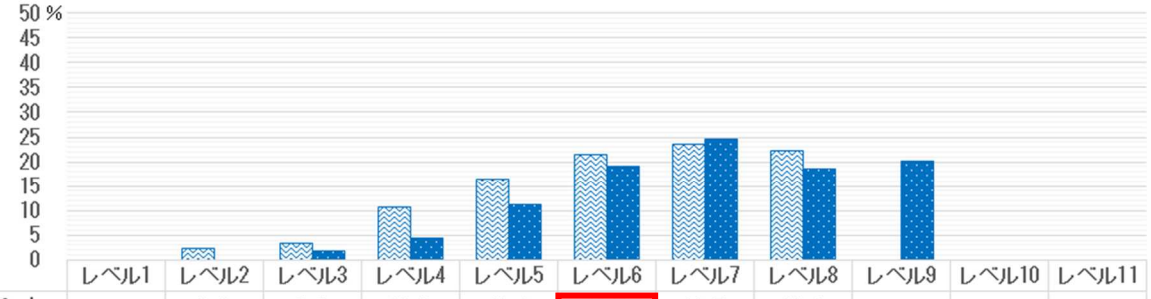
【同じ学年集団の経年比較（国語）】

Ｒ３小学校４年生　→　Ｒ４小学校５年生



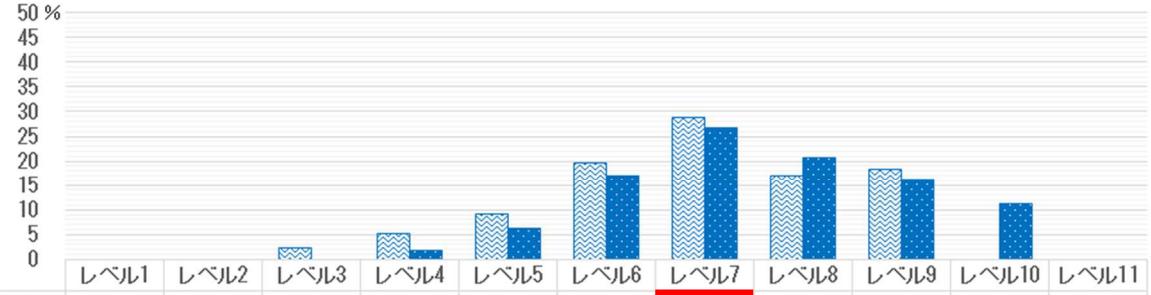
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 小4	1.1	2.0	6.5	6.7	16.8	22.7	44.2				
R4 小5		1.2	2.7	11.5	20.2	23.3	20.8	20.3			

Ｒ３小学校５年生　→　Ｒ４小学校６年生



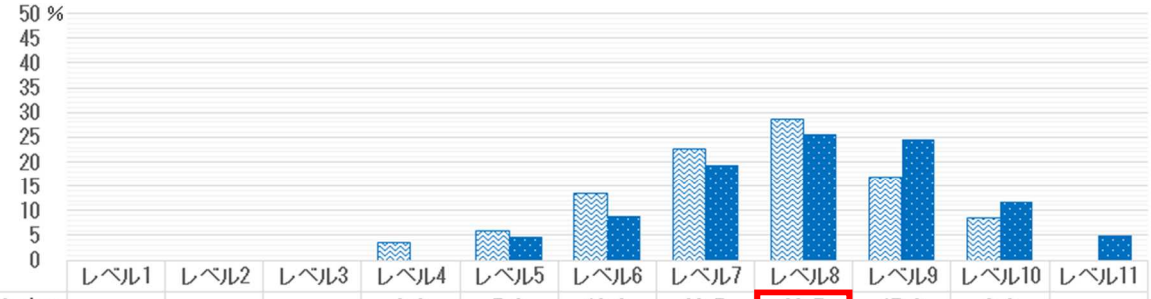
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 小5		2.3	3.3	10.8	16.4	21.5	23.5	22.2			
R4 小6			1.8	4.3	11.4	19.2	24.5	18.7	20.1		

Ｒ３小学校６年生　→　Ｒ４中学校１年生



	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 小6			2.2	5.1	9.2	19.5	28.8	17.0	18.3		
R4 中1				1.9	6.3	17.1	26.7	20.6	16.1	11.2	

Ｒ３中学校１年生　→　Ｒ４中学校２年生

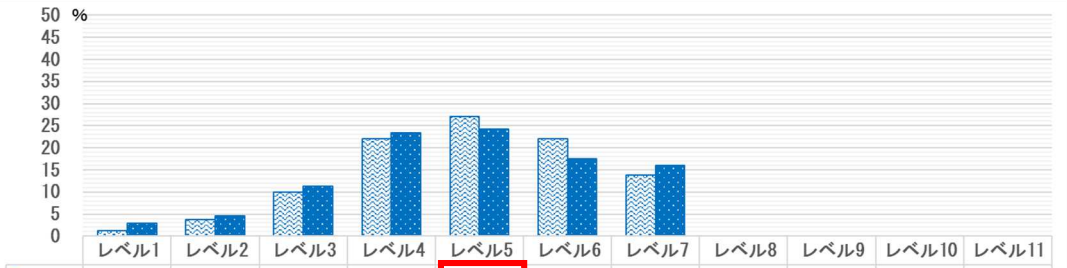


	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 中1				3.6	5.8	13.6	22.7	28.7	17.0	8.6	
R4 中2					4.8	8.8	19.5	25.7	24.6	11.7	5.0

（４）県全体の「学力のレベル」の分布　②　算数・数学

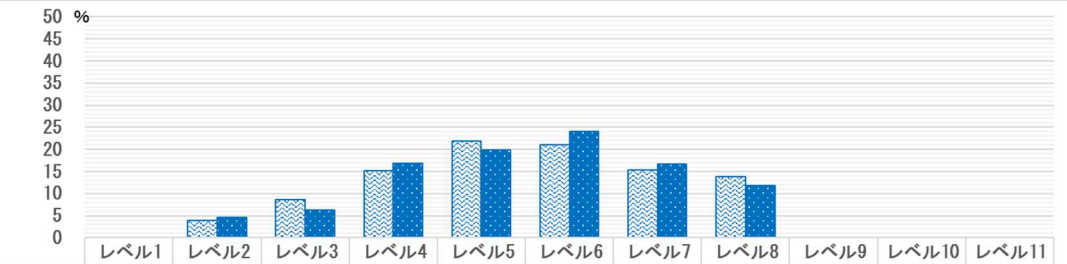
【年度の異なる同じ学年の比較（算数・数学）】

小学校
４年生
の分布



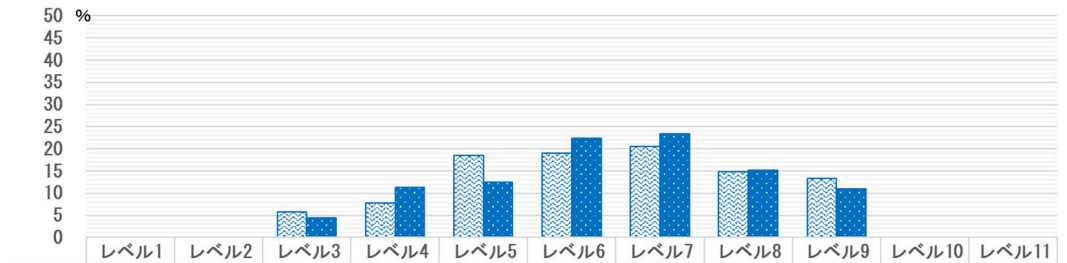
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 小4	1.3	3.7	10.0	22.0	27.1	22.0	13.9				
R4 小4	2.9	4.6	11.3	23.4	24.2	17.6	16.0				

小学校
５年生
の分布



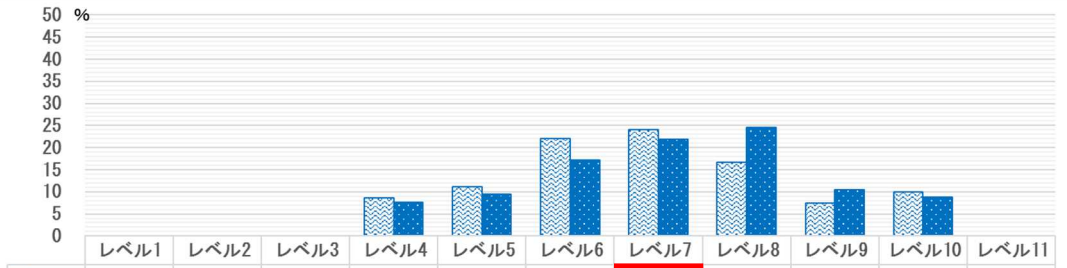
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 小5		4.0	8.7	15.2	21.8	21.1	15.4	13.8			
R4 小5		4.6	6.3	16.8	19.9	24.0	16.6	11.8			

小学校
６年生
の分布



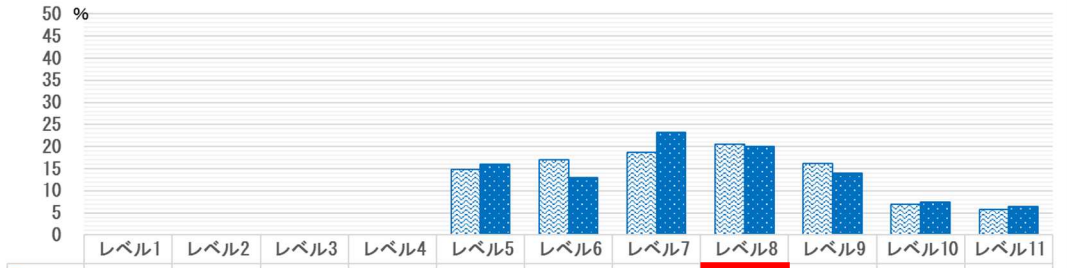
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 小6			5.7	7.8	18.6	19.1	20.6	14.8	13.4		
R4 小6			4.4	11.3	12.5	22.3	23.4	15.1	11.0		

中学校
１年生
の分布



	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 中1				8.7	11.2	22.0	24.0	16.7	7.5	9.9	
R4 中1				7.7	9.5	17.1	21.9	24.6	10.4	8.8	

中学校
２年生
の分布

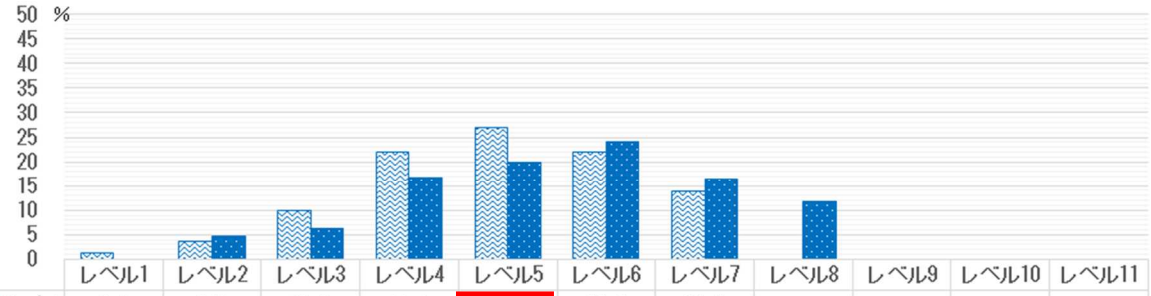


	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 中2					14.8	17.0	18.7	20.5	16.2	7.0	5.8
R4 中2					16.0	12.9	23.2	20.0	13.9	7.5	6.5

※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

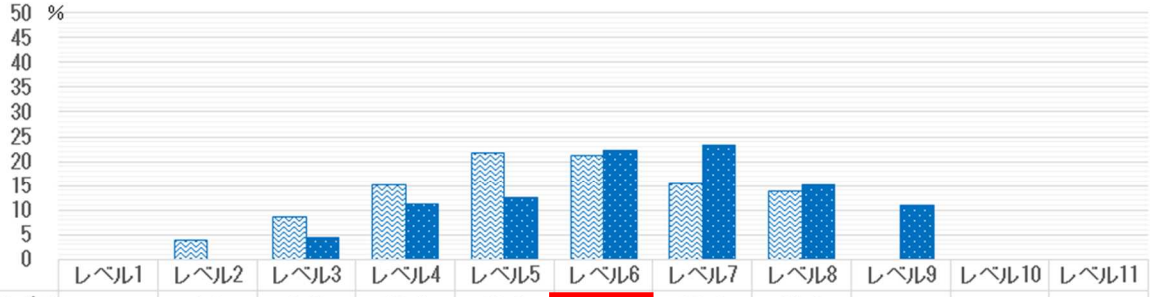
【同じ学年集団の経年比較（算数・数学）】

Ｒ３小学校４年生　→　Ｒ４小学校５年生



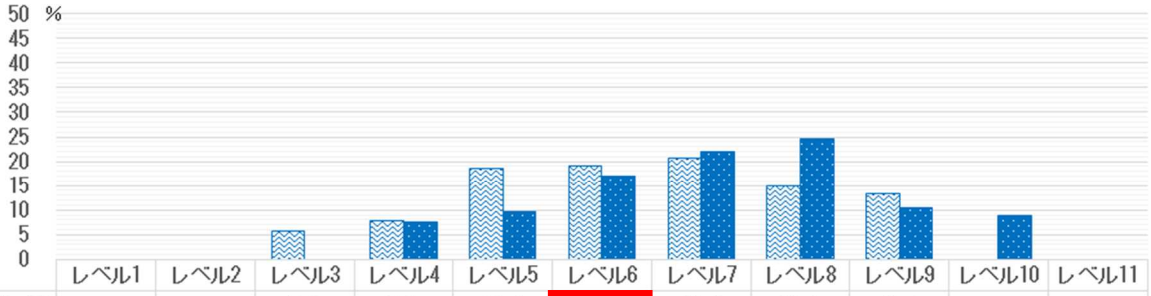
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 小4	1.3	3.7	10.0	22.0	27.1	22.0	13.9				
R4 小5		4.6	6.3	16.8	19.9	24.0	16.6	11.8			

Ｒ３小学校５年生　→　Ｒ４小学校６年生



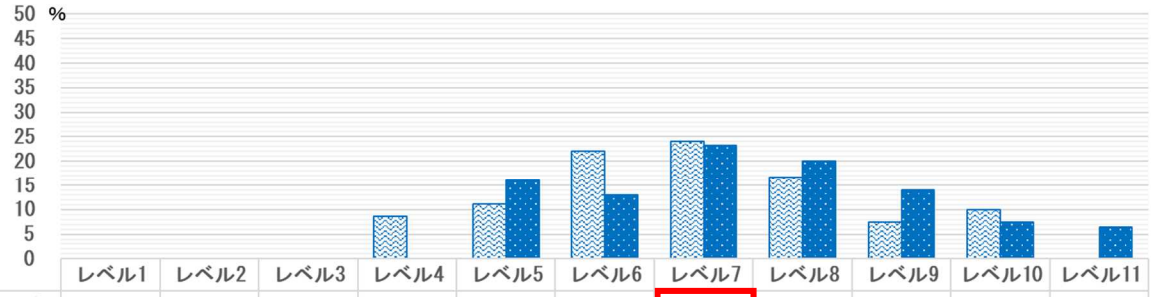
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 小5		4.0	8.7	15.2	21.8	21.1	15.4	13.8			
R4 小6			4.4	11.3	12.5	22.3	23.4	15.1	11.0		

Ｒ３小学校６年生　→　Ｒ４中学校１年生



	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 小6			5.7	7.8	18.6	19.1	20.6	14.8	13.4		
R4 中1				7.7	9.5	17.1	21.9	24.6	10.4	8.8	

Ｒ３中学校１年生　→　Ｒ４中学校２年生

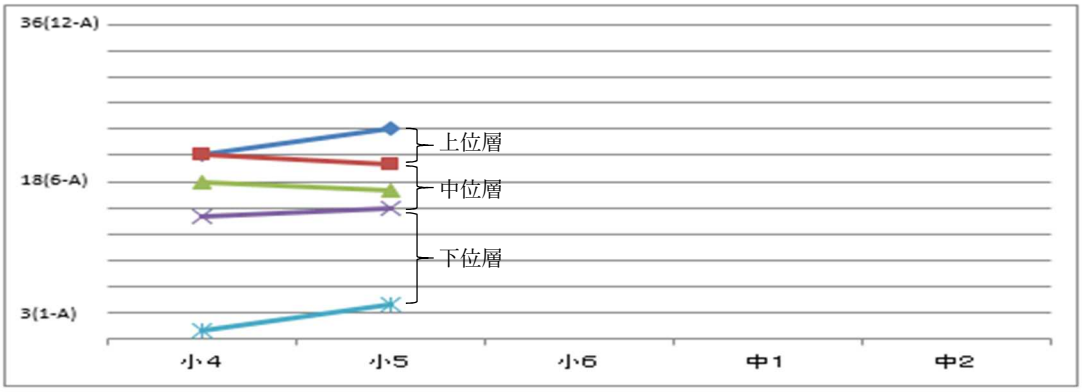


	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R3 中1				8.7	11.2	22.0	24.0	16.7	7.5	9.9	
R4 中2					16.0	12.9	23.2	20.0	13.9	7.5	6.5

（５）県全体の「学力の伸び」の状況　①　国語

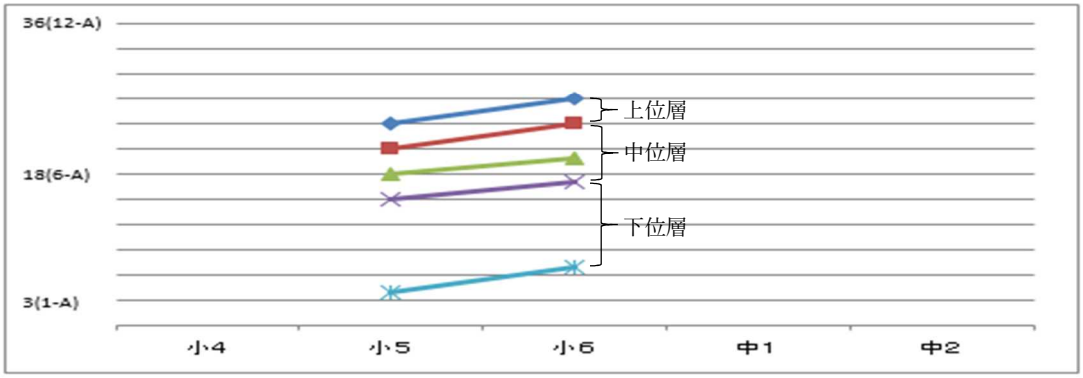
【平成30年度入学（現小学校5年生）】

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童が属するレベル	21	24	－	－	－	－
上位から25%に位置する児童が属するレベル	21	20	－	－	－	－
中央に位置する児童が属するレベル	18	17	－	－	－	－
上位から75%に位置する児童が属するレベル	14	15	－	－	－	－
最下位の児童が属するレベル	1	4	－	－	－	－



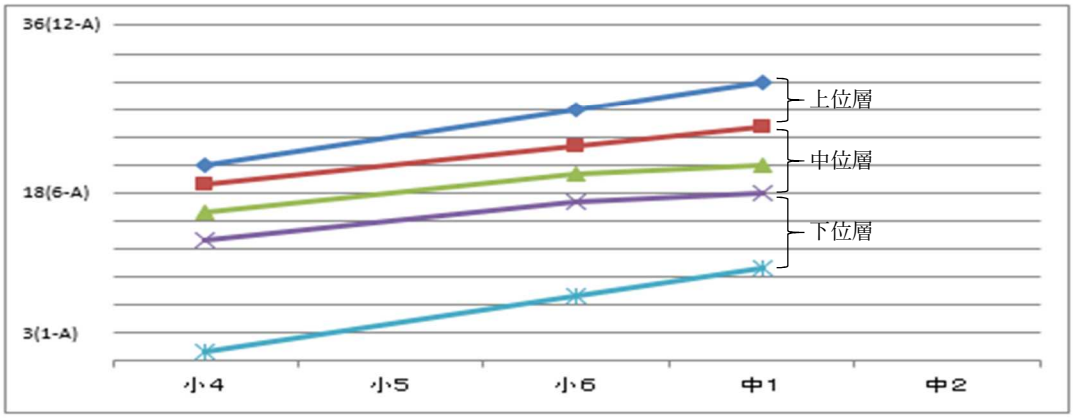
【平成29年度入学（現小学校6年生）】

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童が属するレベル	－	24	27	－	－	－
上位から25%に位置する児童が属するレベル	－	21	24	－	－	－
中央に位置する児童が属するレベル	－	18	20	－	－	－
上位から75%に位置する児童が属するレベル	－	15	17	－	－	－
最下位の児童が属するレベル	－	4	7	－	－	－



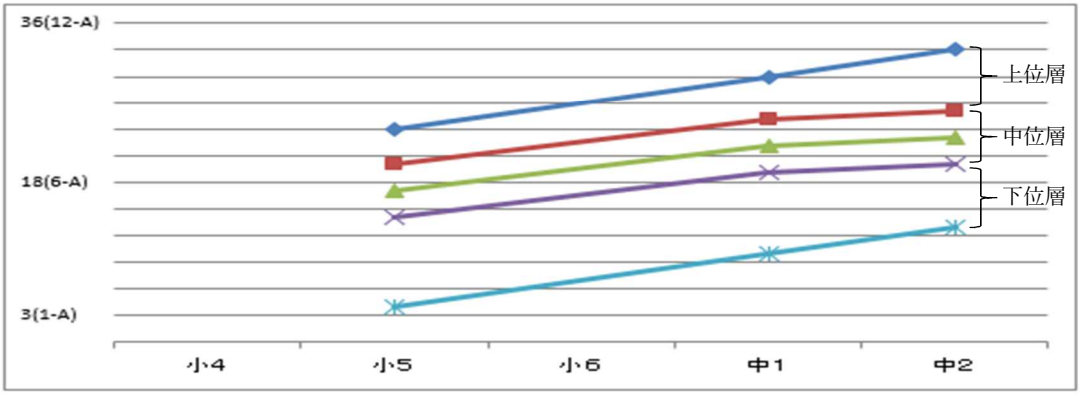
【平成28年度入学（現中学校1年生）】

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するレベル	21	－	27	30	－	－
上位から25%に位置する児童生徒が属するレベル	19	－	23	25	－	－
中央に位置する児童生徒が属するレベル	16	－	20	21	－	－
上位から75%に位置する児童生徒が属するレベル	13	－	17	18	－	－
最下位の児童生徒が属するレベル	1	－	7	10	－	－



【平成27年度入学（現中学校2年生）】

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するレベル	－	24	－	30	33	－
上位から25%に位置する児童生徒が属するレベル	－	20	－	25	26	－
中央に位置する児童生徒が属するレベル	－	17	－	22	23	－
上位から75%に位置する児童生徒が属するレベル	－	14	－	19	20	－
最下位の児童生徒が属するレベル	－	4	－	10	13	－



【国語】

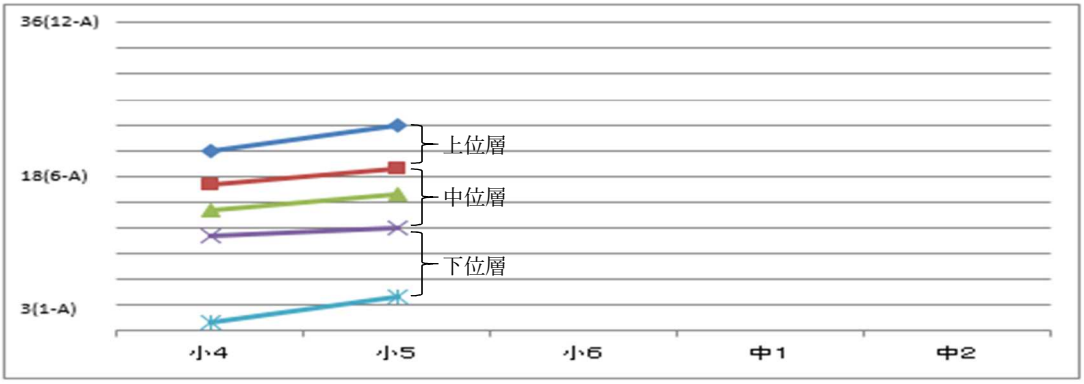
○　全ての学年において、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルは、令和３年度調査と比べて数値が３上がっており、着実に学力が伸びている。

●　小学校５年生、中学校１年生、中学校２年生においては、上位から２５％～７５％に位置する児童生徒が属するレベルが、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルほど上がっていない。小学校５年生においては、上位から２５％～中央に位置する児童が属するレベルが下がっており、中位層の児童生徒の「学力の伸び」が少ない。

（５）県全体の「学力の伸び」の状況　②　算数・数学

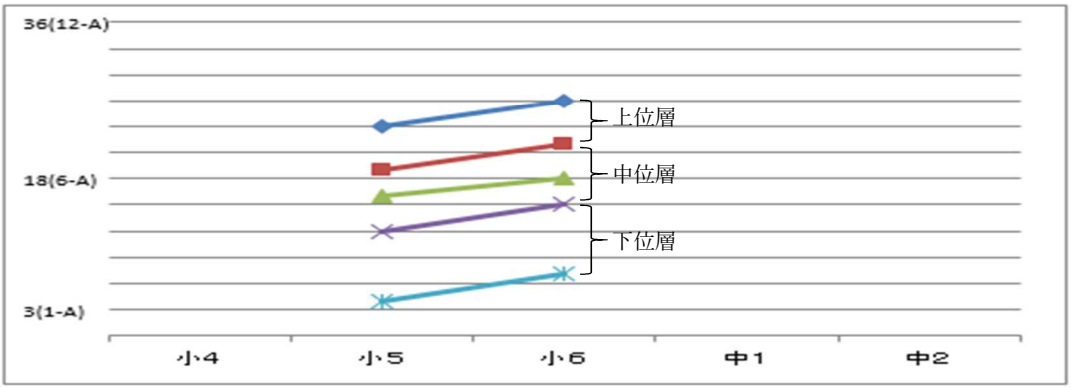
【平成30年度入学（現小学校5年生）】

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童が属するレベル	21	24	－	－	－	－
上位から25%に位置する児童が属するレベル	17	19	－	－	－	－
中央に位置する児童が属するレベル	14	16	－	－	－	－
上位から75%に位置する児童が属するレベル	11	12	－	－	－	－
最下位の児童が属するレベル	1	4	－	－	－	－



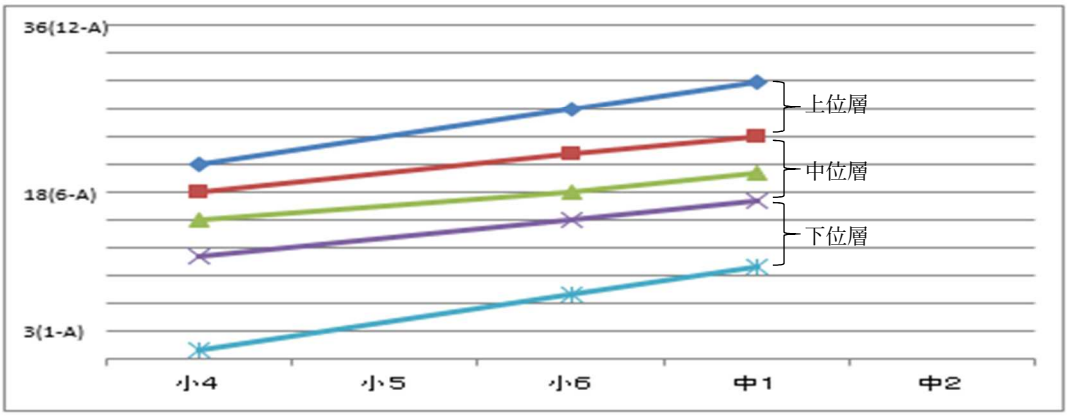
【平成29年度入学（現小学校6年生）】

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童が属するレベル	－	24	27	－	－	－
上位から25%に位置する児童が属するレベル	－	19	22	－	－	－
中央に位置する児童が属するレベル	－	16	18	－	－	－
上位から75%に位置する児童が属するレベル	－	12	15	－	－	－
最下位の児童が属するレベル	－	4	7	－	－	－



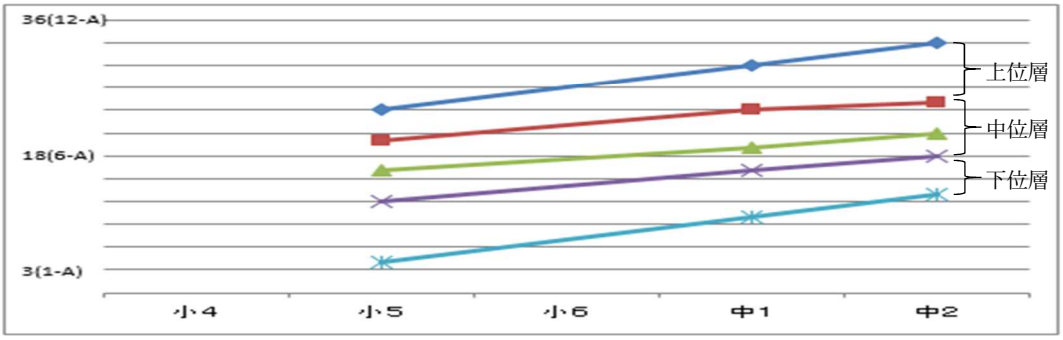
【平成28年度入学（現中学校1年生）】

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するレベル	21	－	27	30	－	－
上位から25%に位置する児童生徒が属するレベル	18	－	22	24	－	－
中央に位置する児童生徒が属するレベル	15	－	18	20	－	－
上位から75%に位置する児童生徒が属するレベル	11	－	15	17	－	－
最下位の児童生徒が属するレベル	1	－	7	10	－	－



【平成27年度入学〈現中学校2年生〉】

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するレベル	－	24	－	30	33	－
上位から25%に位置する児童生徒が属するレベル	－	20	－	24	25	－
中央に位置する児童生徒が属するレベル	－	16	－	19	21	－
上位から75%に位置する児童生徒が属するレベル	－	12	－	16	18	－
最下位の児童生徒が属するレベル	－	4	－	10	13	－



【算数・数学】

○　全ての学年において、児童生徒が属する全てのレベルが上がっており、着実に学力が伸びている。

●　小学校５年生、中学校１年生、中学校２年生においては、上位から２５％～７５％に位置する児童生徒が属するレベルが、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルほど上がっておらず、中位層の児童生徒の「学力の伸び」が少ない。

4　学習指導のポイント

ふくしま学力調査を授業改善等に生かす学習指導のポイントをまとめました。

（１）教科別授業改善の視点では、授業改善の視点を概要的に示しています。

（２）国語、**（３）算数・数学**では、今年度の調査問題から、各学年、各教科一題ずつ選定された公開問題（※）について、県全体の児童生徒の正答率や誤答の状況を示すとともに、学習指導上の課題及び授業改善に生かす指導上のポイントをまとめました。また、「ふくしま活用力育成シート」や「定着確認シート」及び全国学力・学習状況調査問題との関連や活用の仕方等をまとめました。ぜひ授業改善に御活用ください。

なお、ふくしま学力調査は、児童生徒の学力の伸びを正しく捉えるという調査の性質上、問題は原則非公開となっており、問題の秘匿性の保持のため、調査後の問題冊子は回収します。また、コピーや書き写しも禁止となっております。

（１）教科別授業改善の視点

１　国語

①　育成すべき資質・能力を明確にした指導計画の作成

主体的・対話的で深い学びを実現するための

・自身の学びや変容を自覚できる場面

・対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面

・児童生徒が考える場面と教師が教える場面　等

の視点は、１単位時間の授業ごとに考えるのではなく、単元などの一定程度のまとまりごとに検討します。指導事項を基に各時間の具体的な学習活動を構想し、単元の指導と評価の計画を作成することが大切です。

②　言語活動の質の向上

国語科においては、一つの指導事項を年間で複数回繰り返し取り上げて指導することが多くあります。それは、国語科の指導内容が螺旋的・反復的に繰り返しながら資質・能力の定着を図ることを基本としているからです。各学年の学習指導を孤立させず、児童生徒の発達や学習の状況に応じた言語活動を言語活動例を参考にして位置付けます。

③　評価方法の工夫・改善

学習評価は、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を把握して指導の改善に生かすことに重点を置きます。評価の記録に用いる評価については、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、単元などの一定のまとまりの中で、その場面を精選することが大切です。

２　算数・数学

①　ゴールからの授業構想

授業の目標をもとに、その授業で児童生徒がどのような振り返りをするのか、具体的な児童生徒の姿でイメージし、学習課題を設定していきます。そうすることで、授業に芯が通り、課題解決場面でのコーディネートが見えてきます。あくまで、授業のゴールへ向かうレールを引くのではなく、児童生徒の考えをつないでいくことを大切にして授業を構想することが大切です。

②　学びの質を高めるコーディネート

児童生徒が学習内容を自分事として主体的・対話的に学ぶことができるように、教師は授業をコーディネートします。児童生徒が働かせた「見方・考え方」を見逃すことなく注意深く見取り、称賛したり広めたりして深い学びを実現します。そのために、授業では、児童生徒の考えや気付きをつなげる問い返しや、再生・要約など、共有させる働きかけにより、思考に深まりをもたせ、学びの質を高めることが期待できます。

③　適用と振り返り

全体で確認しながら解決した問題を基に、児童生徒自身が数値や条件を変えた問題を自力解決するなど、解決の過程を振り返りながら確かめることができる場を設定しましょう。振り返りながら適用することで、より確かな理解につながったり、新たな問いが生まれたりし、深い学びとなることが期待できます。

※　公開問題は、連携協力協定を結んでいる埼玉県と同一のものであり、必ずしも県全体の課題となっている問題ではありません。本項目で紹介している「指導上のポイント」等を参考に、各学校や各学級において課題となっている部分についてどのような授業改善ができるか考えるヒントにしてください。

（2）国語

小学校　第４学年　国語　１９

問題の学力のレベル
レベル７－Ａ

○ 調 査 問 題

19

酒田さんのクラスでは身の回りの植物や生き物を観察しました。次は、ホウセンカについて【酒田さんが書いた観察カード】と、友人の山本さんが【酒田さんが書いた観察カード】を読んで疑問に思ったことを書いた【山本さんのメモ】です。あなたなら、【山本さんのメモ】のア～ウの中でどれについて調べたいですか。また、どんな方法で調べますか。調べたいメモの記号と、調べる方法を、あとの〈注意〉に合うように書きましょう。

【酒田さんが書いた観察カード】

九月十六日
葉がかれてきて、くきはのびなくなりました。そして、花がさいていたところに実ができていました。実の中にはたくさんの種が入っています。実をさわってみると、はじけて種がとびちりました。

【山本さんのメモ】

ア
どのような花がさいていたのか。

イ
実がはじける植物は他にもあるのか。

ウ
１つの実に種がいくつ入っているのか。

〈注意〉
1 二段落で、三行以上、五行以内で書くこと。
2 一段落目には、【山本さんのメモ】のア～ウの中から、あなたが調べたいメモの記号を一つえらんで書くこと。
3 二段落目には、そのメモについて調べる方法を書くこと。

○ 調 査 問 題 の 趣 旨 ・ 内 容

【問題の趣旨】
○　目的に沿って適切な方法を書く。
【問題の内容】
○　選んだ内容とそれについて調べる方法を二段落構成で書く。

○ 誤 答 分 析

〈正答の条件〉　条件①　調べたいメモの記号を書いている。
条件②　条件①で選んだメモについて調べる方法を適切に書いている。
条件③　二段落構成で書いている。
条件④　三行以上、五行以内で書いている。
条件⑤　一段落目にメモの記号を、二段落目に調べる方法を書いている。

解答類型	**正答 条件のすべてを満たして解答**	条件①、②、④を満たし、③を満たさず解答	条件①、②を満たしているが、③、④、⑤のうち一つ以上を満たさず解答	条件①、③、④を満たし、②を満たさず解答	その他の解答	無解答
解答率	**14.6%**	12.4%	0.6%	2.0%	41.4%	29.0%

○　正答率は、14.6%と低く、多くの児童が解答内容、もしくは形式において適切に条件を満たすことができていない。
○　書いてはいるが、内容もしくは形式要件を満たしていない解答が 41.4%であった。また、無解答率と合わせると全体の約７割を占めている。
○　内容要件は満たしているが、形式要件を満たしていない解答が 13.0%であった。形式については、条件に沿った文章を書く練習を積むことが必要である。

○ 指 導 上 の ポ イ ン ト

内容の中心を明確にして書くことができるようにする指導

書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。**【学習指導要領　第３学年及び第４学年　Ｂ書くこと　イ】**

〈学習活動〉

○学習活動Ⅰ：調べた内容ごとにまとめたメモを自分がより伝えたいと思う順番で並べていくことにより、（報告書における）伝えたい内容の中心を明確にしていく学習。

わたしは、最近よく通っている図書館のひみつやおもしろい所を、クラスの友だちにも知ってほしいな。

Ａさんの話を聞いていたら、ぼくは図書館のおすすめコーナーのことが一番知りたくなったよ。どうしてかというと…。

ねえ、聞いて。わたしが図書館のことで一番伝えたいのは…。その理由は…。二番目は…。

わたしは、図書館での本の借り方を伝えることが一番必要かなと思っていたけれど、みんなの意見を聞いてみると、一番伝えなくてはいけないのは…。

◎指導のポイント：書き手が「一番に伝えたいことは何か、それはなぜか」を考えていくことが、書く内容の中心を明確にしていくことです。さらに、その過程で「聞き手が知りたいのは何か」という客観的視点をもたせることも、相手意識・目的意識の醸成に必要です。

【「授業スタンダード」の視点：「計画・方向付け・見通し」をもたせる】

書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。**【学習指導要領　第３学年及び第４学年　Ｂ書くこと　オ】**

○学習活動Ⅱ：ペア（グループ）で互いの報告書の下書きと構成メモを読み合い、①「相手の下書きのよい所、参考にしたい所はどこか」②「構成メモの内容は（報告書で）述べられているか」③「疑問に思ったこと」④「もっと教えてほしいこと」などの観点で、互いの報告書の清書に対する意見を述べ合う学習。

Ａさんの図書館の報告書でわたしがまねをしたいのは、学校の図書館と比べてしょうかいしようとしているところだよ。特に…。

Ｂさんのおせち料理の報告書で一番参考にしたいと思ったのは、みんなに好きなおせち料理についてアンケートをとって、表にしているところだよ。なぜなら…。

◎指導のポイント：報告書の下書きと構成メモを対照させながら読み合わせることにより、構成メモで意図した内容（の中心）が下書きで述べられているかどうかを互いに確認することができます。より具体的な指摘をし合っているペア（グループ）が話している内容を取り上げ、価値付け及び全体共有ができると、より効果のある学習となります。

【「授業スタンダード」の視点：目的を明確にしたペアでの話合いで新たな気付きや発想を得る】

○活用力育成シート、定着確認シート等の活用

二　次は、ゆうまさんがさなさんとあきさんに自分の説明文を読んでもらい、感想をたずねている様子です。あとの問いに答えましょう。

ゆうまさん　ぼくの説明文を読んで、何か気付いたかな。

さなさん　前に国語の授業で習ったように、文章の文末の表現をそろえた方がいいと思うよ。

ゆうまさん　ありがとう。たしかにそうだね。ぼくが一番伝えたかったことは、カメについて初めてわかったことなんだけど、伝わるかな。

あきさん　伝わってきたよ。内容のまとまりごとに段落を分けたことで、伝えたいことがはっきりしたね。

さなさん　そうだね。読む人にもカメのひみつがよく伝わると思うよ。

【資料３】説明文

カメのひみつ

中田　太郎

ぼくは家でカメをかっています。理科の授業をきっかけに、カメのことをもっと知りたくなり、本やインターネットで調べてみると、今まで知らなかったカメのひみつがわかりました。

一つ目のひみつは、「こうら」です。こうらは、生まれてから三週間くらいにでき、成長とともにかたくなると言われています。てきにおそわれると、かたいこうらに頭や手足をかくして身を守ります。

二つ目のひみつは、「冬みん」です。「冬みん」はヘビやカエルなどの動物が土の中でねむる、たにょうたいで冬をこすことです。カメは気温が下がると体温も下がって動きがおそくなり、地面の中や水の中で動かずにじっとして冬をこします。しゅるいによりますが、野生のミドリガメやイシガメは、気温が十五度以下になると冬みんすると言われています。

このように、カメにはひみつがたくさんある。「ツルは千年、カメは万年」ということわざがあります。カメについてくわしく知ることで、かっているカメを長生きさせられると思います。みなさんも、身近な動物や植物について調べてみてはどうですか。

（二）　ゆうまさんは、さなさんやあきさんの感想をもとに自分の文章のよさを書くことにしました。あなたがゆうまさんなら、どのように書きますか。次の**【条件】**に合わせて書きましょう。

【条件】
○　**【資料３】**のよさを書くこと。
○　書き出しに続くように書くこと。
○　書き出しの文も含めて四十字以上、六十字以内で書くこと。

ぼ	く	の	文
章	の	よ	さ
は	、		

【出典】「活用力育成シート」
令和四年度　第一回　小学四年

問題の学力のレベル
レベル８－A

○ 調 査 問 題

6

次の文の〰〰〰線部の言葉がくわしくしている言葉を、1～4の中から一つ選びましょう。

1 夕方　駅前で　ピアノの　先生に　会った。

2

3

4

○ 調 査 問 題 の 趣 旨 ・ 内 容

【問題の趣旨】
○　修飾・被修飾の関係を理解する。
【問題の内容】
○　被修飾語を選択する。

○ 誤 答 分 析

解答類型	１と解答	２と解答	３と解答	**正答 ４と解答**	無解答
解答率	25.9%	11.6%	25.7%	**35.0%**	1.6%

○　修飾・被修飾の関係を理解し、「駅前で」が詳しくしている言葉を「会った」と解答することができた児童は35.0%であった。
○　多く見られた誤答例として、１「夕方」を選択した児童が25.9%であった。「駅前で」につながる言葉であり、一番近くにあることから、詳しくしている言葉と捉えた児童が多かったと考えられる。また、３「先生に」を選択した児童が全体の25.7%であったことから、「駅前」で「誰に」にあたる言葉を詳しくしていると捉えたと考えられる。

○ 指 導 上 の ポ イ ン ト

修飾語を使って伝えたいことが相手によく分かるように文章を書く指導

間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。　【学習指導要領　第３学年及び４学年　Ｂ書くこと　エ】

〈学習活動〉

○　書いた文章を読み合い、どんな言葉をつけ足すと相手にとって分かりやすい文章になるかを話し合う。

【「授業スタンダード」の視点：目的を明確にしたペアやグループの話合いで新たな気付きを促す】

書いた作文を読み合って、どんな言葉をつけ足すと相手にとって分かりやすい文章になるか、グループで話し合いましょう。
そのあとで、自分の文章につけ足したい言葉を書きましょう。

きのう、ぼくが育てていた花がさきました。
とても、うれしかったので、おばあちゃんに
「花がさいたよ。」
と、大きな声で言いました。

そうか。「花がさきました。」では、どんな花かみんなに伝わらなかったんだ。
「ピンク色の」や「ホウセンカの」って言葉をつけ足そう。やっと１りんさいたこともつたえたいな。

話し合いの後、くわしくする言葉をつけ足した文章

きのう、ぼくが育てていた花がさきました。
とても、うれしかったので、おばあちゃんに
「花がさいたよ。」
と、大きな声で言いました。

ピンク色の

ホウセンカの

一りん

花がさいてよかったね。ところで、花は、いくつさいたのか知りたいな。

何の花がさいたの。色はどんな色なの。

児童自身が間違いなどを正したり、よりよい表現に書き直したりする学習を繰り返し、自分の伝えたいことが相手に伝わったということを実感できるように指導することが大切です。

○活用力育成シート、定着確認シート等の活用

3　二

（1）次のイの文について、〰〰〰部がくわしくしている言葉として適切なものを、あとの１から３までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

イ　ずいぶん長い時間がすぎました。

１　ずいぶん
２　時間が
３　すぎました

（2）次の文について、〰〰〰部がくわしくしている言葉として適切なものを、あとの１から３までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

ウ　すると、一ぴきの大ギツネが、しきりに正太郎のほおやくちびるをなめまわし、ほかの一ぴきは、かれのむねの上にうずくまって、しきりにかれをあたためているのでした。

１　正太郎の
２　ほおやくちびるを
３　なめまわし

【出典】
「令和二年度　全国学力・学習状況調査　使ってみよう学力調査」　小学校国語・算数　調査問題活用の参考資料

問題の学力のレベル
レベル８－Ａ

○ 調 査 問 題

8

次の文の――線部の意味と同じ使い方のものを、あとの1～4の中から一つ選びましょう。

足を止めてよく観察する。

1　いすの足は四本だ。
2　台風で乗客の足がうばわれる。
3　出費がかさんで足が出てしまった。
4　すぐ疲れるのは足が衰えたせいだ。

○ 調 査 問 題 の 趣 旨 ・ 内 容

【問題の趣旨】
○　多義語について異なる意味を理解する。
【問題の内容】
○　いろいろな意味を持つ漢字の中で同じ意味で使われている言葉を選択する。

○ 誤 答 分 析

解答類型	１と解答	２と解答	３と解答	**正答 ４と解答**	無解答
解答率	7.0%	29.6%	13.3%	**49.3%**	0.8%

○　正答率は、49.3%である。「足を止めてよく観察する。」の足の意味は【体を支え、歩いたり、走ったりする機能。】のことであり、選択肢４の「すぐ疲れるのは足が衰えたせいだ。」を選んで解答すればよい。
○　誤答となる選択肢の意味について整理すると、選択肢１「いすの足は４本だ。」の足の意味は【家具・道具などの下部で、支えの部分。】、選択肢２「台風で乗客の足がうばわれる。」の足の意味は【外出・移動に使う、交通手段。】、選択肢３「出費がかさんで足が出てしまった。」の足の意味は【銭の異名。足があるかのように渡り歩くところからいう。】となる。
○　選択肢２を選び誤答となった児童が 29.6%であり、誤答の中でも割合が最も多い。【外出・移動に使う、交通手段。】としての足の意味と【体を支え、歩いたり、走ったりする機能。】としての足の意味には、どちらも動きを連想させ、誤答に繋がりやすかったと考えられる。

○ 指 導 上 の ポ イ ン ト

語句の意味や使い方に対する認識を深め、語彙を豊かにする指導

思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。

【学習指導要領　第５学年及び第６学年　知識及び技能（１）オ】

○　日常の言語活動を振り返ることなどを通して、児童が、実際に話したり聞いたり読んだりする場面を意識できるよう指導を工夫する。

○　理解したり表現したりするために必要な文字や語句については、辞書や事典を利用して調べる活動を取り入れるなど、調べる習慣が身に付くようにする。

【「授業スタンダード」の視点：教材との出合わせ方を工夫し、興味・関心を高め「問い」や「思い・願い」を引き出す　】

①と②では同じ漢字で「引く」だけど意味は違う！

ちょっと立ち止まって、国語辞典で例文を見てみましょう。

潮が引く、熱が引く、痛みが引く、などが同じ意味であるよ。

程度が低い状態に変わる意味での使われ方とあるね。他の意味も見てみよう。

①　空っぽの父の船が瀬で見つかり、仲間の漁師が引き潮を待ってもぐってみると、父はロープを体に巻いたまま、水中でことときれていた。

②　父のもりを体につきさした瀬の主は、何人がかりで引こうと全く動かない。

①　引き潮（引く・潮）

②　引こう（引く）

「引く」の意味は同じかな？

『海の命』立松和平　より

○活用力育成シート、定着確認シート等の活用

三　けい子さんは、「落とし穴」という言葉が何度も使われていることに気付き、【資料】にあるように「落とし穴」の意味を辞書で確認しました。そして、けい子さんは、「落とし穴」という言葉が使われていること、また、それがくり返し使われていることに、筆者の工夫がこめられていると考えました。あなたは、どのように考えますか。次の（1）（2）について、自分の考えを書きましょう。

（1）筆者が「落とし穴」という言葉を使う理由　※【資料】の言葉を参考にすると

05

（2）筆者が「落とし穴」という言葉をくり返し使っている理由

06

【資料】

「落とし穴」の意味

①人や鳥獣をだまして落とすために地面にしかけた穴。

②人をおとしいれる、はかりごと。さくりゃく。

③大きな失敗や不幸につながることでありながら、うっかり見のがしている点。

【出典】

「活用力育成シート」

平成三十年度 第一回 小学六年

問題の学力のレベル
レベル８－Ｃ

○ 調 査 問 題

7

□の文の〜〜〜〜線部を、└└線部の敬語（けいご）と同じ使い方の敬語に直しなさい。

父がそのように申しました。

となりの木村さんの家で夕飯を食べました。

○ 調 査 問 題 の 趣 旨 ・ 内 容

【問題の趣旨】

○　敬語（謙譲語）の種類を正しく理解し適切に使う。

【問題の内容】

○　文中の言葉を例にならって適切な敬語に直して書く。

○ 誤 答 分 析

解答類型	**正答**	尊敬語に直している解答	その他の解答	無解答
解答率	**70.3%**	13.5%	14.1%	2.1%

○　「いただく」という謙譲語を使って正しく解答している生徒は 70.3%であった。

○　「めしあがった」「お食べになった」「食べられた」など、尊敬語に直して解答した生徒は 13.5%であった。

○　「日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること」は小学校第 5 学年及び第 6 学年で学んでいる。小学校での学習を踏まえ、個別的・体験的な知識を整理して体系付けるとともに、人間関係の形成や維持における敬語のもつ働きを十分に理解するように指導することが大切である。

○ 指 導 上 の ポ イ ン ト

相手や場に応じた敬語や言葉遣いを理解し、使い慣れるための指導

日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。
【小学校学習指導要領　第５学年及び第６学年 知識及び技能（１）キ】

小学校での学習を踏まえ、敬語も含め広く相手や場に応じた言葉遣い全般について指導することが必要です。公的な場面で改まった言葉遣いをすることのほか、会話をしたり手紙を書いたりする際に、相手と自分との関係を意識しながら、適切な語句を選んで用いる力を身に付けられるように、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」などと関連を図りながら繰り返し指導しましょう。

「話すこと・聞くこと」や「書くこと」と、言葉遣いや敬語を組み合わせて学べるように、言語活動の内容や場面設定を工夫して単元や授業を構想しましょう。

＜例＞　・インタビューなどをして、必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動
　　・行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く活動

体験学習でインタビューした内容を地域の方に発表するから、敬語の使い方に気をつけよう

小学生に中学校の生活を紹介するには、どんな言葉遣いをするといいかな

子どもたち一人一人が、敬語の使い方や言葉遣いが適切かを確かめたり、自分の表現のよい点や改善点を見いだしたりできるように、「ペアやグループでの話合い」と、それをもとにもう一度自分で考える時間を授業の中に位置付けましょう。

**【「授業スタンダード」の視点：ねらいを明確にして単元や本時の授業をつくる
「ペアやグループでの話合い」で思考を整理し、新たな気付きを得る】**

○活用力育成シート、定着確認シート等の活用

4

総合的な学習の時間で、地元の伝統工芸である「焼き物」について調べている青木さんのグループは、「ふるさと焼き物館」で焼き物作りの体験をしたいと考え、担当者とメールのやりとりをしています。次は、青木さんが送信した**【一回目のメール】**、**【担当者からの返信メール】**、青木さんが送信する**【二回目のメールの下書き】**です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

青木さんが送信した【一回目のメール】

宛先：△△△△@△△△△.△△.jp
件名：焼き物作りの体験について

2021/05/12

ふるさと焼き物館　御中

初めてメールを差し上げます。
第一中学校３年の青木太郎と申します。
私たちは，今，学校の授業で地元の伝統工芸である焼き物について学んでいます。地元の土や製法には，他の焼き物にはない特徴があることにとても興味をもっています。調べていく中で，ふるさと焼き物館で焼き物作りの体験ができることを知り，地元の焼き物についての理解を深めるためにも，実際に作ってみたいと考えました。
できましたら，６月16日（水）の午後に４名で体験したいのですが，まだ受け付けているコースがあれば教えてください。
よろしくお願いいたします。

第一中学校　青木　太郎

【担当者からの返信メール】

宛先：△△△△@△△△△.△△.jp
件名：Re: 焼き物作りの体験について

2021/05/13

第一中学校　青木　太郎　様

ふるさと焼き物館の前田です。焼き物に興味をもってくださり大変うれしく思います。ご希望の６月16日（水）の午後は，以下のコースの受付が可能です。
〈Ａコース〉粘土を①伸ばして板状にし，皿を作ります。
〈Ｂコース〉ろくろ台（回転台）を用いて花瓶を作ります。
ご希望のコースとそれぞれの参加人数が決まりましたら，メールでお知らせください。どちらのコースも14時から開始しますので，遅れないようにいらっしゃってください。
なお，地元の土や製法の②詳細については，当日ご説明しますが，他にも知りたいことがありましたら，体験中に③随時お尋ねになってください。
ご連絡をお待ちしております。

ふるさと焼き物館　前田　花子

青木さんが送信する【二回目のメールの下書き】

宛先：△△△△@△△△△.△△.jp
件名：Re: Re: 焼き物作りの体験について

2021/05/14

ふるさと焼き物館　前田　花子　様

第一中学校の青木です。ご返信くださりありがとうございます。
希望のコースと人数ですが，Ａコース２名，Ｂコース２名でお願いいたします。当日は開始時刻の10分前に④行く予定です。

なお，

第一中学校　青木　太郎

三　――線部④「行く」とありますが、「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類を次の１から３までの中から一つ選びなさい。

１　尊敬語
２　謙譲語
３　丁寧語

【出典】
「全国学力・学習状況調査」
令和三年度　中学校　国語

問題の学力のレベル
レベル９－Ａ

○ 調 査 問 題

5　次の文の――線部の「春になると」と「染まる」の関係として適切なものを、あとの１～４の中から一つ選びなさい。

この土手は、春になると満開の桜が咲きほこり、ピンク一色に染まる。

1　主語と述語の関係
2　並立の関係
3　修飾と被修飾の関係
4　補助の関係

○ 調 査 問 題 の 趣 旨 ・ 内 容

【問題の趣旨】
○　修飾・被修飾の関係を理解する。
【問題の内容】
○　文節同士の関係として適切なものを選択する。

○ 誤 答 分 析

解答類型	１と解答	２と解答	**正答 ３と解答**	４と解答	無解答
解答率	15.2%	12.9%	**53.8%**	17.6%	0.4%

○　正答である「修飾と被修飾の関係」とした解答率は 53.8%、「その他の解答」の解答率は 45.7%と高く、無解答率は 0.4%と低い。
○　誤答例としては、選択肢４「補助の関係」と解答しているものの割合がやや多い。１年時の「文の成分どうしの関係」における修飾と被修飾の照応についての知識が不十分である、または、２年時の「活用する自立語」における補助動詞・補助形容詞など単語についての知識と、文の成分どうしの関係についての知識が混在し、区別がついていないことが考えられる。

○ 指 導 上 の ポ イ ン ト

表現の効果を確かめて、手紙を推敲する指導

表現の工夫とその効果などについて，読み手からの助言などを踏まえ，自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。　【中学校学習指導要領　第２学年　Ｂ書くこと　オ】

＜授業例＞
小学校の恩師に出す手紙の下書きを書く。
1　漢字や仮名遣いを見直す。
2　読む相手に伝わりやすい文章になっているかを級友と話し合う。
3　推敲の観点をまとめる。
ア：効果的な表現
イ：読む相手への配慮
ウ：言葉の使い方や意味

【下書き】
○○先生お元気ですか。（中略）
夏になると、グラウンドの思い出です。現在、新人陸上大会に向け、練習は厳しいのですが、頑張っています。私の目標は、リレーチームで一位になりたいです。（後略）

【推敲】
○○先生お元気ですか。（中略）
夏になると、グラウンドの思い出です。→先生の元気なランニング姿が思い出されます。現在、新人陸上大会に向け、練習→しています。とても厳しいのですが、頑張っています。私の目標は、リレーチームで一位になりたいです。→なることです。

文が長いと、読みづらいね、どこかで切れないかな？（観点ア）

恩師に「懐かしい」と感じてもらえるような表現はないかな？（観点イ）

主語・述語や修飾語・被修飾語の関係を整理した方が、すっきりするよね。（観点ウ）

自分の文章のよい点を見いだすためには、「記述で工夫したこと」「工夫した理由」など、根拠や理由を基に考えを共有・吟味しましょう。
自分の文章の改善点を見いだすためには、今後、様々な書く場面で活用できるような、「推敲の観点」を身に付けましょう。

【「授業スタンダード」の視点：目的を明確にしたペアやグループの話合いで思いや考えを広げ深める】

○活用力育成シート、定着確認シート等の活用

8

四　次の各問いに答えなさい。

1　次の言葉の意味として最も適切なものを、あとの１から４までの中から一つ選びなさい。

心を打たれる

1　遠慮する。
2　感動する。
3　一つのことに集中する。
4　あれこれと心配する。

2　「心を打たれた。」を文末に用いた一文を書きなさい。なお、「心を打たれた。」の主語を明らかにした上で、「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書くこと。

【出典】「全国学力・学習状況調査」平成三十年度　中学校　国語Ａ

（３）算数・数学

小学校　第４学年　算数　3（４）

問題の学力のレベル
レベル７－Ａ

○ 調 査 問 題

（４）あめが２８こあります。１人に４こずつ分けたら、７人に分けられました。
この３つの数の関係（かんけい）を、あめ全部の数、１人分のあめの数、人数 を使って、
言葉の式で表したものを、次の㋐から㋓の中から１つえらびましょう。

㋐ 人数 ÷ １人分のあめの数 ＝ あめ全部の数
㋑ 人数 ÷ あめ全部の数 ＝ １人分のあめの数
㋒ １人分のあめの数 × 人数 ＝ あめ全部の数
㋓ あめ全部の数 × 人数 ＝ １人分のあめの数

○ 調 査 問 題 の 趣 旨 ・ 内 容

【問題の趣旨】
○　数量の関係を式に表すことができる。
【問題の内容】
○　ある数量の関係を言葉の式で正しく表したものを選ぶ。

○ 誤 答 分 析

解答類型	アと解答	イと解答	**正答 ウと解答**	エと解答	その他の解答	無回答
解答率	13.7%	19.9%	**27.5%**	36.9%	0.1%	1.9%

○　この問題では、問題文の意味を正しく理解し、数量の関係を正しく式に表すことが大切である。正答率は、27.5%であり、除法の意味理解や式の読み方について課題があると思われる。

○　36.9%の児童が、「エ」と解答している。これは、初めて問題文に出てきた数量が「あめ全部の数」だったため、その言葉が式の初めにある「エ」を選択したと考えられる。
　また、問題文の「分けたら」という言葉から、わり算の式を用いて数量の関係を表せると考え、（あめ全部の数）÷（人数）＝（１人分のあめの数）と、とらえてしまった誤りだと考えられる。

○　指導にあたっては、問題文の意味を理解するため、数量の関係を図や式を用いて簡潔に表したり、友達に説明したりする活動を取り入れることが大切である。そうすることで、数学的な見方・考え方を働かせながら、図と式を関連付けて数量の関係を理解することができる。
　また、事柄や関係を読み取ったり、より正確に考察したりする活動も必要である。そうすることで、より具体的な問題場面を想起し、数量の関係を正確に把握したりすることができる。

○ 指 導 上 の ポ イ ン ト

数量の関係に着目して、数量の関係を図や式を用いて簡潔に表したり，式と図を関連付けて式を読んだりして、それらを生かすことができるようにする指導

除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

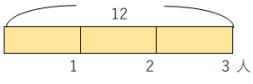
【学習指導要領　第３学年　A　数と計算　A（４）ア（イ）除法】

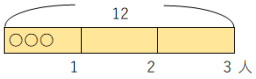
<学習活動①>　式に表す学習活動

○　「12 個のあめを 3 人に同じ数ずつ分ける」場面の様々な表現を関連付ける活動を通して、式のよさを味わう。

どんな表し方があるかな？

テープ図に表すとこれでいいのかな？





言葉の式に表すと、(全部のあめの数) ÷ (人数) = (１人あたりのあめの数) です。

式って簡潔だね！
式に表すって面白いね！

操作しながら説明してみましょう。

<学習活動②>　式を読み取る学習活動

○　15÷3 の式から「みかんが 15 個あります。1 人に 3 個ずつ分けると何人に分けられますか。」というような問題場面を見いだす活動を通して、式と具体的な問題場面を関連付けることができるようにする。

１つの式から、異なる具体的な問題場面をイメージできて素晴らしい！

だったら、21÷７でも同じように考えられるかな？

【「授業スタンダード」の視点：子どもたちが働かせた「見方・考え方」を見逃すことなく注意深く見取り、称賛したり広めたりして、「深い学び」を実現する】

○活用力育成シート、定着確認シート等の活用

はるなさん，えみさん，てつやさんの３人は，それぞれ次の式を立てて考えようとしています。

はるなさん　８×７＝５６　……　ア

えみさん　６０÷８＝７　あまり　４　……　イ

てつやさん　６０÷７＝８　あまり　４　……　ウ

この目標では，読み終えることはできません。

（２）　上の**ア～ウ**の式は，それぞれ何を調べるための式ですか。
次の１～３の中から１つずつ選んで，それぞれ番号を書きましょう。

1　目標どおり読んだときにかかる日数
2　１日あたり読むことができるページ数
3　１週間で読むことができるページ数

ア		イ		ウ	

【出典】
「活用力育成シート」
令和元年度　第１回　小学４年

小学校　第５学年　算数　3（5）

問題の学力のレベル
レベル７－C

○ 調 査 問 題

3（5）ゆうたさんは水泳（すいえい）の練習をしています。

月曜日にクロールで泳いだきょりの記録は２０ｍ、木曜日の記録は３０ｍでした。月曜日の記録をもとにすると、木曜日の記録は何倍ですか。答えを書きましょう。

○ 調 査 問 題 の 趣 旨 ・ 内 容

【問題の趣旨】
○　倍を表す数が小数のとき、何倍かを求めることができる。

【問題の内容】
○　小数を用いて、何倍かを表す。

○ 誤 答 分 析

解答類型	**正答　1.5（倍）　または　$\frac{3}{2}$（倍）　と解答**	その他の解答	無解答
解答率	**43.8%**	53.0%	3.3%

○　この問題の正答率は43.8%であり、53.0%の児童が誤った解答をしている。倍を表す場合の立式に課題が見られる。

○　誤答には、10（倍）、1（倍）、0.5（倍）が見られた。ここから「30－20＝10」と差で求めたり、「20÷30＝0.5」ともとにする量を割ってしまったりしていることが考えられる。

○　第４学年では、ある量の何倍かを表すのに小数を用いてもよいことを指導し、「基準量を１としたときに幾つに当たるか」という拡張した「倍」の意味について理解できるようにする。また「簡単な場合についての割合」についても学習する。その際に、差による比べ方と対比することで、基準とする数量を１とみると他方の数量がどれだけ当たるのかという割合を用いた比べ方の特徴に気付かせたい。

実際の授業では「もとにする大きさ」、「１とみる」、「くらべられる大きさ」といった割合に関する言葉と、これまでの学習で使用してきた具体物、図、式、表やグラフなどを活用したり関連付けたりして、問題を解決して結果を確かめたり、発展的に考察する活動を位置付けたりするなど、繰り返し丁寧に指導することを大切にしたい。

○ 指 導 上 の ポ イ ン ト

商の意味を考える活動を通して、小数を用いて倍を表す場合があることを理解できるようにする指導

算数の学習場面から算数の問題を見いだして解決し、結果を確かめたり、発展的に考察したりする活動　**【学習指導要領　第４学年　数学的活動（１）イ】**

長いテープの長さ（２ｍ）は短いテープ（50ｃｍ）の長さの何倍でしょう。※数値示さず

長さはわからないけど４倍くらいかな。

本当にそうかな？

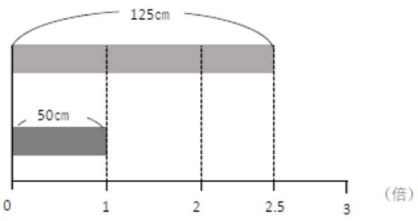
実際にテープを使っていくつ分（倍）あるか調べたい。

長さを測ると長いテープの長さは２ｍ、短いテープの長さは 50 ㎝だったよ。２ｍは 200 ㎝だから計算すると 200÷50＝４で４倍になったよ。計算でも求められるね。

今度のテープの長さ（125ｃｍ）は、短いテープの長さの何倍といえるでしょう。

２倍とちょっとといえそう。実際に調べてみたい。

調べてみたら、二つ分と半分、だから２倍と半分だね。



長さは 125ｃｍだったよ。計算でも調べてみると 125÷50＝2.5 だから 2.5 倍といえるね。

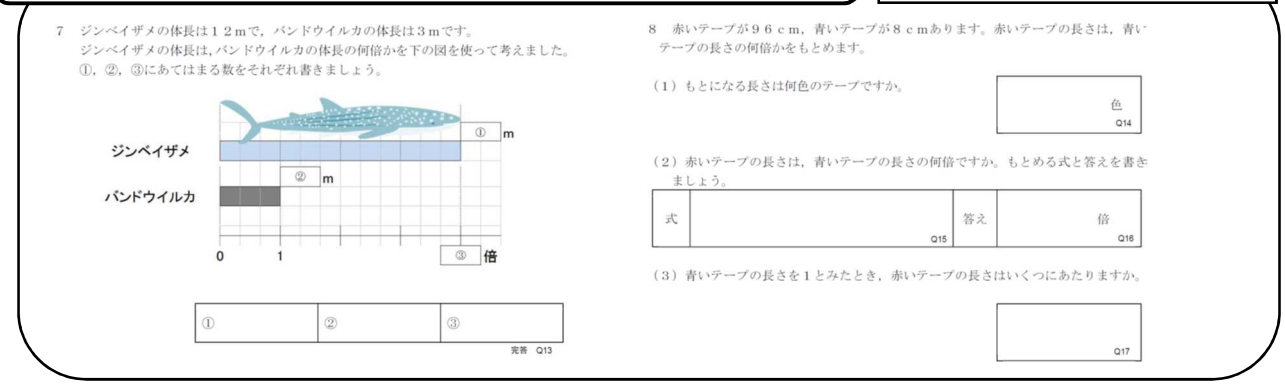
上の図のように「基準量（もとにする量）を１としたときに、いくつにあたるかが倍の考え方ですね。」この場合は、２つ分と半分と考えられましたね。ある量の何倍かを表すのに小数を用いてもよいですね。

これまでの学習で使用してきた具体物、図、式、表やグラフなどを活用して問題を解決し、結果を確かめ、発展的に考察する活動を位置付けることが大切です。

【「授業スタンダード」の視点：子どもたちの考えを基に話し合いをコーディネートし、ねらいに迫る】

○活用力育成シート、定着確認シート等の活用

【出典】「定着確認シート」
平成２９年度　第２回　小学４年



7　ジンベイザメの体長は１２ｍで，バンドウイルカの体長は３ｍです。
ジンベイザメの体長は，バンドウイルカの体長の何倍かを下の図を使って考えました。
①，②，③にあてはまる数をそれぞれ書きましょう。

①	②	③

完答　Q13

8　赤いテープが９６ｃｍ，青いテープが８ｃｍあります。赤いテープの長さは，青いテープの長さの何倍かをもとめます。

（1）もとになる長さは何色のテープですか。

色　Q14

（2）赤いテープの長さは，青いテープの長さの何倍ですか。もとめる式と答えを書きましょう。

式		答え	
	Q15		倍 Q16

（3）青いテープの長さを１とみたとき，赤いテープの長さはいくつにあたりますか。

Q17

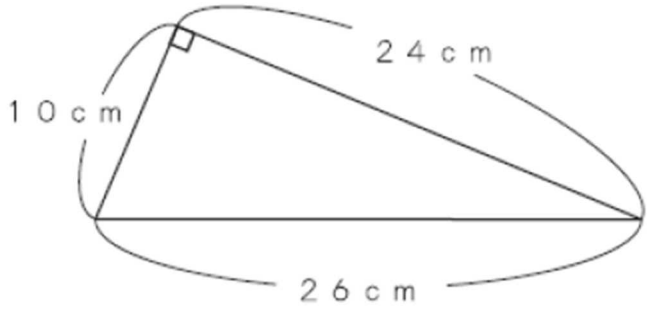
小学校　第６学年　算数　4（1）

問題の学力のレベル
レベル８－Ｃ

○ 調 査 問 題

4

（1）次の直角三角形の面積を求めましょう。



○ 調 査 問 題 の 趣 旨 ・ 内 容

【問題の趣旨】
○　三角形の面積の求め方について理解している。
【問題の内容】
○　三角形の面積を求める。

○ 誤 答 分 析

解答類型	**正答 120（cm²）と解答**	その他の 解答	無解答
解答率	**46.5%**	49.4%	4.1%

○　この問題の正答率は46.5%あった。底辺をどこにとるかで高さが決まること、既習の図形の面積の求め方に帰着して、正しく公式を選択し計算で求めることに課題がある。
○　誤答の原因として、「26×10÷2」のように底辺と高さの関係を正しく理解できていないことが考えられる。また、「24×10」、「26×24×10」のように公式を正しく適用できていないことも考えられる。授業の中で、必要な情報を自ら選び出し面積を求める経験が少ないことや、三角形の面積を求める公式の意味が十分に理解できていないと考えられる。
○　指導に当たっては、多様な数学的活動の場面を設定し、求積のためにどの部分の長さが必要か考える場面を設けたり、導き出した公式についてどこの長さに着目すると面積を求めることができるのか、振り返って考えさせる場面を設定したりする活動を通して、求積の理解を深められるようにしたい。

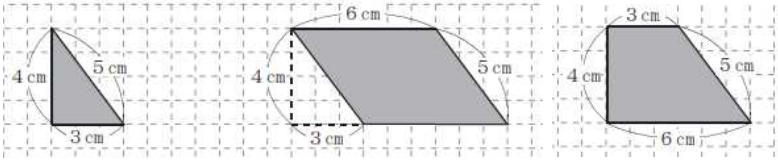
○ 指 導 上 の ポ イ ン ト

三角形の面積を求める際に必要となる底辺と高さを、与えられた図形の中から選び出せるようにするための指導

図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。

【学習指導要領　第５学年　Ｂ図形　Ｂ（３）イ（ア）】

必要な情報を選び出し、面積を求める活動



面積を求めるには、どうしたらいいかな?

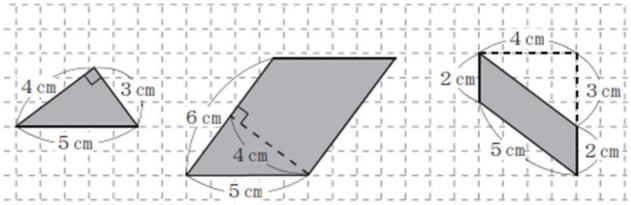
三角形の面積を求めるには、底辺と高さが必要だけど、どれかな？

長方形を思い出してみようよ。たての長さと横の長さで考えてみるといいね。

直角三角形は長方形の半分になっているね。たてと横にあたる４cm と３cm で長方形の面積を求めて、半分にすれば求められるね。

平行四辺形や台形でも同じように考えれば求められるね。

今度は図形の向きが変わったけど、どこの長さを底辺と高さにすればいいのだろう？



底辺と高さはどんな関係だったかな？

図形の１つの辺が底辺で、底辺とそれに平行な辺の間の垂直な線が高さです。だから、垂直の関係にあるのは、４cm と３cm の辺が底辺と高さになります。

Ｒ３　全国学力・学習状況調査報告書

平行四辺形も同じように考えると、底辺が６cm、高さが４cmで６×４で求められるね。

底辺をどこにするかによって高さも変わります。このように、図形のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのかを考えさせることが大切です。必要な情報を選び出したり、不足している場合はほかにどこの長さが必要かを考えたりして面積を求めることができるようにすることが大切です。

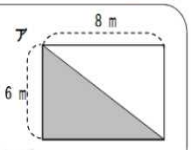
【「授業スタンダード」の視点：「見方・考え方」を共有し、既習の内容と関連付けることで深い学びを実現する。】

○活用力育成シート、定着確認シート等の活用

【出典】
「活用力育成シート」
令和元年度　第３回　小学５年

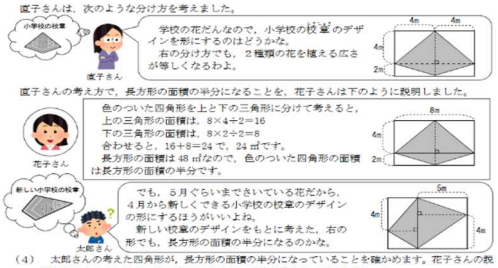
1　右のような長方形の形をした花だんに，シクラメンとパンジーの花を植えることになりました。花子さんたちは，２種類の花を，植える広さが等しくなるように，長方形の花だんを半分に分ける方法を考えています。

花子さん：花だんを，アのように分けてみたよ。
白い部分にシクラメンを，色がついている部分にパンジーを植えるように考えたわ。
花だんの面積は，6×8=48 で 48 ㎡。
パンジーを植える部分の面積を求める式は，
［　①　］で，面積は［　②　］㎡です。
アのように分けると，長方形の面積が半分になるといえるね。



（1）　花子さんが説明している①，②に当てはまる式や数を書きましょう。

①		②	



（4）　太郎さんの考えた四角形が，長方形の面積の半分になっていることを確かめます。花子さんの説明と同じように，四角形を三角形に分けて，言葉や式を使って書きましょう。

中学校　第１学年　数学　4（4）

問題の学力のレベル
レベル８－C

○ 調 査 問 題

4（4）次の表は、20 個の卵の重さを 5g ずつに区切って、その個数を整理したものです。60g 以上の卵の割合は全体の何%か求めなさい。

卵の重さ

重さ（g）	個数（個）
40 以上 ～ 45 未満	1
45 ～ 50	0
50 ～ 55	4
55 ～ 60	3
60 ～ 65	4
65 ～ 70	6
70 ～ 75	2
合計	20

○ 調 査 問 題 の 趣 旨 ・ 内 容

【問題の趣旨】

○　度数分布表から特定の範囲以上の割合を求めることができる。

【問題の内容】

○　度数分布表からある範囲の割合を求める。

○ 誤 答 分 析

解答類型	**正答 60(%)と解答**	12(%)と解答	20(%)と解答	75(%)と解答	その他の解答	無解答
解答率	**57.0%**	5.8%	3.5%	1.3%	24.2%	8.2%

○　「12%」と解答した生徒が 5.8%であった。これは、「60g 以上の卵の割合」ということについて、「60g 以上」は捉えることができたが、「卵の割合」を「卵の個数」と誤って捉えていると考えられる。また、その他の解答の中には、「15%」と解答した生徒が 7.5%であった。これは、「55g 以上 60g 未満の個数」を含めて「60g 以上の卵の個数」を求めてしまった誤りと考えられる。

○　量的データの分布の様子や特徴を捉えるために、統計的な処理の方法としての度数分布表にまとめたり読み取ったりする活動を通して、数量を階級に分け、各階級に入る度数を対応させた表であることを理解させ、分布の様子を数量的に捉えやすくなることを実感させる必要がある。

○　無解答の生徒が 8.2%であったことから、割合を求めることをあきらめている生徒が下位層に存在することが考えられる。改めて、基準量と比較量をこれらの図や式に適切に表すこと、また、図や式から数量の関係を整理して捉えた上で、基準量と比較量を適切に選択し、割合を求められるようにすることが必要である。

○ 指 導 上 の ポ イ ン ト

度数分布表からデータのいろいろな特徴を読み取るための指導

度数分布を表す表やグラフの特徴及びそれらの用い方を理解すること。
【学習指導要領　第６学年　Ｄデータの活用　Ｄ（１）ア（イ）】

卵の重さ

重さ（g）	個数（個）
40 以上 ～ 45 未満	1
45 ～ 50	0
50 ～ 55	4
55 ～ 60	3
60 ～ 65	4
65 ～ 70	6
70 ～ 75	2
合計	20

最も度数が多い階級は？

65g 以上 70 g 未満です。

なぜそう思ったの？

度数が 6 個で、最も多いからです。

なるほど。その度数の割合は、全体の度数の合計の何%かな？

全体の度数の合計は、20 個だから…、6÷20 で…、0.3 です。

本当に 6÷20 でいいの？

6÷20 で大丈夫。でも、何%と聞いているから、0.3 はちがう。30%だよ。

そうか！0.3 は 30%だった！

そうだね。0.3 は 30%に言いかえられるね。もし 65g 以上の卵の割合だったら、全体の何%になるのかな？

65g 以上は、全部で 8 個あるから…。8÷20＝0.4 で、40%！

40%って、全体の半分より多いということ？少ないということ？

半分よりは少ないです。なぜなら、半分は 50%だから。

それでは、何 g 以上だったら、全体の半分より多いといえる？

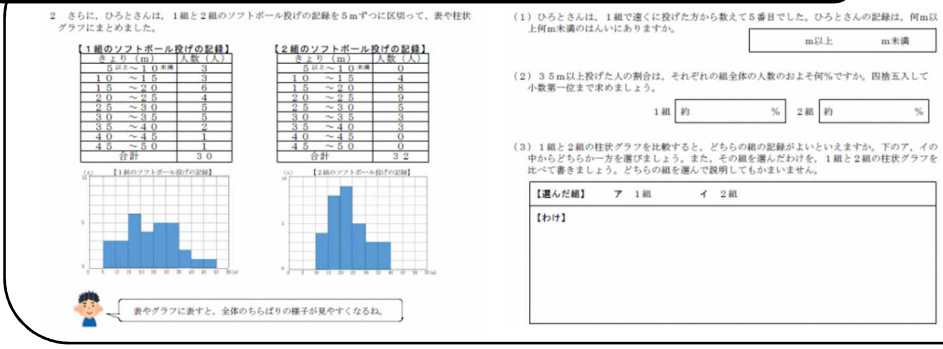
50g 以上…。60g 以上でも多いといえるかも…。

60g 以上でもいえるよ。60g 以上の卵の割合は、全体の 60%になるから。

集められたデータについて、言葉や数値などの情報の要点を端的に把握するためにも、またグラフなどに表すためにも表に整理し、特徴や傾向を把握することは大切です。

【「授業スタンダード」の視点：子どもたちの考えを基に話合いをコーディネートし、ねらいに迫る】

○活用力育成シート、定着確認シート等の活用


2　さらに、ひろとさんは、１組と２組のソフトボール投げの記録を５ｍずつに区切って、表や柱状グラフにまとめました。

【１組のソフトボール投げの記録】

きょり（m）	人数（人）
5 以上～10 未満	3
10 ～15	3
15 ～20	6
20 ～25	4
25 ～30	5
30 ～35	5
35 ～40	2
40 ～45	1
45 ～50	0
合計	30

【２組のソフトボール投げの記録】

きょり（m）	人数（人）
5 以上～10 未満	0
10 ～15	4
15 ～20	8
20 ～25	9
25 ～30	5
30 ～35	3
35 ～40	3
40 ～45	0
45 ～50	0
合計	32

【１組のソフトボール投げの記録】

【２組のソフトボール投げの記録】

表やグラフに表すと、全体のちらばりの様子が見やすくなるね。

（１）ひろとさんは、１組で遠くに投げた方から数えて５番目でした。ひろとさんの記録は、何m以上何m未満のはんいにありますか。

m以上　　m未満

（２）３５m以上投げた人の割合は、それぞれの組全体の人数のおよそ何%ですか。四捨五入して小数第一位まで求めましょう。

１組　約　　%　２組　約　　%

（３）１組と２組の柱状グラフを比較すると、どちらの組の記録がよいといえますか。下のア、イの中からどちらか一方を選びましょう。また、その組を選んだわけを、１組と２組の柱状グラフを比べて書きましょう。どちらの組を選んで説明してもかまいません。

【選んだ組】　ア　１組　　イ　２組

【わけ】

【出典】
「活用力育成シート」
令和元年度　第３回
小学６年

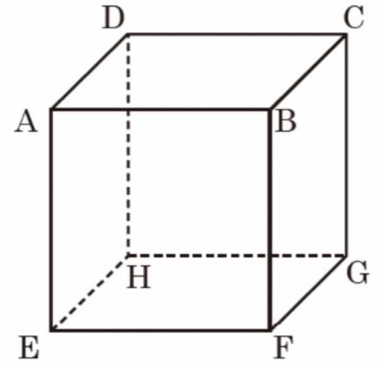
中学校　第２学年　数学　3（4）

問題の学力のレベル
レベル９－Ａ

○ 調 査 問 題

3（4）次の図のような立方体があります。辺 AD と平行な面はどれですか。下の**ア**から**カ**の中から**すべて**選びなさい。

ア　面 AEFB
イ　面 BFGC
ウ　面 CGHD
エ　面 DHEA
オ　面 ABCD
カ　面 EFGH



○ 調 査 問 題 の 趣 旨 ・ 内 容

【問題の趣旨】
○　立体における平行な面について理解している。

【問題の内容】
○　立体において、ある辺と平行な面をすべて選ぶ。

○ 誤 答 分 析

解答類型	**正答 イ、カと解答**	イのみ 解答	カのみ 解答	イに加えカ 以外を解答	カに加えイ 以外を解答	その他の 解答	無解答
解答率	**45.0%**	10.1%	4.4%	4.9%	4.6%	30.2%	0.7%

○　「イ、カ」と解答して正答した割合は 45.0%であり、空間における直線や平面の位置関係の理解に課題がある。
○　「イ」または「カ」のいずれかを選択しての誤答の割合が合計で 24.0%であるのに対して、その他の誤答が 30.2%であった。垂直な関係を見いだして「ア、ウ」を選択した誤答が考えられるが、「イ、カ」の他に平行ではない面（エやオのように辺ＡＤを含む面）を選択した誤答も多いと考えられる。
○　直線や平面の位置関係についての指導に当たっては、観察や操作、実験などの活動を通して、直線や平面の位置関係の捉え方が生かされるような具体的な場面を取り入れることが大切である。実際に立体を作って観察したり、それを用いて説明したりする活動を通して、直線や平面の位置関係を理解できるような機会を設けることに配慮する。

○ 指 導 上 の ポ イ ン ト

立体の考察を通して空間における直線や平面の位置関係を理解できるようにする指導

空間における直線や平面の位置関係を知ること。
【学習指導要領　第１学年　Ｂ図形　Ｂ（２）ア（ア）】

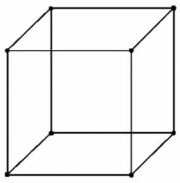
1　直線や平面の位置関係を体系的に捉える。

直線や平面の位置関係をまずは「交わる」「交わらない」で分けてみましょう。

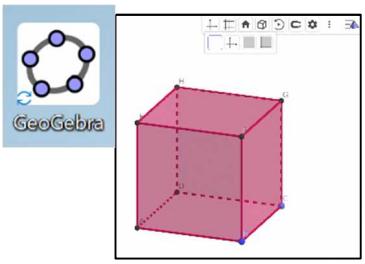
	交わる		交わらない	
直線ℓと直線 m	交わる（交点）		平行	ねじれの位置
直線ℓと平面Ｐ	交わる（交点）	含む	平行	
平面Ｐと平面Ｑ	交わる（交線）		平行	

2　立体模型に触れたり、コンピュータを利用したりするなどして、様々な角度や視点から観察する。

見取り図を見て考えるだけでなく、辺だけで立体を組み立てることによって、模型の内部からの視点で立体の辺や面の関係を探ってみましょう。



面に紙を当てると、直線と平面の位置関係がはっきりとわかるね。

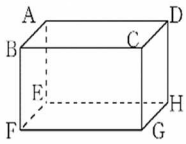


デジタルコンテンツやソフト（アプリ）を活用して、立体を動かしたり回転させたりしながら様々な角度から立体を見ることで、立体の辺や面の関係を観察しましょう。

【「授業スタンダード」の視点：計画・方向付け・見通しをもたせ、目的意識をもった粘り強い取組を促す。】

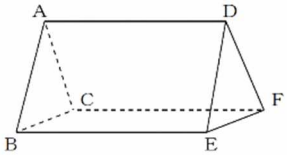
○活用力育成シート、定着確認シート等の活用

【出典】
「定着確認シート」
平成２２年度　第５回　中学１年



（1）　面ＥＦＧＨと垂直な辺をすべて書きなさい。
（2）　辺ＢＦとねじれの位置にある辺をすべて書きなさい。
（3）　面ＡＢＦＥと平行な面はどれですか。

【出典】
「定着確認シート」
平成２４年度　第６回　中学１年



（1）∠ＡＢＥの大きさは何度ですか。
（2）面ＡＢＥＤと面ＢＥＦＣのつくる角は何度ですか。
（3）辺ＢＥと平行な辺をすべて書きなさい。
（4）辺ＥＦとねじれの位置にある辺をすべて書きなさい。
（5）面ＡＢＥＤと垂直な面をすべて書きなさい。

【その他】
「定着確認シート」
平成２５年度　第５回　中学１年
平成２７年度　第５回　中学１年
平成２８年度　第５回　中学１年
平成２９年度　第５回　中学１年

5　「非認知能力」・「学習方略」等に関する分析について

（１）「非認知能力」について

テストで計測される学力やＩＱなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものです。本調査では**「自制心」「自己効力感」「勤勉性」「やりぬく力」「向社会性」**の５種類について質問しています。

①　自制心	自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力

（例）　イライラしていても人に八つ当たりしない　など

【児童生徒質問紙の項目】中学校１年生に質問

- 授業で必要なものを忘れた
- 他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした
- 何からん暴なことを言った
- つくえ・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった
- 家や学校で頭にきて人や物にあたった
- 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった
- きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた
- イライラしているときに、先生や家の人（兄弟姉妹は入りません）に口答えをした

（出典）Tsukayama,E.,Duckworth, A. L.,& Kim,B.(2013).
Domain-specific impulsivity in school-age children.
Developmental Science, 16, 879-893.

②　自己効力感	自分はそれが実行できるという期待や自信

（例）　難しい問題でも自分ならできると考えられる　など

【児童生徒質問紙の項目】すべての学年に質問

- 授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている
- 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う
- 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う
- 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う
- 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う
- 学校でよい成績をとることができると思う
- 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う
- 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっている方だと思う

（出典）P. Pintrich, et al.(1991)
A Manual for the Use of the Motivated Strategies for Learning Questionnaire(MSLQ)

③　勤勉性	やるべきことをきちんとやることができる力

（例）　宿題が出されたらきちんと終わらせる　など

【児童生徒質問紙の項目】小学校６年生に質問

- うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります
- ものごとは楽しみながらがんばってやります
- 自分がやるべきことにはきちんとかかわります
- 授業中は自分がやっていることに集中します
- 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度もかくにんをします
- ルールや順番は守ります
- だれかと約束をしたら、それを守ります
- 自分の部屋やつくえのまわりはちらかっています
- 何かを始めたら、ぜっ対終わらせなければいけません
- 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです
- 宿題を終わらせてから、遊びます
- 気が散ってしまうことはあまりありません
- やらないといけないことはきちんとやります

（出典）Barbaranelli, C., Caprara, G. V., Rabasca, A., & Pastorelli, C.(2003).
A questionnaire for measuring the Big Five in late childhood.
Personality and Individual Differences, 34(4), 645-664.

④　やりぬく力	自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力

（例）　失敗を乗り越えられる　など

【児童生徒質問紙の項目】小学４年生に質問

- 大きな課題をやりとげるために、失敗をのりこえてきました
- 新しい考えや計画を思いつくと、前のことからは気がそれてしまうことがあります
- 興味をもっていることや関心のあることは、毎年変わります
- 失敗しても、やる気がなくなってしまうことはありません
- 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます
- 何事にもよくがんばるほうです
- いったん目標を決めてから、そのあとべつの目標に変えることがよくあります
- 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中し続けることができません
- 始めたことは何でも最後まで終わらせます
- 何年もかかるような目標をやりとげてきました
- 数か月ごとに、新しいことに興味をもちます
- まじめにコツコツとやるタイプです

（出典）Duckworth, A. L., Peterson, C., Matthews, M, D., & Kelly, D. R.(2007).
Grit: Perseverance and passion for long-term goals.
Journal of Personality and Social Psychology, 92(6), 1087-1101.

⑤　向社会性	外的な報酬を期待することなしに、他人や他の人々の集団を助けようとしたり、人々のためになることをしようとしたりする力

（例）　相手の気持ちを考える、親切にする　など

【児童生徒質問紙の項目】小学５年生と中学校２年生に質問

- わたしは、誰に対しても親切にするようにしている。わたしは、その人の気持ちをよく考える
- わたしは、他の子たちと本や遊び道具などを共有する
- わたしは、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける
- わたしは、年下の子たちに対して、やさしくしている
- わたしは、自分から進んで親・先生・友達の手伝いをする

（出典）Goodman R (1997) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A Research Note.
Journal of Child Psychology and Psychiatry, 38, 581-586.
Goodman R, Meltzer H, Bailey V (1998) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A pilot study on the validity of the self-report version.
European Child and Adolescent Psychiatry, 7, 125-130.

非認知能力の把握

○ 児童生徒質問紙を用いて、非認知能力を以下の表のとおり把握
○ 児童生徒は非認知能力についての同一の質問に継続して回答

	R1 2019	R2（中止） 2020	R3 2021	R4 2022	R5（予定） 2023
中2	自己効力感	○	やりぬく力	向社会性 自己効力感	○
中1	自制心	○	自己効力感 算数動機付け	自制心 自己効力感	○
小6	やり抜く力	自己効力感 算数動機付け （4項目）	自制心 算数動機付け （4項目）	勤勉性 自己効力感	○
小5	批判的思考力 （16項目） 算数動機付け （4項目）	○	勤勉性	向社会性 自己効力感	○
小4	自制心 数学的リテラシー （18項目）	勤勉性	自己効力感	やり抜く力 自己効力感	自制心 自己効力感

（２）「学習方略」について

児童生徒が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）のことです。ふくしま学力調査では**「柔軟的方略」「プランニング方略」「作業方略」「認知的方略」「努力調整方略」**の５つに分類しています。

①　柔軟的方略	自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動

（例）　勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習したりする　など

【児童生徒質問紙の項目】
- 勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する
- 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる
- 勉強しているときに、やった内容を覚えているかどうかを確かめる
- 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える

②　プランニング方略	計画的に学習に取り組む活動

（例）　勉強を始める前に計画を立てる　など

【児童生徒質問紙の項目】
- 勉強するときは、最初に計画を立ててから始める
- 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかを確かめる
- 勉強するときは、自分で決めた計画に沿って行う
- 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見直す

③　作業方略	ノートに書く、声に出すといった「作業」を中心に学習を進める活動

（例）　大切なところを繰り返し書く　など

【児童生徒質問紙の項目】
- 勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく
- 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている
- 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる
- 勉強で大切なところは、繰り返して書くなどして覚える

④　認知的方略	より自分の理解度を深めるような学習活動

（例）　勉強した内容を自分の言葉で理解する　など

【児童生徒質問紙の項目】

・　勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える
・　勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする
・　勉強していてわからないことがあったら、先生にきく
・　新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する

⑤　努力調整方略	「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動

（例）　分からないところも諦めずに継続して学習する　など

【児童生徒質問紙の項目】

・　学校の勉強をしているとき、とてもめんどうでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう
・　今やっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるために一生懸命がんばる
・　授業の内容が難しいときは、やらずにあきらめるか、簡単なところだけ勉強する
・　問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する

（出典）心理測定尺度集Ⅳ：子どもの発達を支える〈対人関係・適応〉,(2007).,
心理測定尺度集/堀洋道監修.サイエンス社

※　今年度より質問項目を整理し、「人的リソース方略」に関する質問を除きました。

（３）「主体的・対話的で深い学び」について

学級における「主体的・対話的で深い学び」の状況を数値化した値

【児童生徒質問紙の項目】※学年により、質問項目が異なっています

あなたの〇年生の時の〇〇の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか

- 授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと
- 授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分が分かったことや分からなかったことを理解したこと
- 分からないことなどを質問しやすい雰囲気で授業が行われたこと
- 教材やワークシートがあることで、学習しやすくなったこと
- グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと
- 課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりもてるようになったこと
- 話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと
- 授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと
- 授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと
- 授業で学んだことを、日常の生活に生かせると感じたこと

※　「主体的・対話的で深い学び」についての質問は、同一の学年集団に対して、同一の教科について継続して質問することで、変容を確認できるようにしています。具体的には、今年度の小学４年生、小学６年生、中学２年生については、経年で国語について質問し、今年度の小学５年生、中学１年生については、経年で算数・数学について質問しています。

（４）帳票４０を活用した分析について

帳票４０は、各学校に送付したデータの中に入っています。帳票４０を活用すると、学年や学級の児童生徒の学力のレベル・学力の伸び・質問紙調査項目の数値から、気になる児童生徒を見付けたり、状態を把握したりすることができます。分析で把握した気になる児童生徒が、そのような状態になっている要因等について吟味し、支援することに役立ちます。

帳票４０には、国語と算数・数学の学力のレベルや学力の伸びと併せて**「非認知能力」**、**「学習方略」**、**「主体的・対話的で深い学び」**の児童生徒質問紙の回答状況が示されています。児童生徒質問紙の回答状況はふくしま学力調査から見られる児童生徒の一つの側面ではありますが、学力の伸びの状況が思わしくない児童生徒については、児童生徒質問紙の数値が低い項目について授業や学級で改善を働きかけることにより、学力を伸ばすことができる可能性があります。

40　学校用（令和4年度　中2）

令和4年度ふくしま学力調査

学力分析データ（学力レベル・伸び・学習方略・非認知）児童生徒別

＜R3⇒R4の学力の伸び・質問紙調査項目の変化を算出＞

当該生徒Ａについては、学習方略のうち、プランニング方略、次いで作業方略と努力調整方略の数値が特に上がっている。当該生徒Ｂについては、学習方略のうち、作業方略、次いで柔軟的方略の数値が特に上がっている。質問紙調査の回答状況を参考に児童生徒のよい面を認め、自信を持たせたり、意欲を高めたりすることで、さらに学力を伸ばすことにつなげていく。

算数・数学の学力のレベルが令和３年度調査から６あるいは８上がっている。

	算数・数学			R3→R4（変化量）									
					学習方略						非認知能力		
	R4レベル	昨年度からの学力の伸び	R3レベル	主体的・対話的で深い学びの実施	柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感（参考値）		
	11-C	1	10-A	0.2	0.8	0.5	0.5	−	0.0	0.0	0.5	−	−
	6-C	0	6-C	−0.2	0.0	−0.5	0.5	−	−0.8	0.0	0.1	−	−
当該生徒Ａ	6-B	6	4-B	3.8	0.5	1.5	1.0	−	0.8	1.0	0.8	−	−
	10-B	1	10-C	0.1	−0.5	0.0	0.3	−	0.3	0.0	0.8	−	−
当該生徒Ｂ	7-C	8	4-B	0.9	1.0	0.5	1.3	−	−0.3	0.3	0.1	−	−
	6-B	0	6-B	−0.5	−0.8	−0.8	−0.5	−	0.5	−0.5	0.6	−	−
	8-B	1	8-C	−0.2	0.0	0.0	0.5	−	−0.3	0.3	0.6	−	−
当該生徒Ｃ	5-C	−8	7-A	−1.1	−0.5	−0.5	−0.8	−	−1.3	−1.0	0.5	−	−
	5-C	1	4-A	−0.1	−0.8	−0.5	0.0	−	−0.5	−0.8	0.0	−	−
当該生徒Ｄ	5-C	−5	6-A	−1.4	−0.3	−1.5	−0.3	−	−1.3	−1.0	−2.3	−	−

算数・数学の学力のレベルが令和３年度調査から８あるいは５下がっている。

当該生徒Ｃについては、学習方略のうち、認知的方略、努力調整方略の数値が特に下がっている。当該生徒Ｄについては、学習方略のうち、プランニング方略の数値、非認知能力のうち、自己効力感の数値が特に下がっている。学習を進めるうえで課題となっている可能性があるため、質問紙調査の回答状況を参考に改善を働きかける。

6　児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」

（１）授業に関すること

○　学習の見通しを持つことや、話合い活動で自分の考えを持つこと、学習内容のつながりを明確にすることと「学力のレベル」の高さに関係が見られた。

○　「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が、学力向上に寄与している。

◎　授業の始めに学習活動の見通しを持たせることで、主体的な学びを促すとともに、振り返りの場面における視点が明確になる。

◎　話合い活動を取り入れる際には、論点や課題を明確にし、他の児童生徒と考えを共有したり、比較・検討したりすることができるように働きかける。また、話合い活動を行ってから、自分の考えをもう一度整理し、表現する時間を確保することも大切である。

◎　単元全体を見通して指導計画や評価計画を立て、学習内容のつながりや既習事項との関連を明確にすることが必要である。

【ふくしまの「授業スタンダード」より】

・　「何を学習するか」「何ができればよいか」を明確にするために、焦点化された学習課題を設定しましょう。

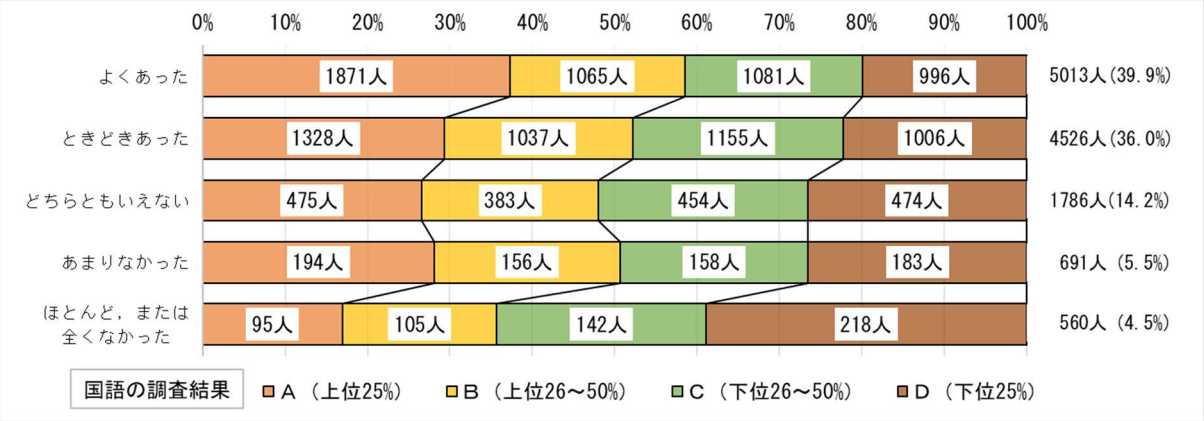
・　思いや考えを広げ深めることができるようにするために、児童生徒の考えを基に話合いをコーディネートし、ねらいに迫りましょう。

・　導入において既習事項の振り返りから「問い」や「思い・願い」を引き出したり、計画や見通しを持たせる場面において学習課題と既習事項を関連付けたりする学習活動を設定し、終末において振り返りましょう。

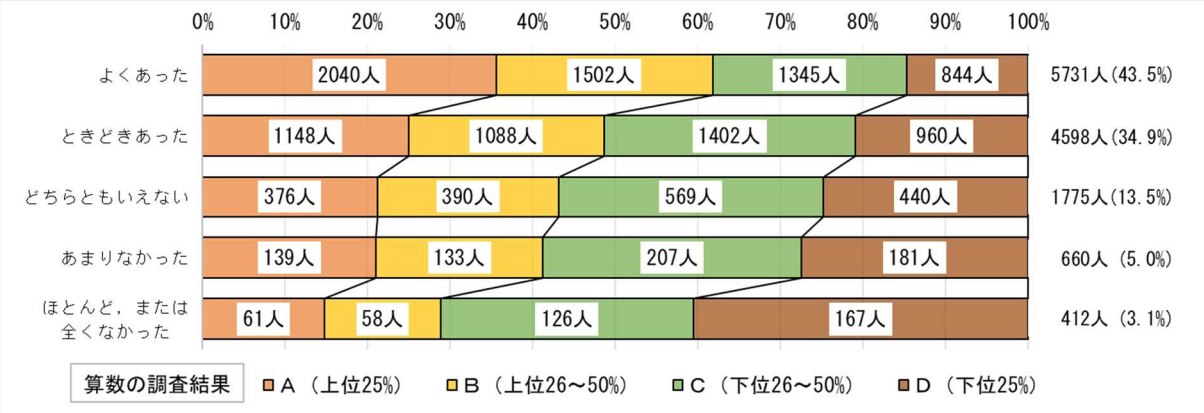
＜児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計結果から＞

縦軸：質問『授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだことがありましたか』
横軸：『国語の調査結果』（小４・小６・中２）『算数・数学の調査結果』（小５・中１）

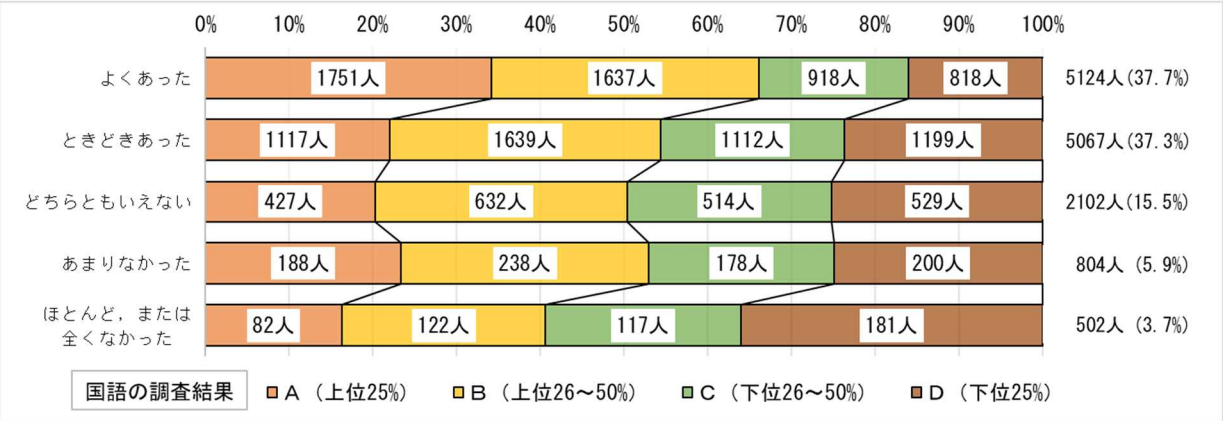
小学校４年生　国語



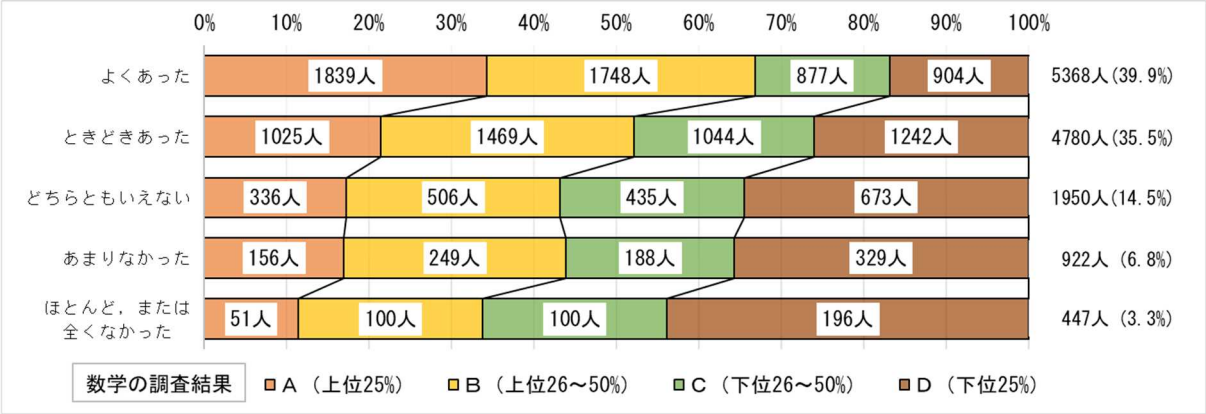
小学校５年生　算数



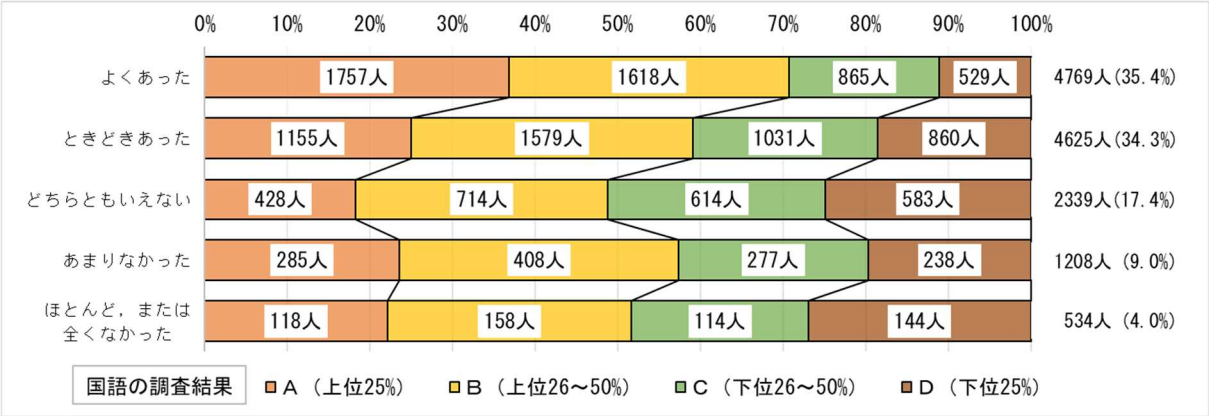
小学校６年生　国語



中学校１年生　数学

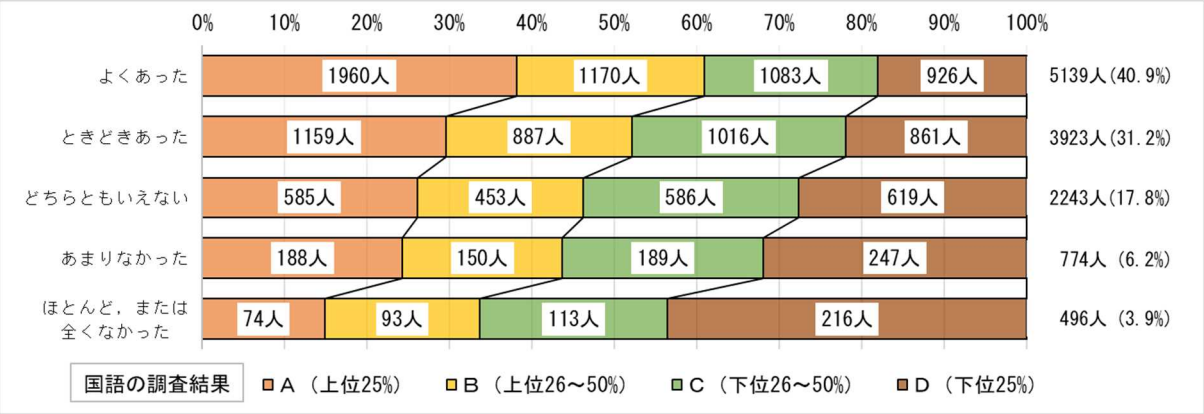


中学校２年生　国語

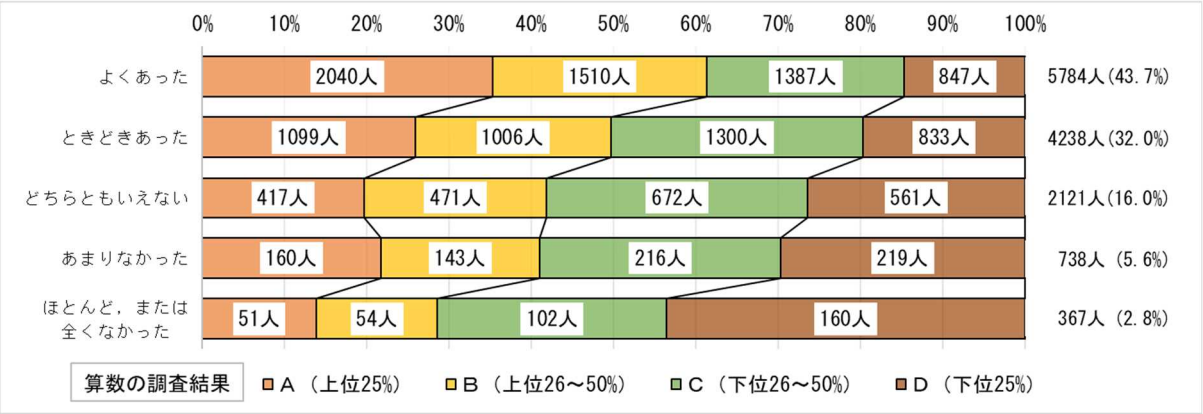


縦軸：質問『課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかり持てるようになったことがありましたか』
横軸：『国語の調査結果』（小４・小６・中２）『算数・数学の調査結果』（小５・中１）

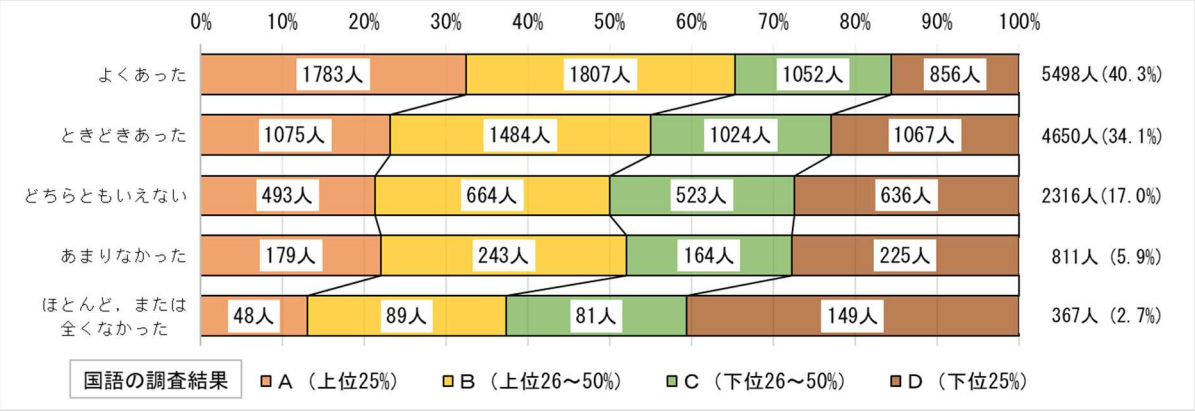
小学校４年生　国語



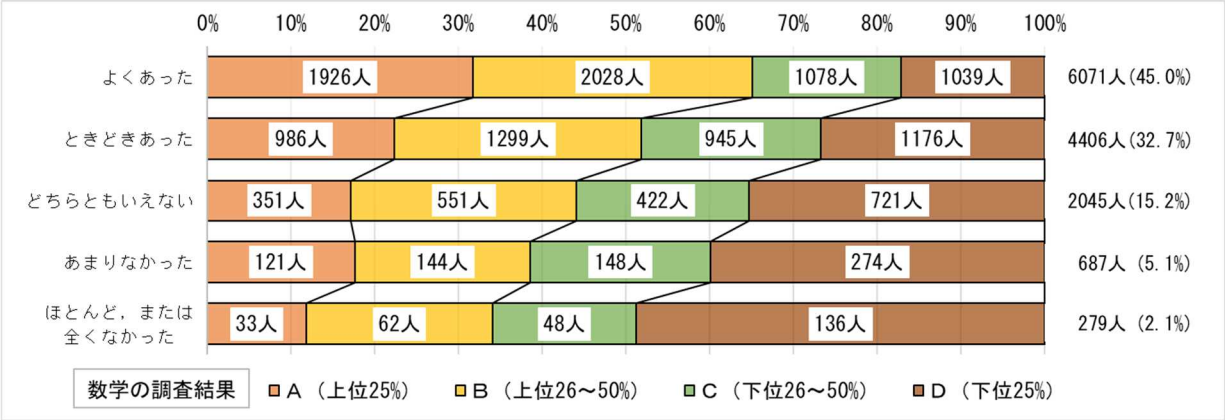
小学校５年生　算数



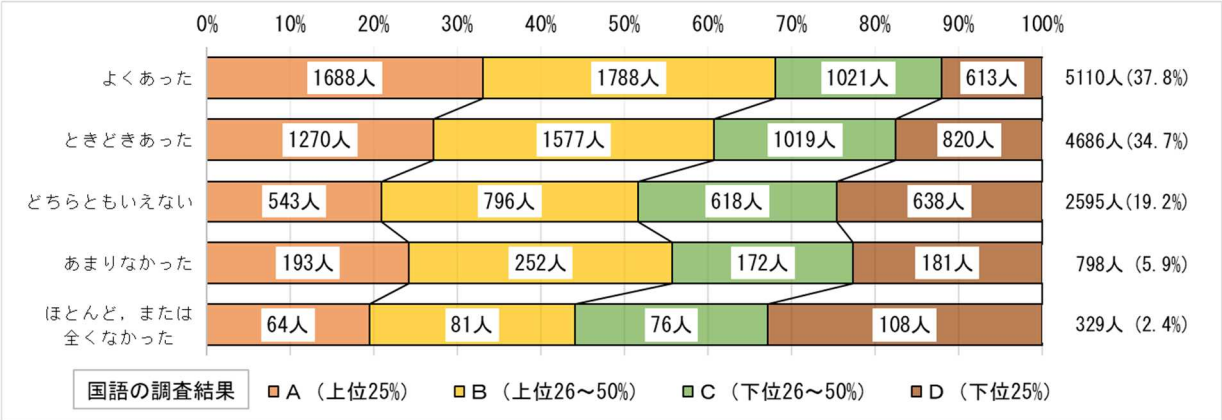
小学校６年生　国語



中学校１年生　数学

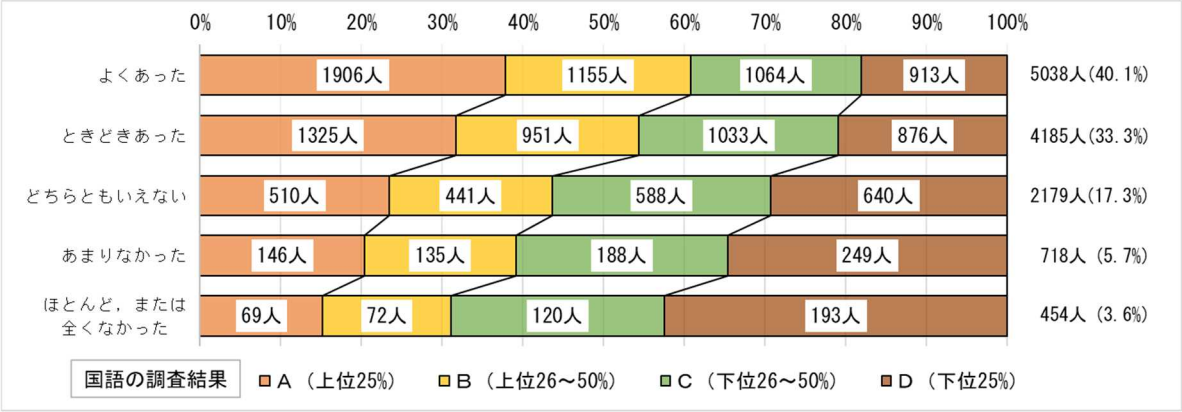


中学校２年生　国語

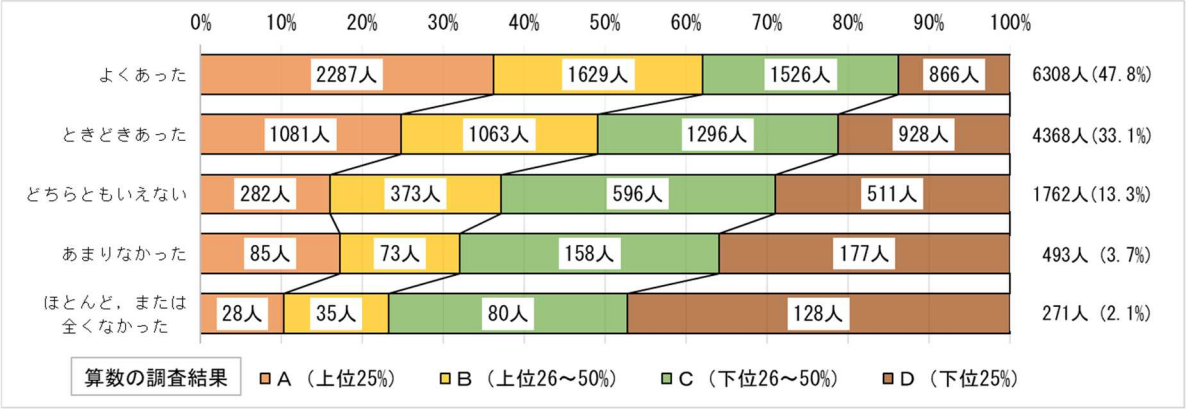


縦軸：質問『授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがありましたか』
横軸：『国語の調査結果』（小４・小６・中２）『算数・数学の調査結果』（小５・中１）

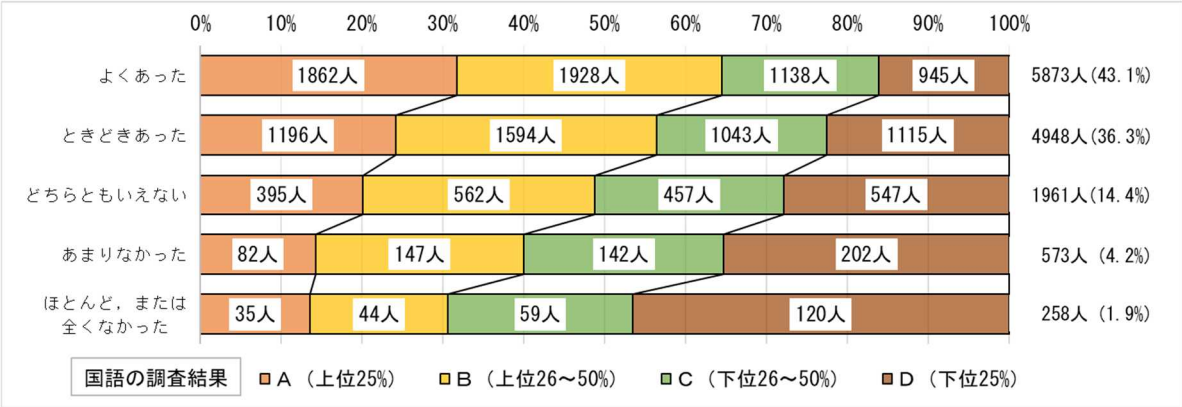
小学校４年生　国語



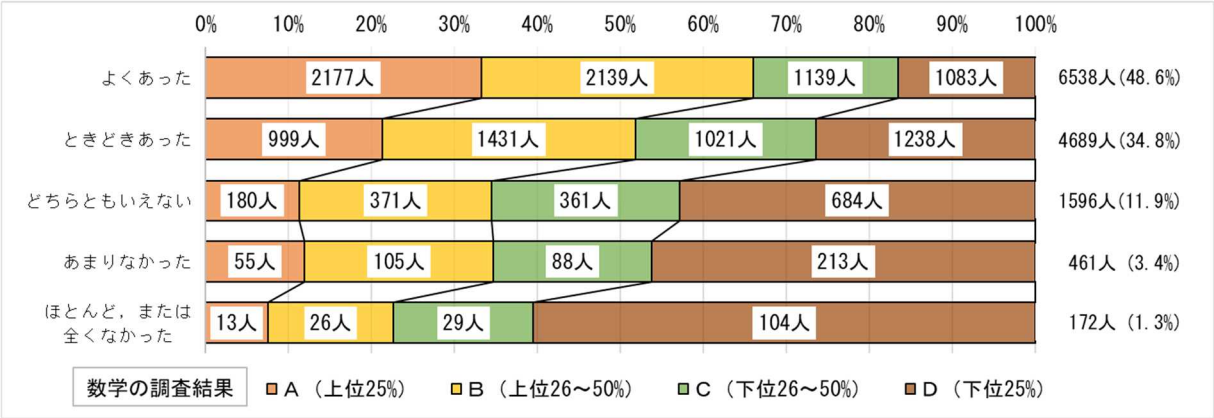
小学校５年生　算数



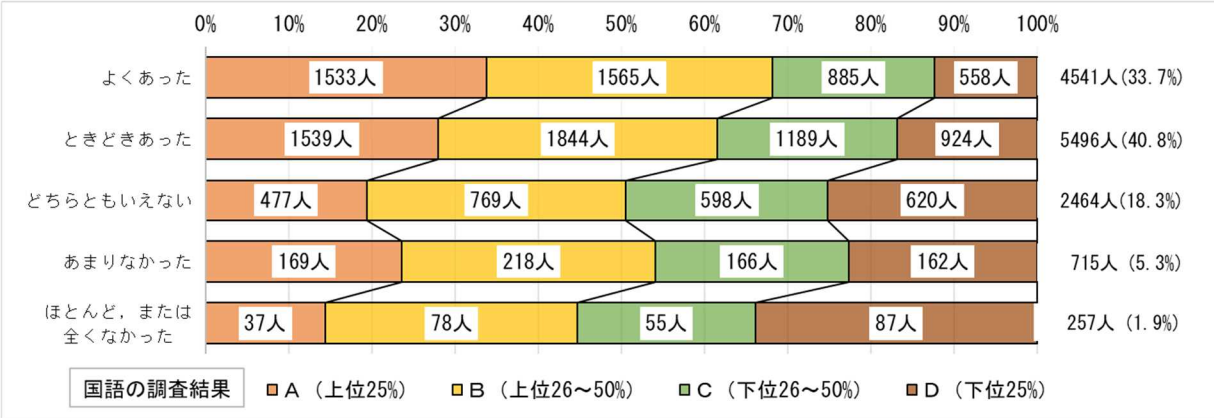
小学校６年生　国語



中学校１年生　数学



中学校２年生　国語



ふくしま応援！

「ベコ太郎」

（２）学習意欲や学習環境に関すること

○　学習の準備を整える等の授業に臨む心構えや、他の児童生徒及び教師から認められる等の自己肯定感と「学力のレベル」の高さに関係が見られた。

○　教師の話や友達の発表をしっかり聞き、発表する等の学習習慣や学ぼうとする意欲（非認知能力の一つ）と「学力のレベル」の高さに関係が見られた。

◎　授業に臨む心構えを大切にさせ、授業に必要な学習用具を整えておく等のよりよい学習習慣や学習に対する前向きな姿勢を育てることが重要である。

◎　学級経営において、教師が積極的に児童生徒のよいところをほめたり、児童生徒同士が互いのよさを認め、高め合う雰囲気を醸成することにより、達成感を得たり、自己肯定感を高めたりすることが学力向上につながると考えられる。

◎　友達の発表を聞いたり、自分の考えを相手に伝えたりするためには、「何について話し合っているか」や「何を学んだか」が児童生徒にとって明確になるように発問を工夫する必要があると考えられる。

【ふくしまの「授業スタンダード」より】

・　学習規律について、発達段階を踏まえて共通実践することを大切にしましょう。

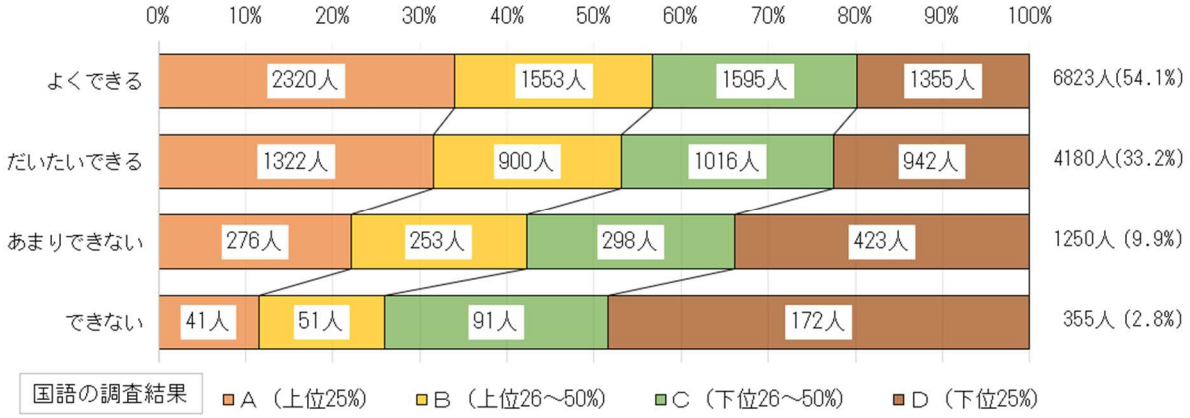
・　普段の学校生活全般において、教師と子ども、子ども同士の「望ましい人間関係」を築いていくことを大切にしましょう。

・　発達段階に応じて、児童生徒にどのような活動を通してどこまで考えさせるかを明確にした授業づくりを大切にしましょう。

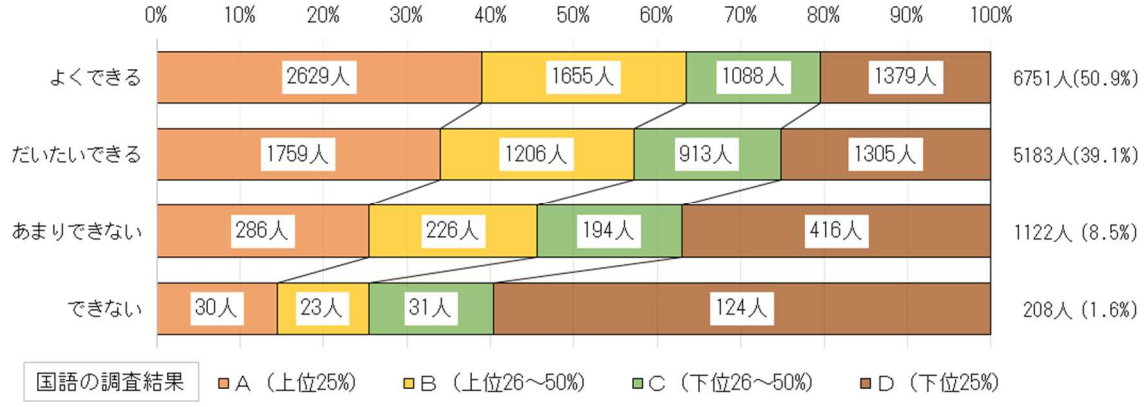
＜児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計結果から＞

縦軸：質問『授業の前に、机の上に学習用具をそろえることができていますか（学習の準備を整え、授業に臨むことができていますか。）』
横軸：『国語の調査結果』（小４～中２）

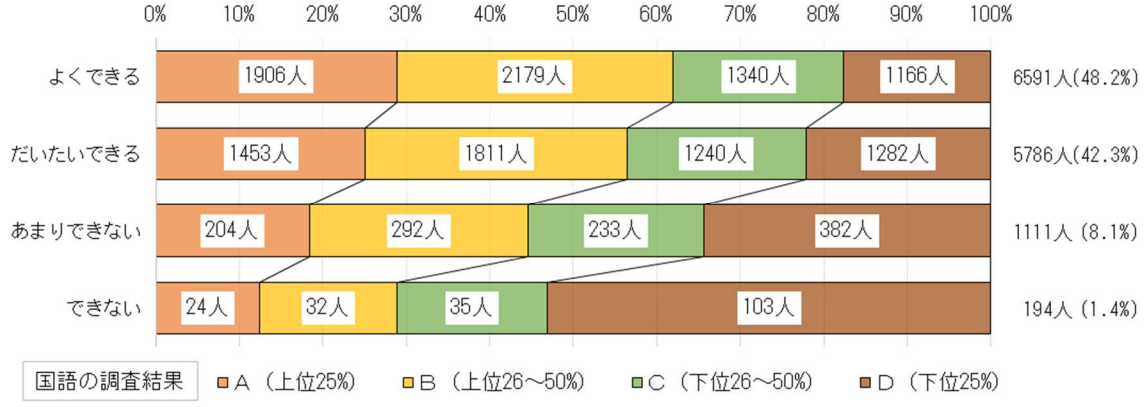
小学校４年生　国語



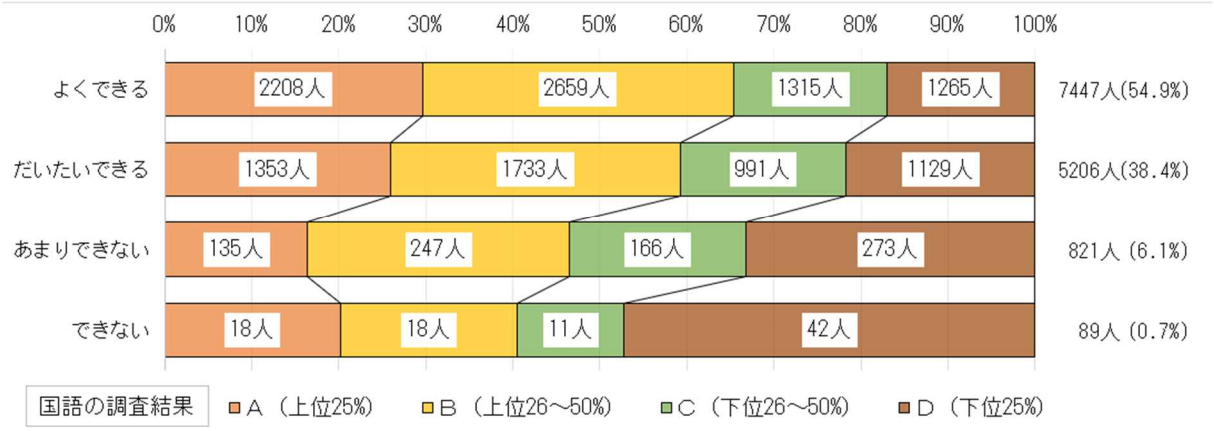
小学校５年生　国語



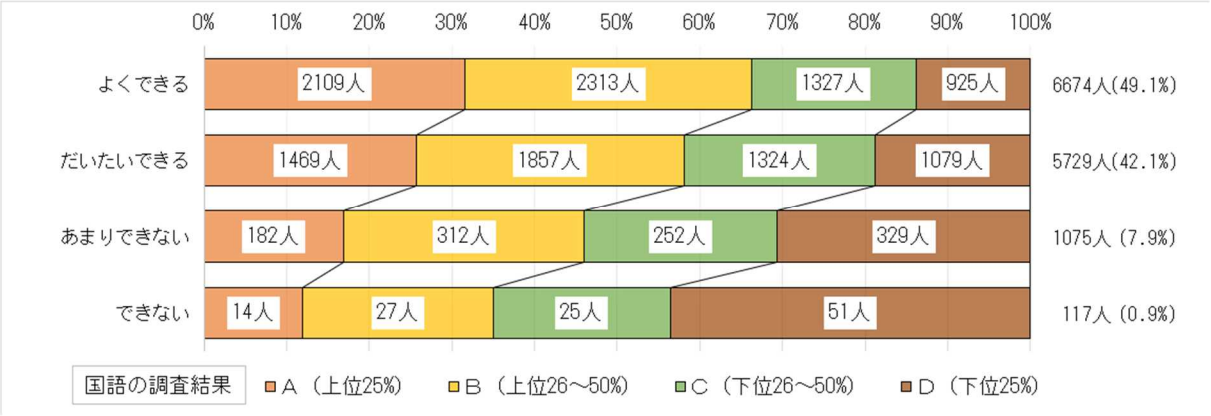
小学校６年生　国語



中学校１年生　国語

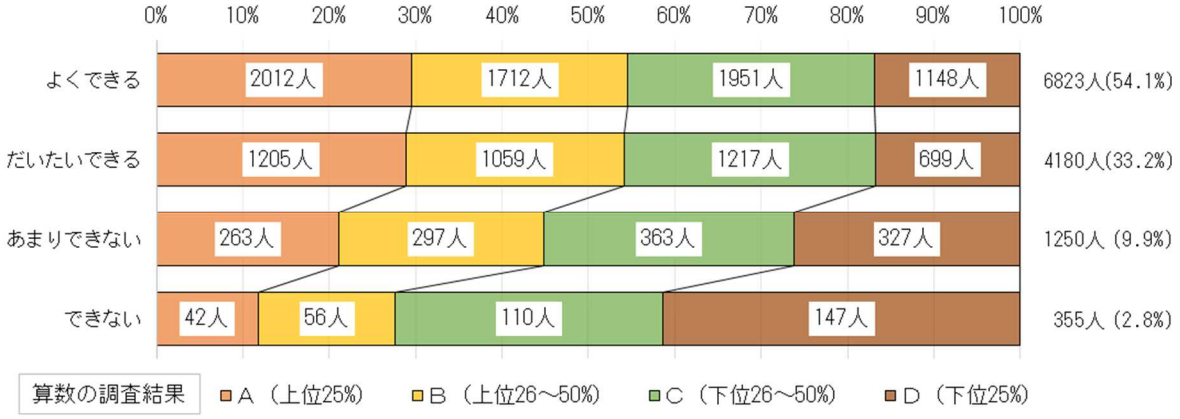


中学校２年生　国語

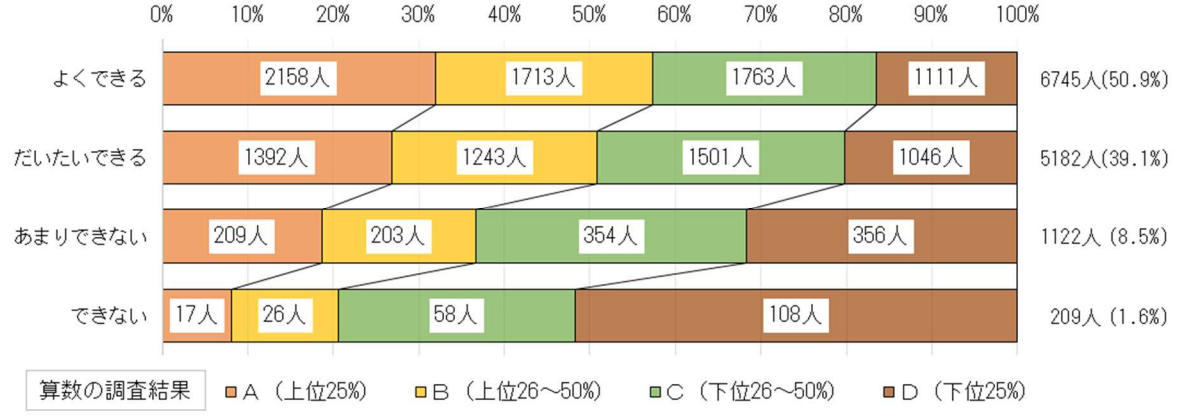


縦軸：質問『授業の前に、机の上に学習用具をそろえることができていますか
（学習の準備を整え、授業に臨むことができていますか。）』
横軸：『算数・数学の調査結果』（小４～中２）

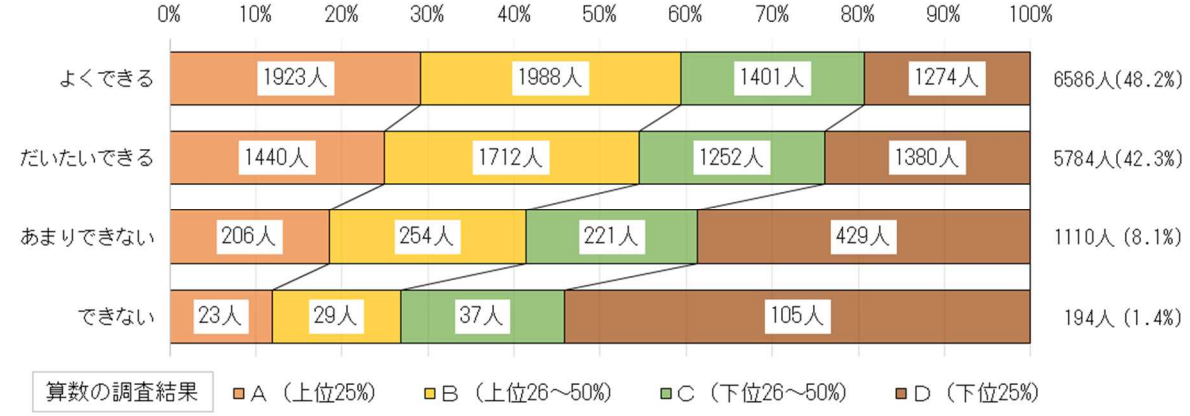
小学校４年生　算数



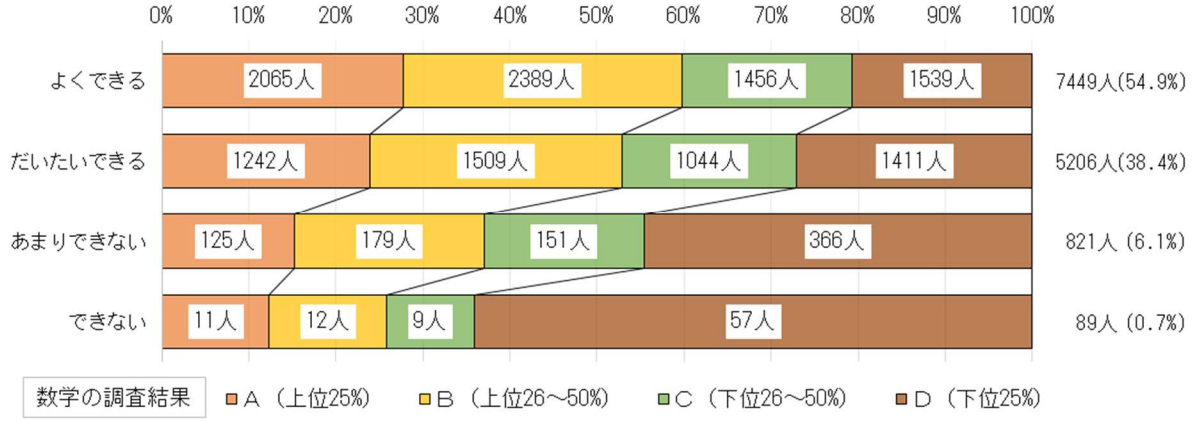
小学校５年生　算数



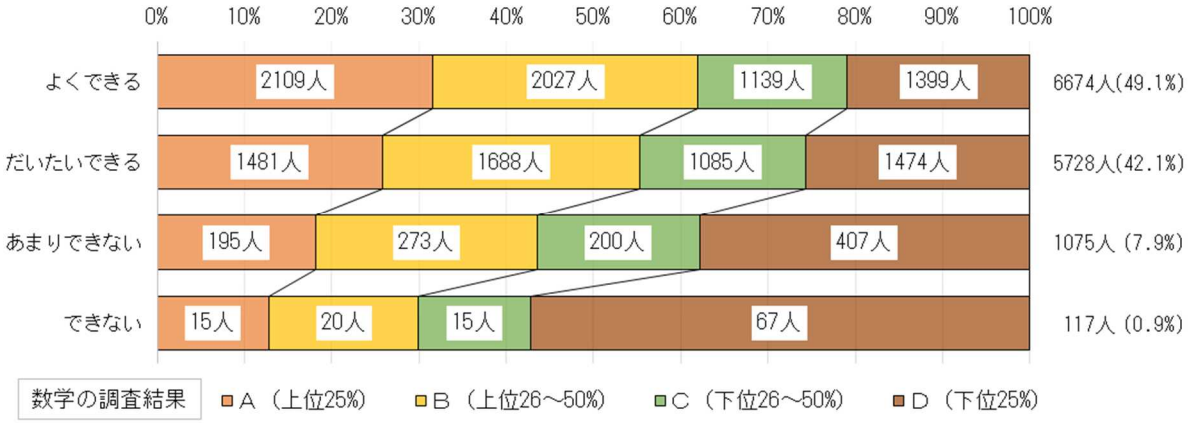
小学校６年生　算数



中学校１年生　数学

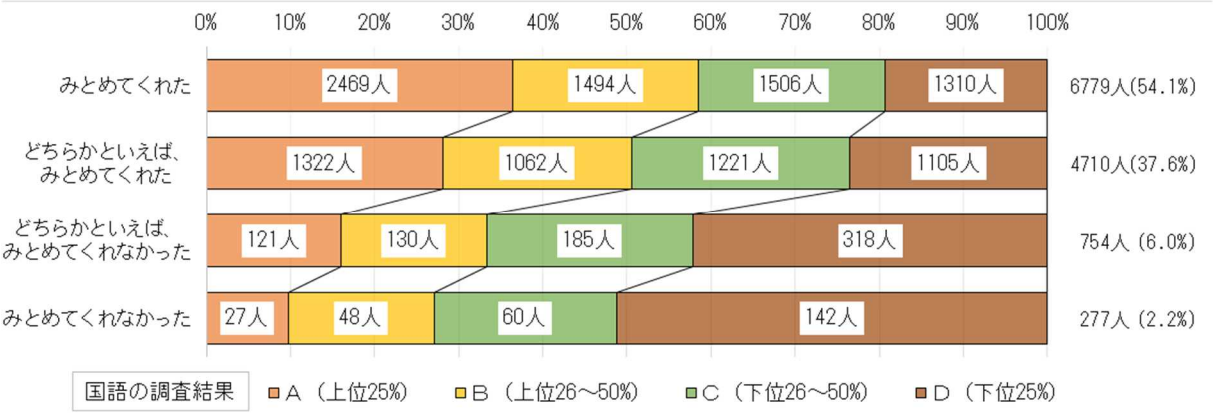


中学校２年生　数学

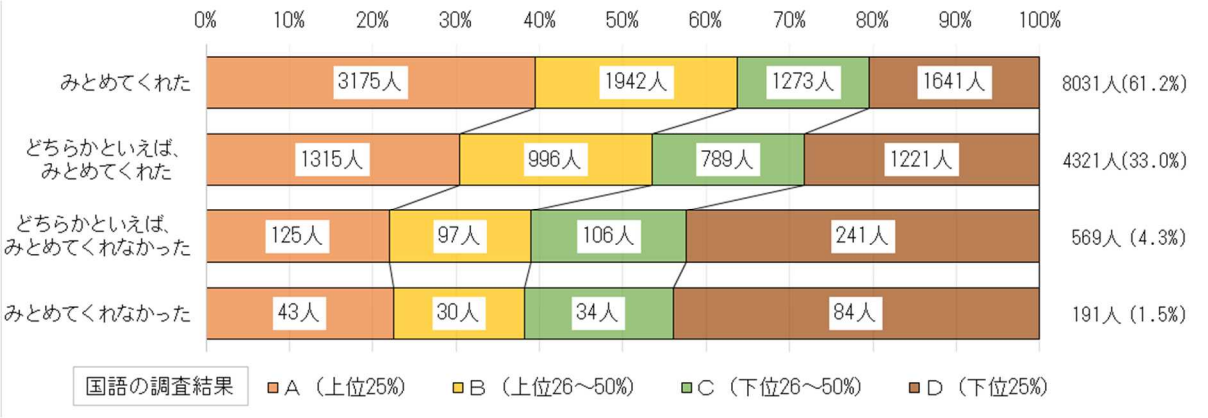


縦軸：質問『学校の先生たちは、自分のよいところを認めてくれましたか』
横軸：『国語の調査結果』（小４～中２）

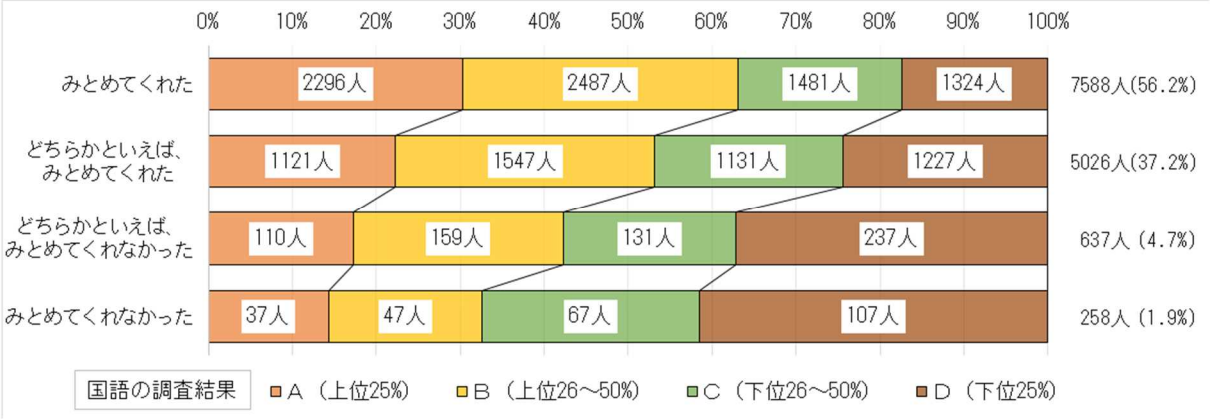
小学校４年生　国語



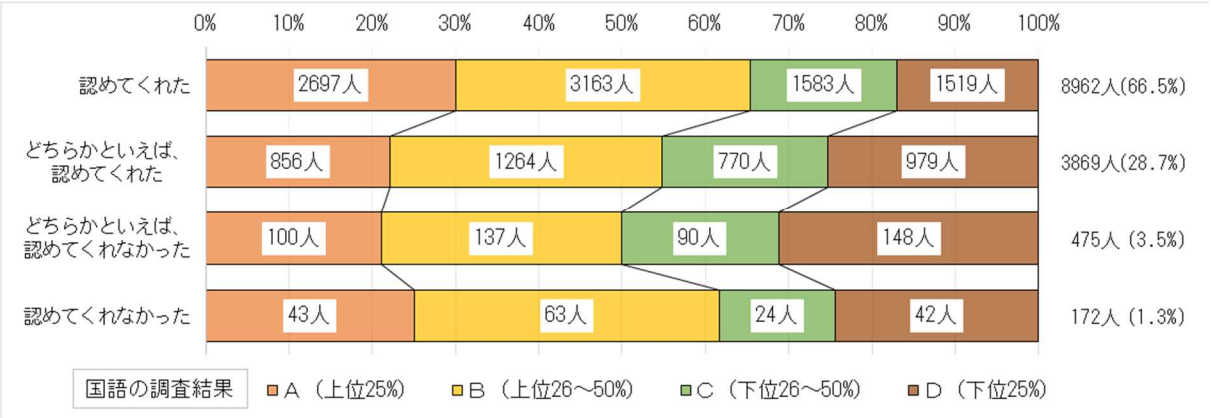
小学校５年生　国語



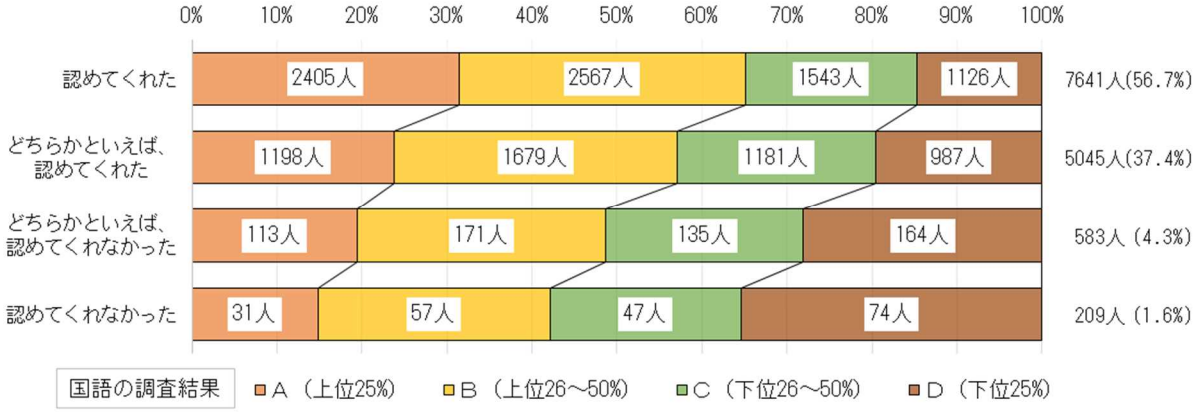
小学校６年生　国語



中学校１年生　国語

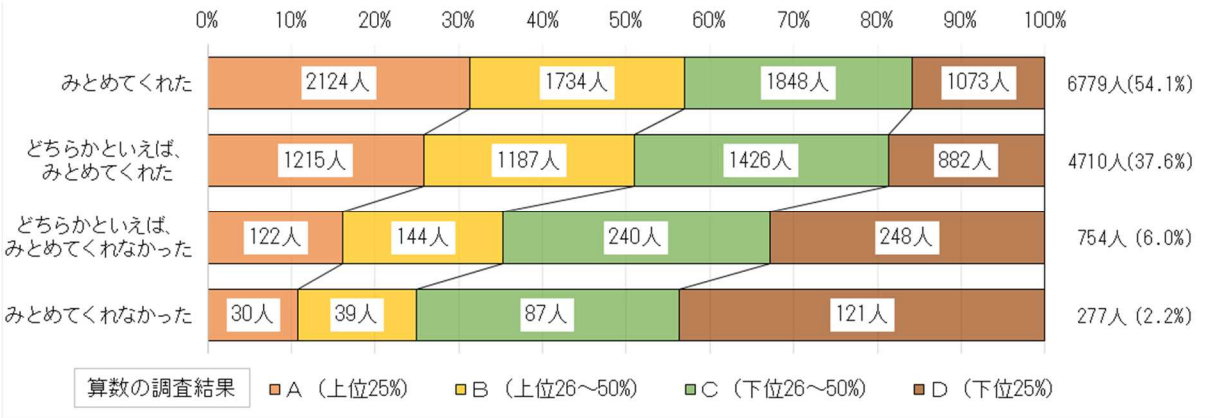


中学校２年生　国語

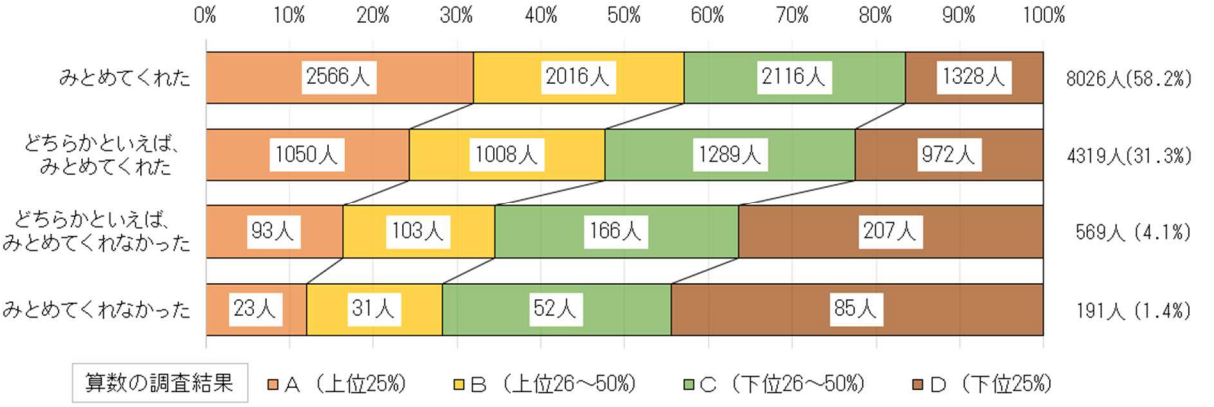


縦軸：質問『学校の先生たちは、自分のよいところを認めてくれましたか』
横軸：『算数・数学の調査結果』（小４～中２）

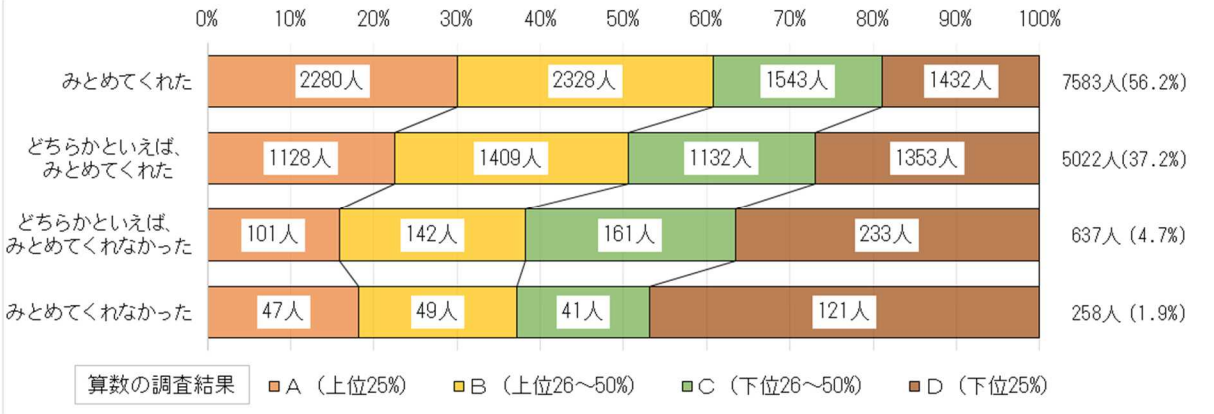
小学校４年生　算数



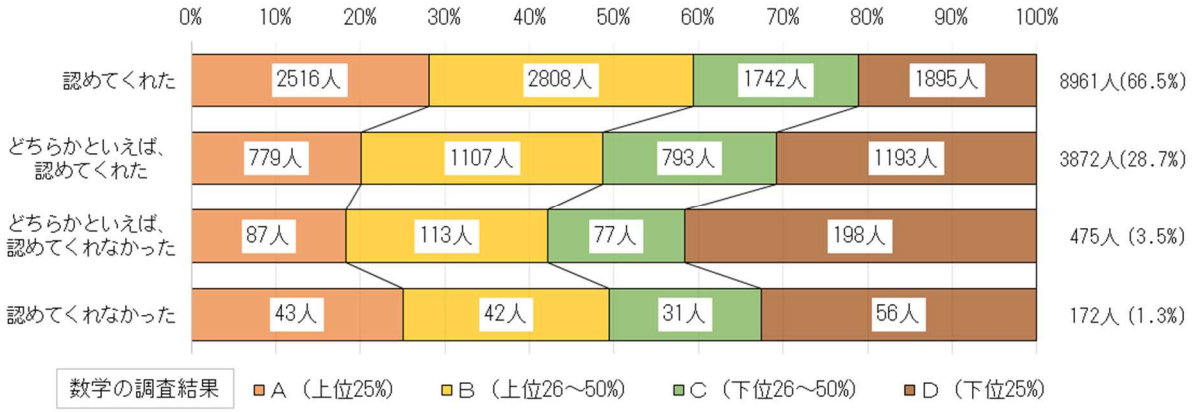
小学校５年生　算数



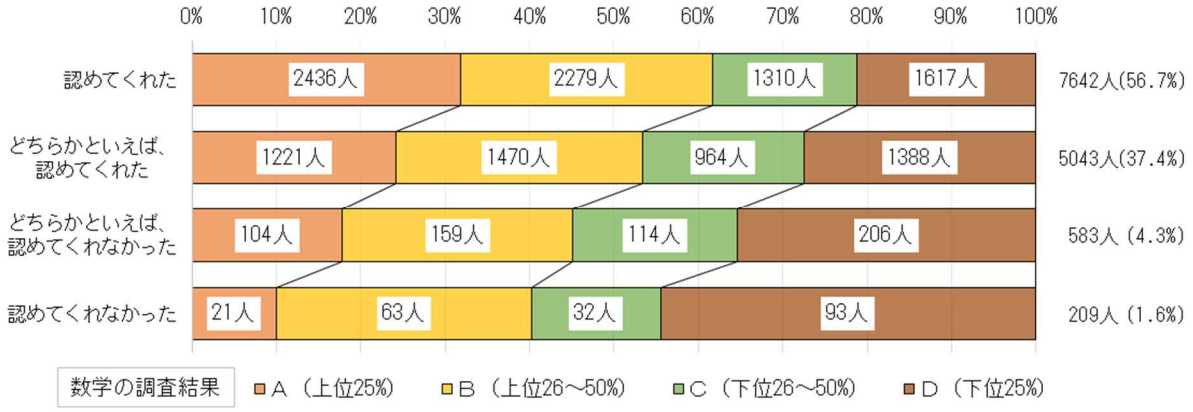
小学校６年生　算数



中学校１年生　数学

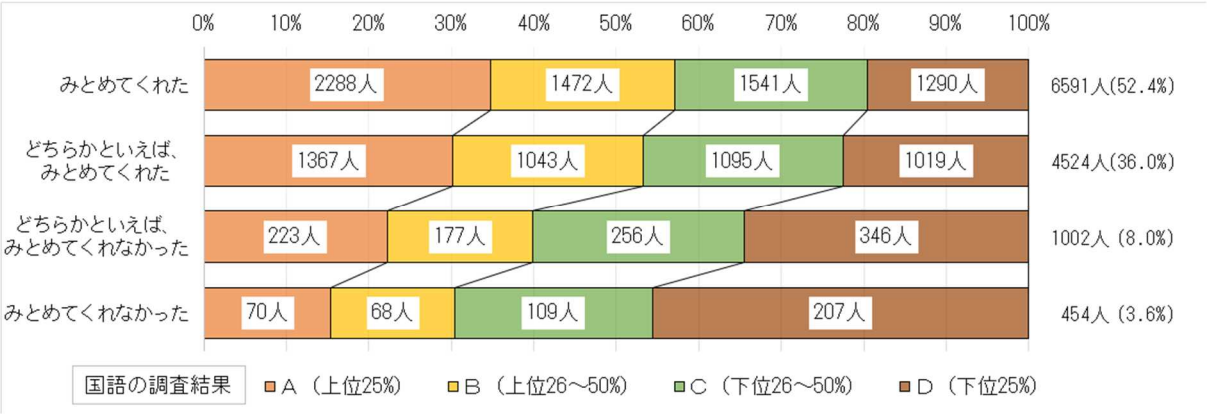


中学校２年生　数学

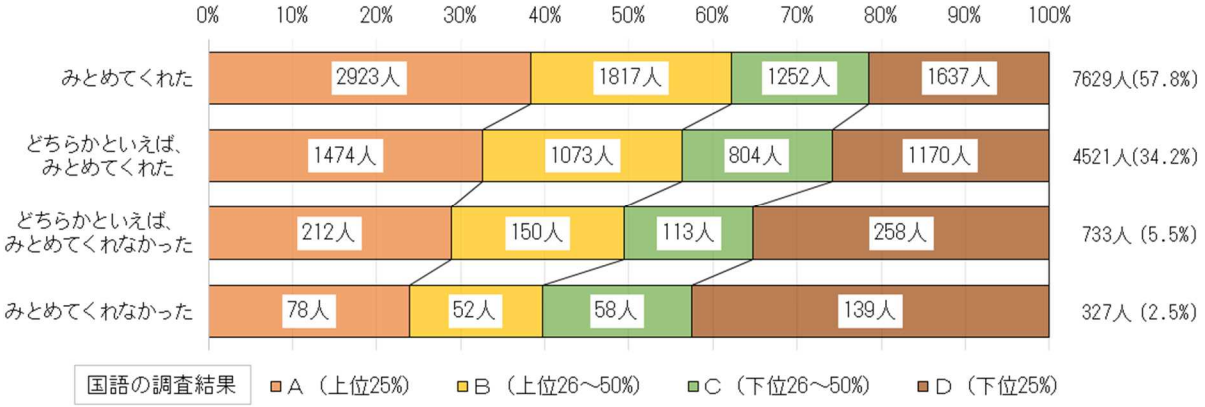


縦軸：質問『学校の友達は、自分のよいところを認めてくれましたか。』
横軸：『国語の調査結果』（小４～中２）

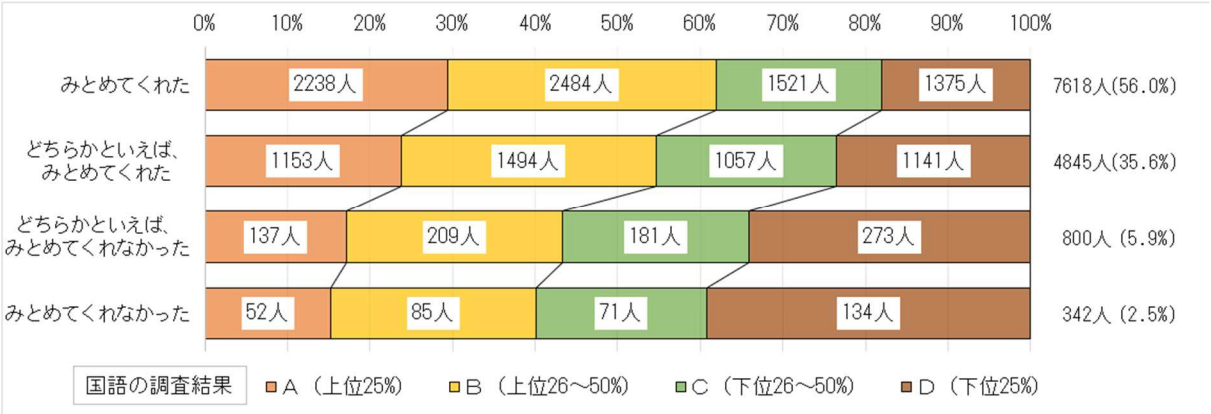
小学校４年生　国語



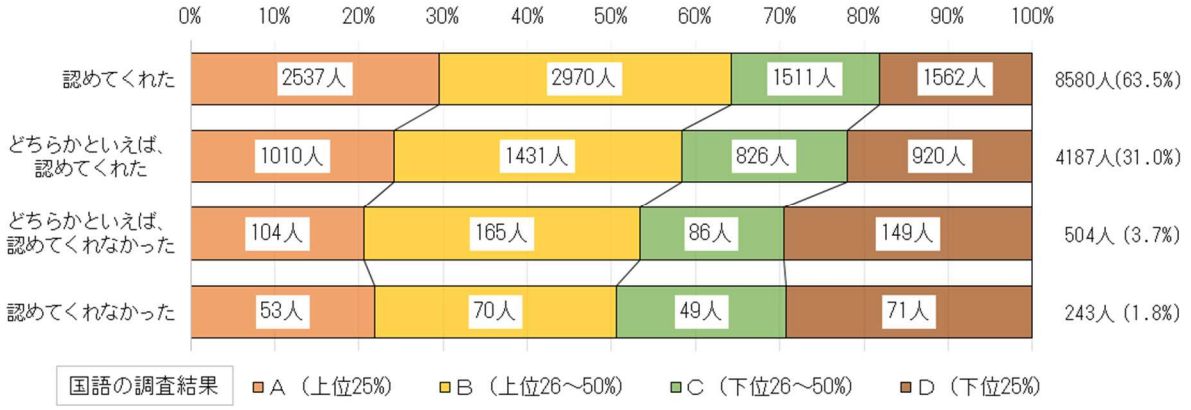
小学校５年生　国語



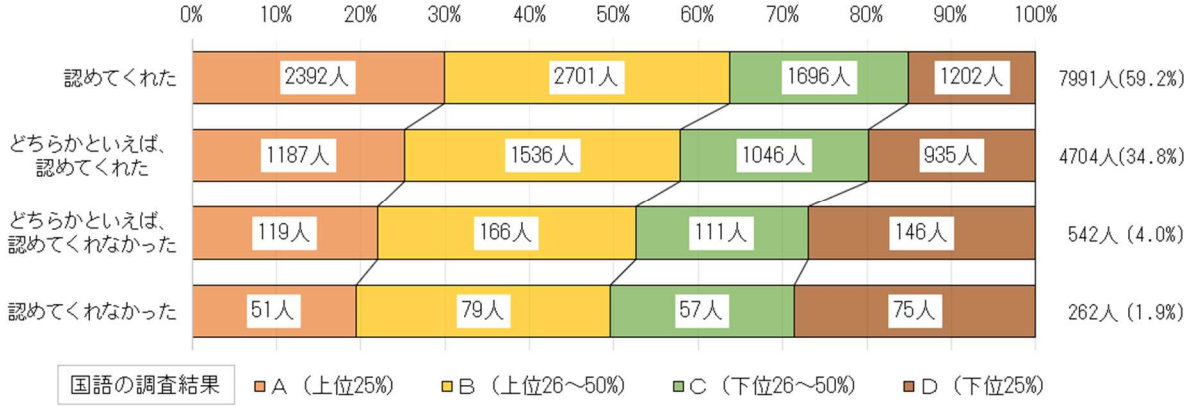
小学校６年生　国語



中学校１年生　国語

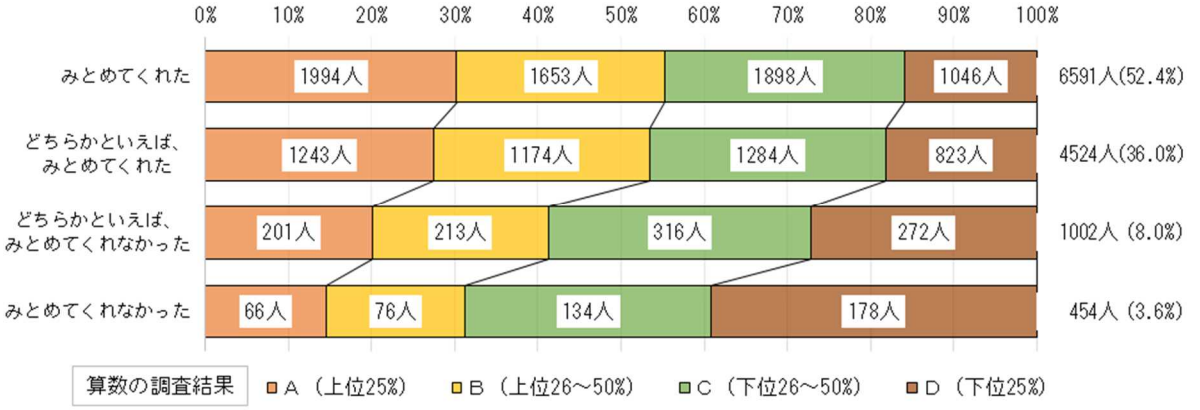


中学校２年生　国語

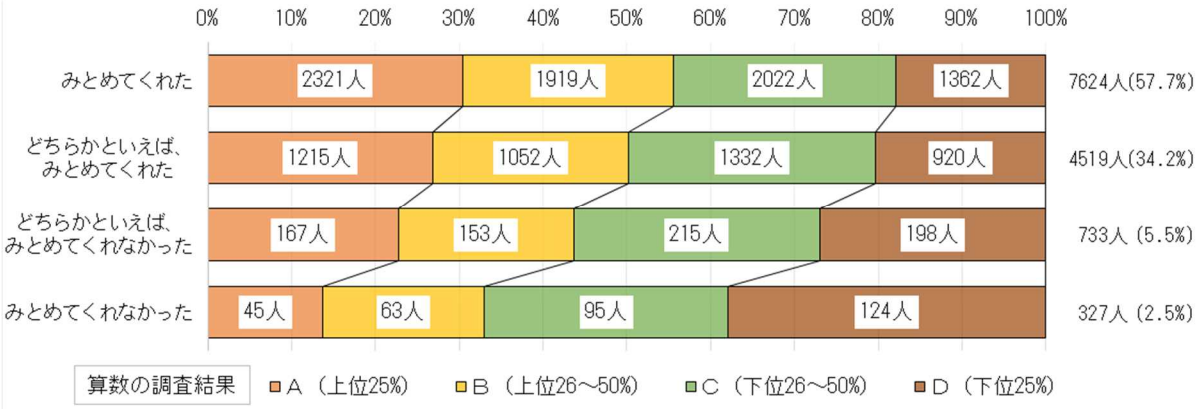


縦軸：質問『学校の友達は、自分のよいところを認めてくれましたか。』
横軸：『算数・数学の調査結果』（小４～中２）

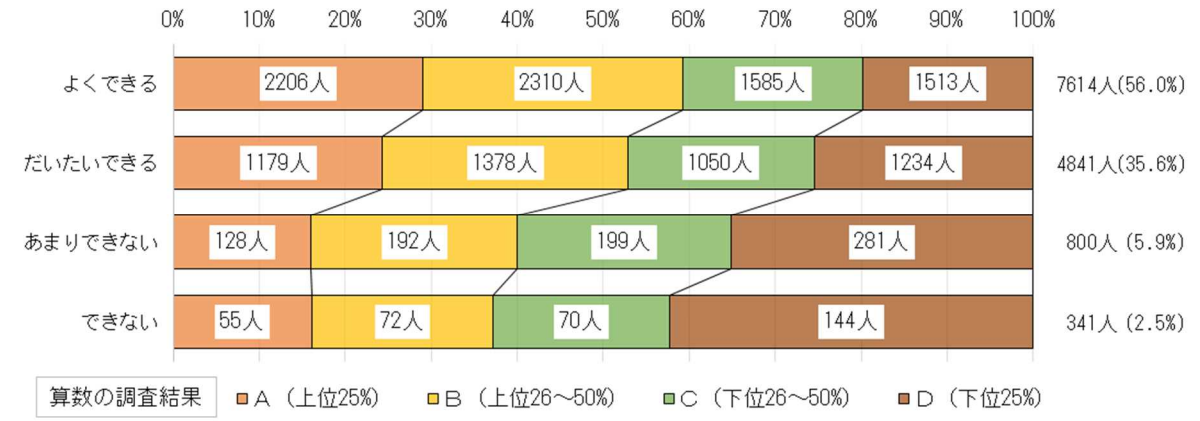
小学校４年生　算数



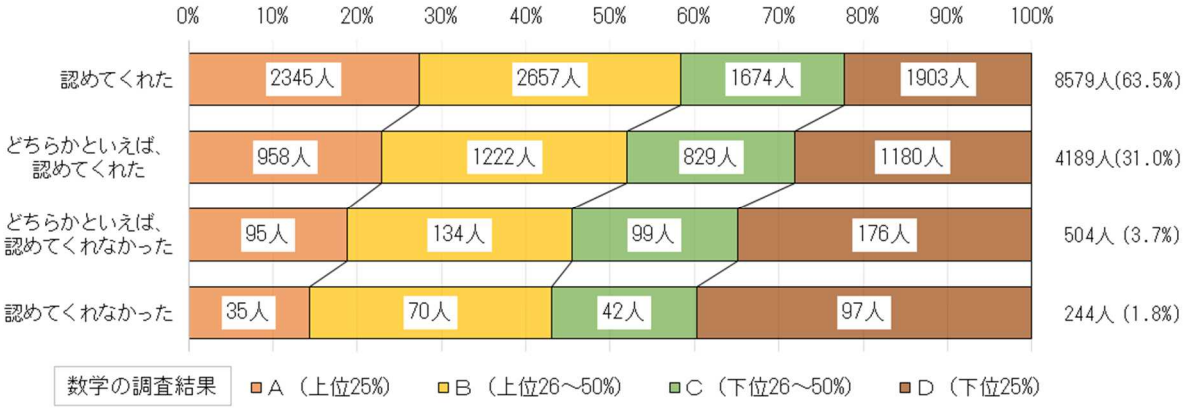
小学校５年生　算数



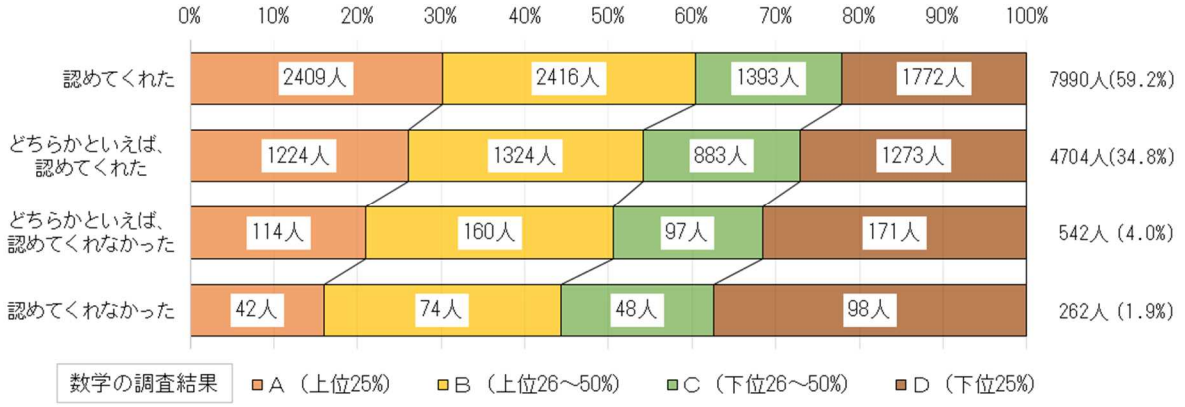
小学校６年生　算数



中学校１年生　数学

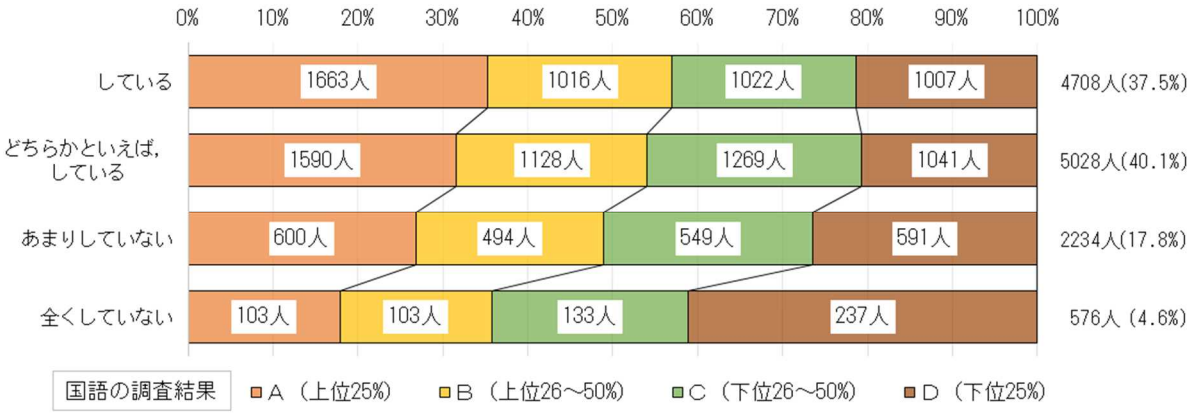


中学校２年生　数学

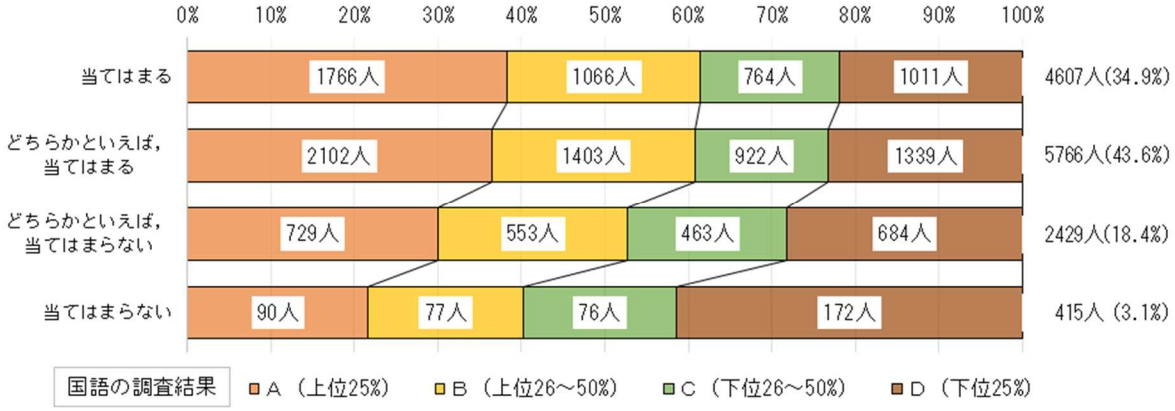


縦軸：質問『先生の話や友達の発表をしっかり聞き、発表する（考えを伝える）ことができていますか。』
横軸：『国語の調査結果』（小４～中２）

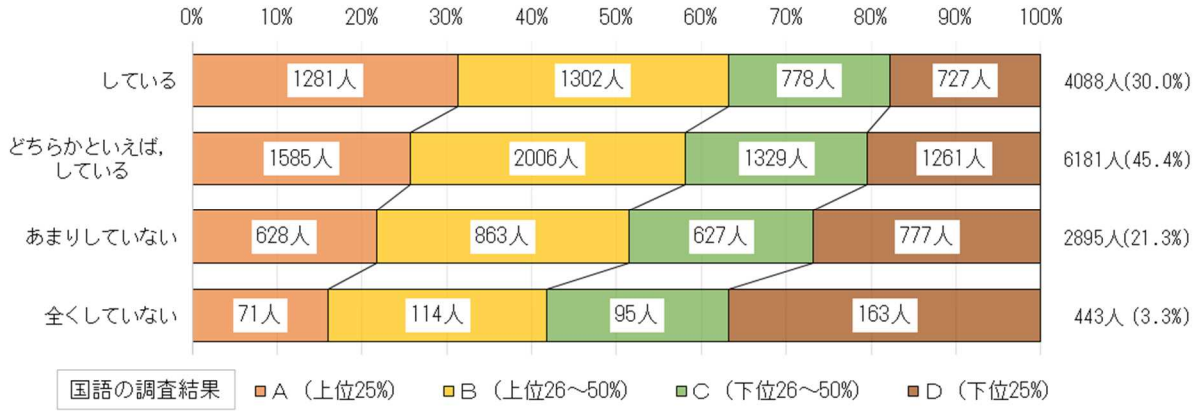
小学校４年生　国語



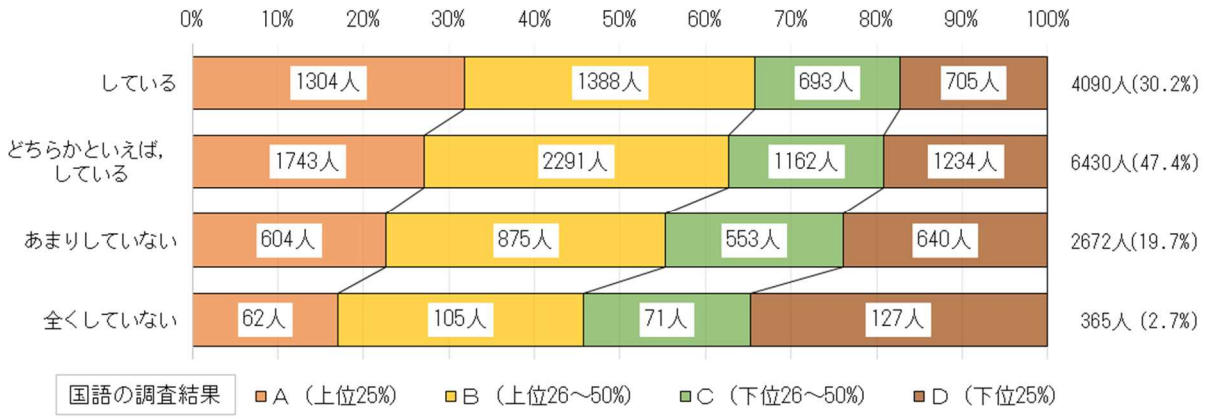
小学校５年生　国語



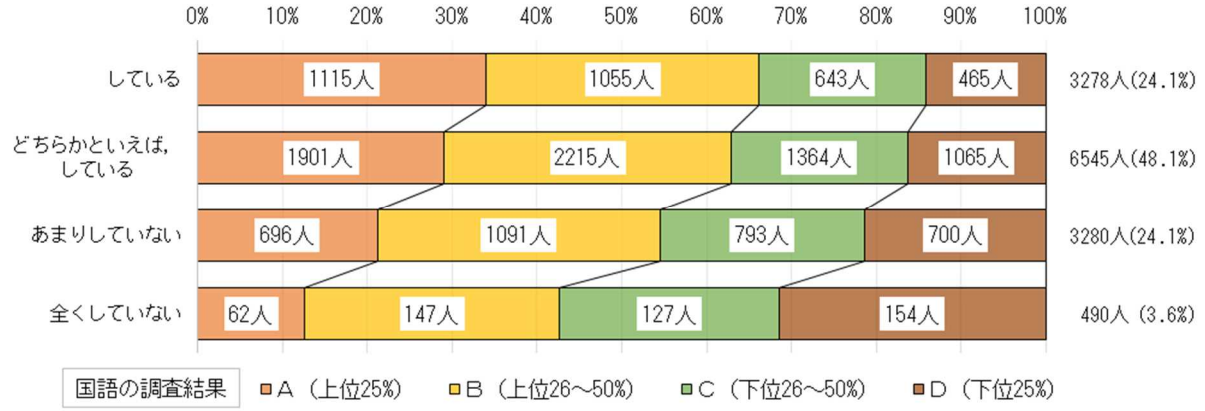
小学校６年生　国語



中学校１年生　国語



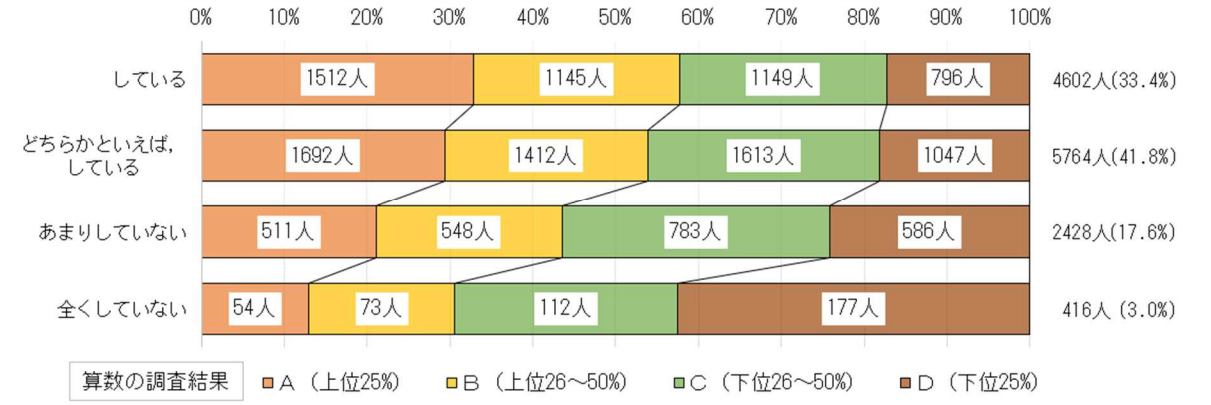
中学校２年生　国語



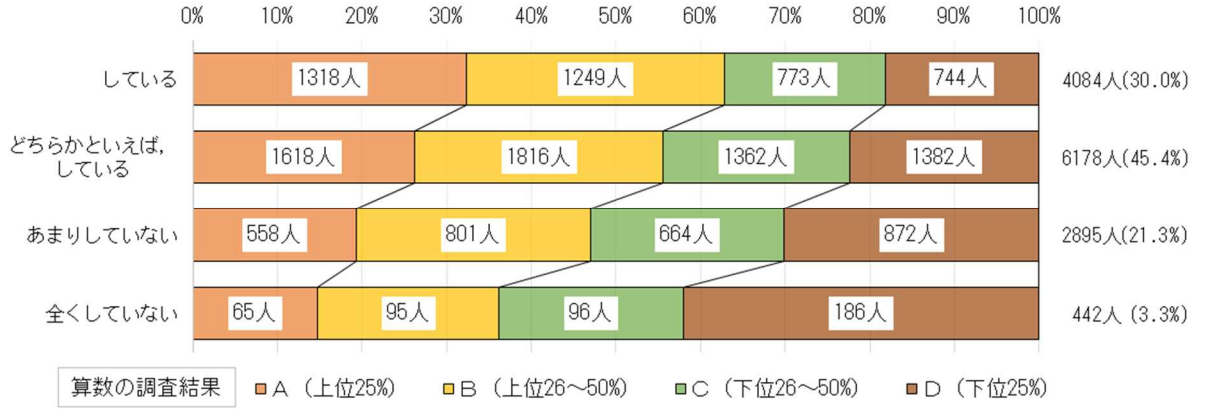
縦軸：質問『先生の話や友達の発表をしっかり聞き、発表する（考えを伝える）ことができていますか。』
横軸：『算数・数学の調査結果』（小４～中２）

小学校４年生　算数

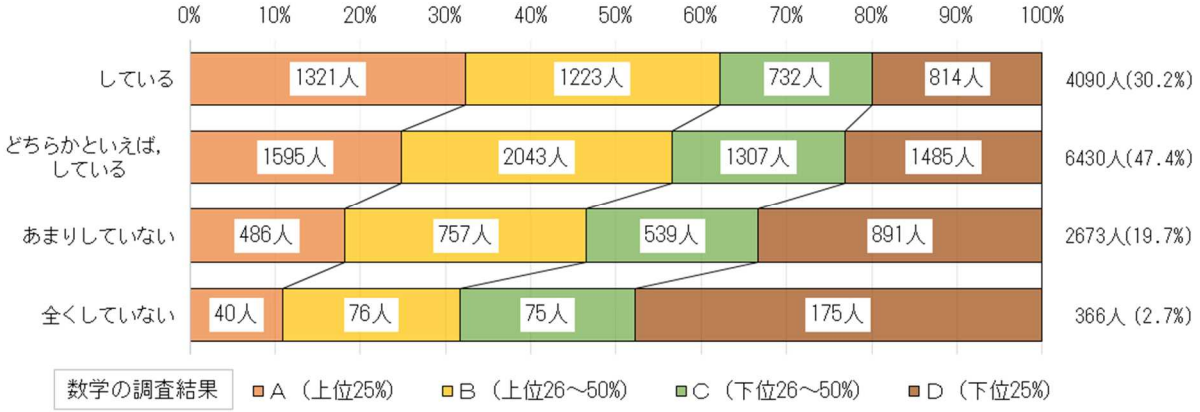
小学校５年生　算数



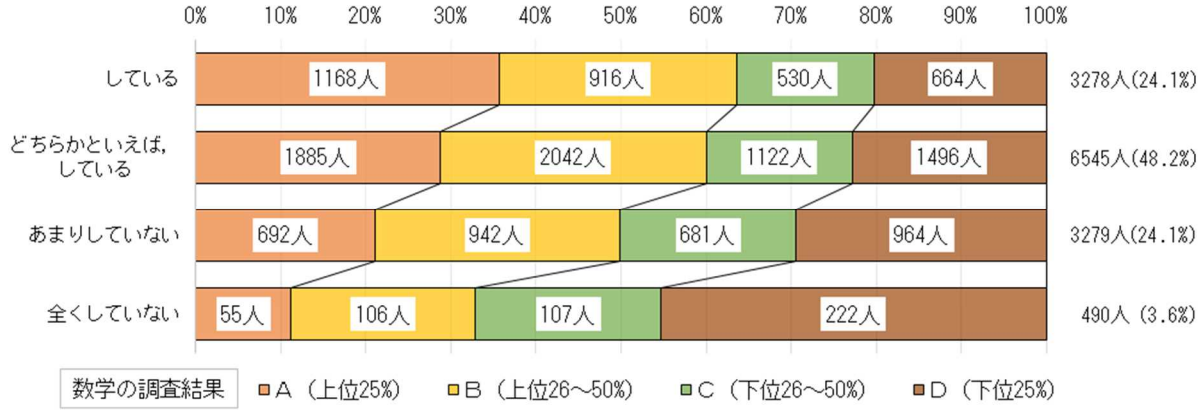
小学校６年生　算数



中学校１年生　数学



中学校２年生　数学



福島県復興シンボルキャラクター

キビタン

（３）家庭での生活に関すること

○　学年差はあるが、土曜日や日曜日など学校が休みの日に、勉強する時間（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む。）が長いほど、「学力のレベル」の高い児童生徒の割合が多くなる傾向が見られた。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む。）

○　読書の冊数が多いと回答するほど、学力が高い傾向が見られた。

◎　家族で一緒に読書に親しむ機会を増やすことや、読書環境を整えることなど、引き続き読書量を増やす取組をすることは、学力の向上に寄与するものである。加えて、どのような本を読むかという点に着目し、幅広い読書活動を促すことも大切である。

◎　土曜日や日曜日など休日における家庭学習の時間の確保も含め、その内容や方法等について、引き続き家庭と共通理解を図って進めることが大切である。

【ふくしまの「家庭学習スタンダード」より】

・　「家庭学習を充実させるための学校の４つの取組」の１つから、学習内容に応じて宿題（復習、予習）を効果的に活用した授業に努めたり、授業で学習したことを活用できる場面や方法を紹介したりするなど、授業と家庭学習をつなげましょう。

・　「心の支え」、「環境づくり」、「習慣づくり」の３つの視点で家庭・地域と協力・連携体制を築いて、「自己マネジメント力」を育んでいきましょう。

（家庭への働きかけとして）

・　「環境づくり」の視点から、家族で一緒に読書する機会を設けていきましょう。

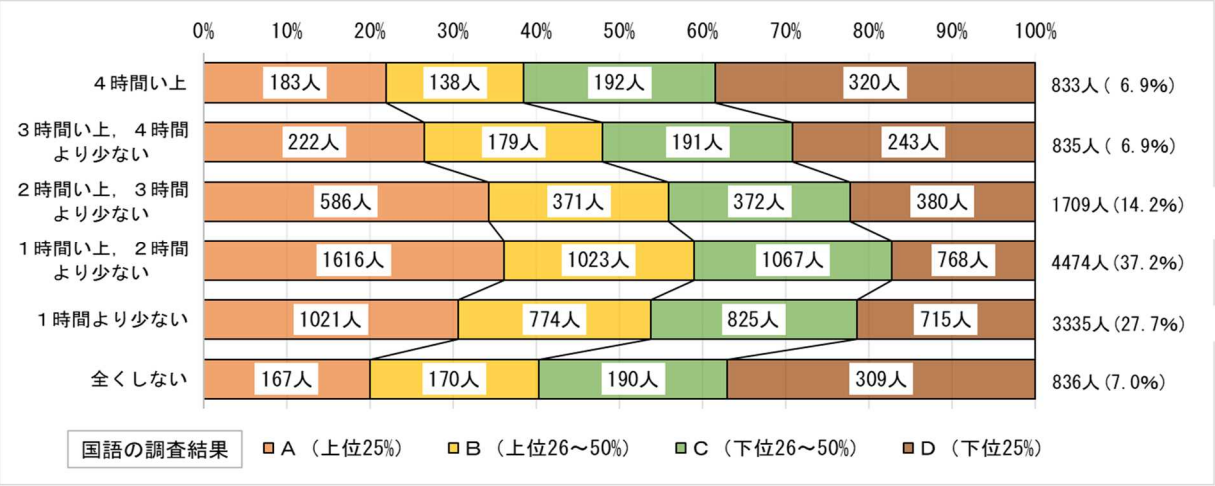
・　「習慣づくり」の視点から、テレビやゲーム、スマホなどをするときのルールを決めましょう。また、「起床時刻」や「就寝時刻」、「学習を始める時刻」等の約束ごとも、保護者と児童生徒が話し合い、家族みんなで規則正しい生活を心がけましょう。

＜児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計の結果から＞

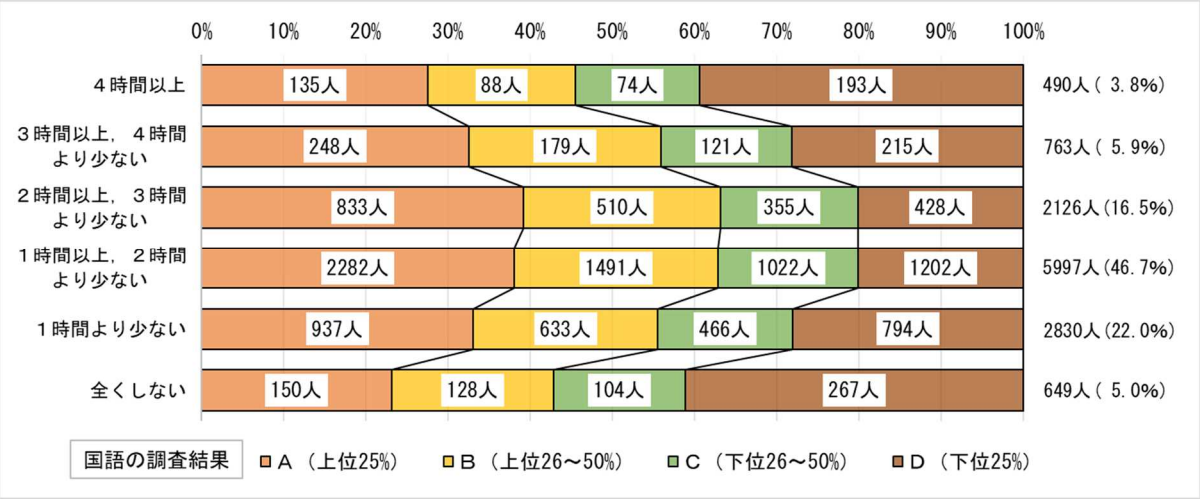
縦軸：質問『土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含みます）』

横軸：『国語の調査結果』（小４～中２）

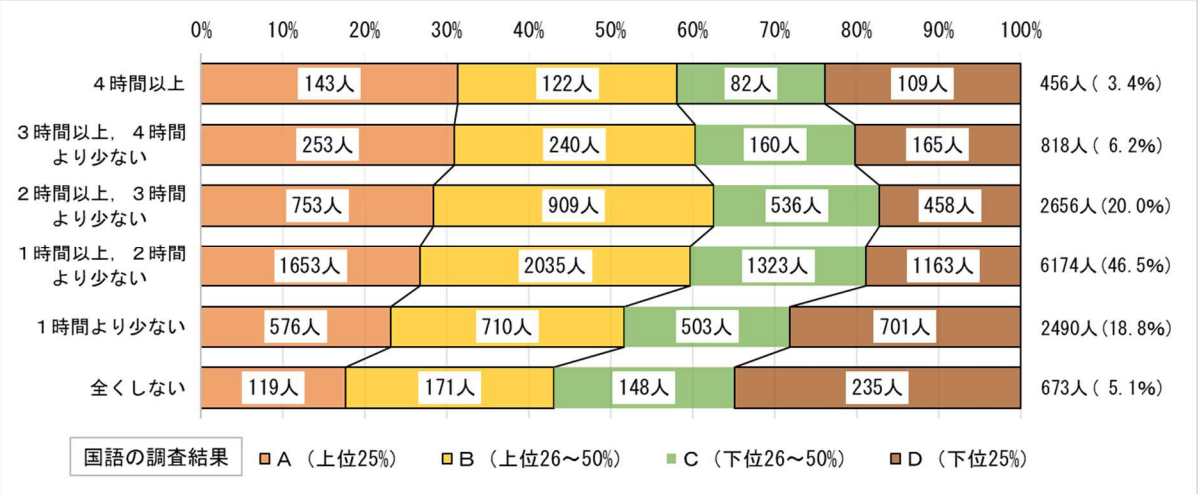
小学校４年生　国語



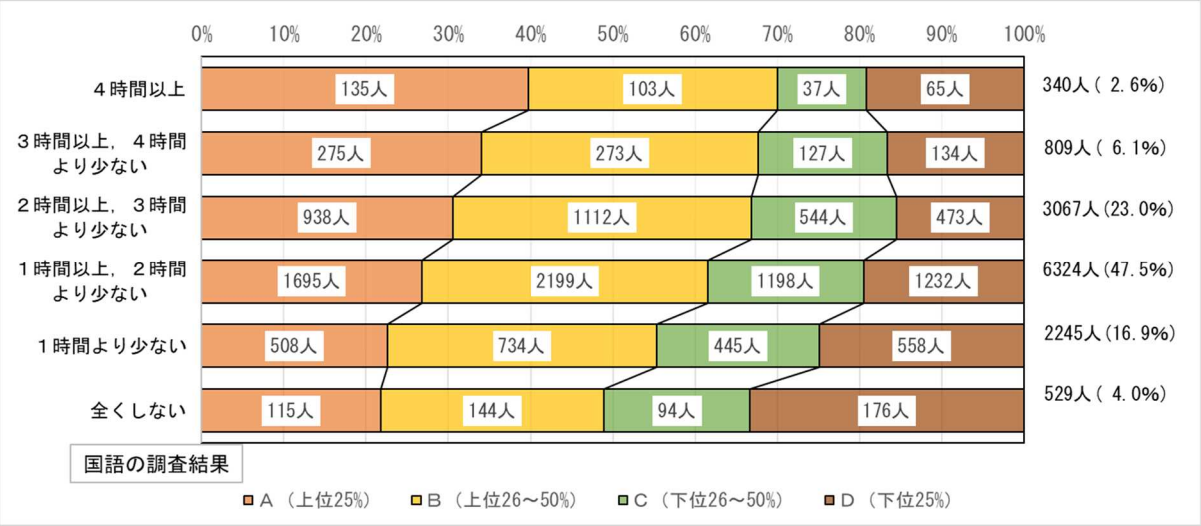
小学校５年生　国語



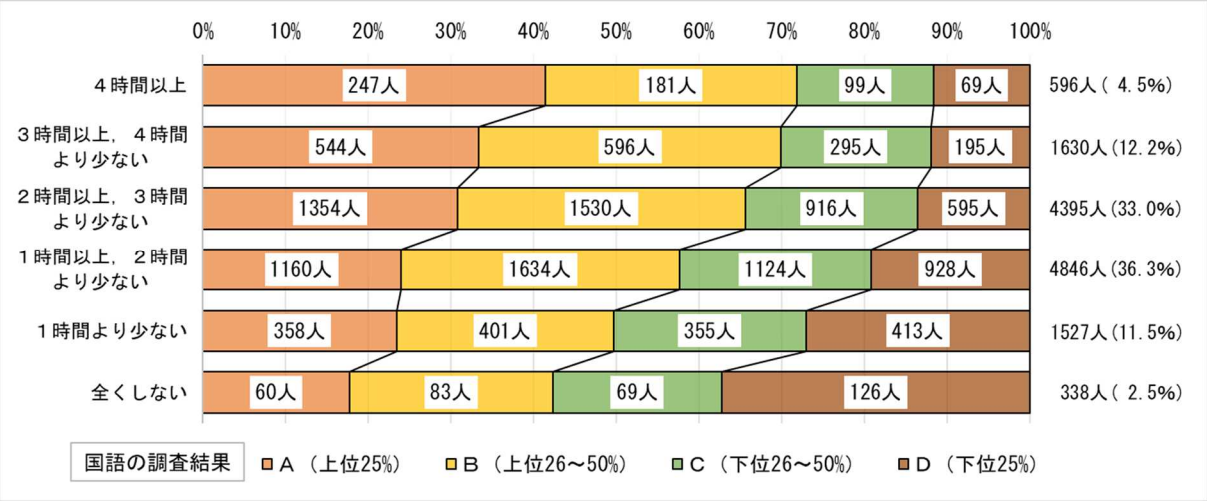
小学校６年生　国語



中学校１年生　国語



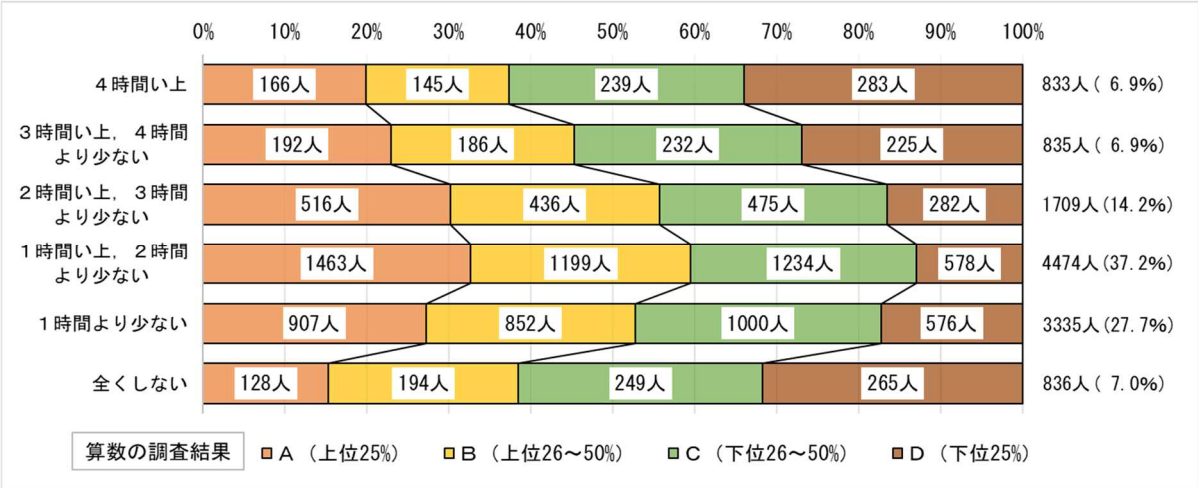
中学校２年生　国語



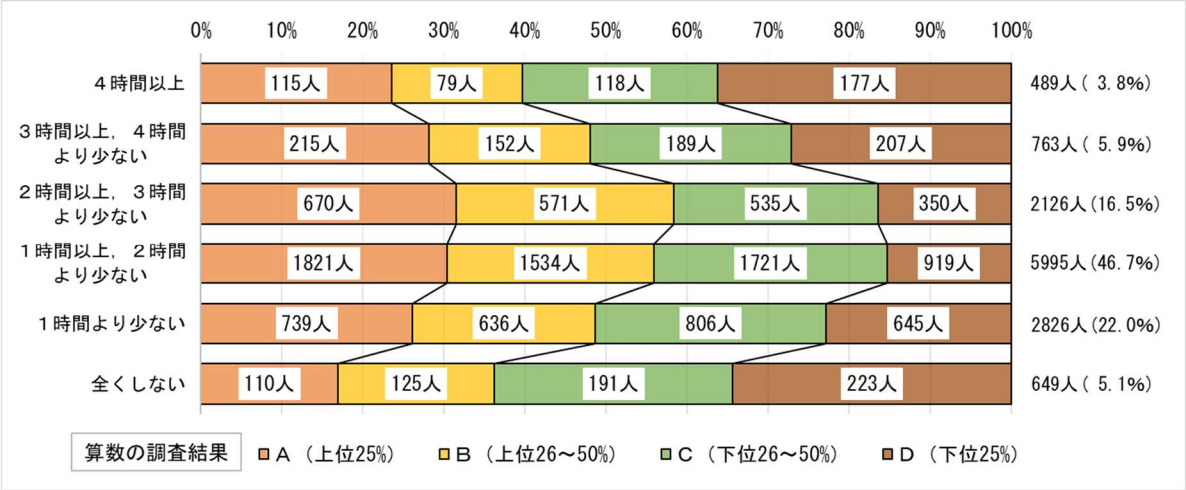
縦軸：質問『土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含みます）』

横軸：『算数・数学の調査結果』（小４～中２）

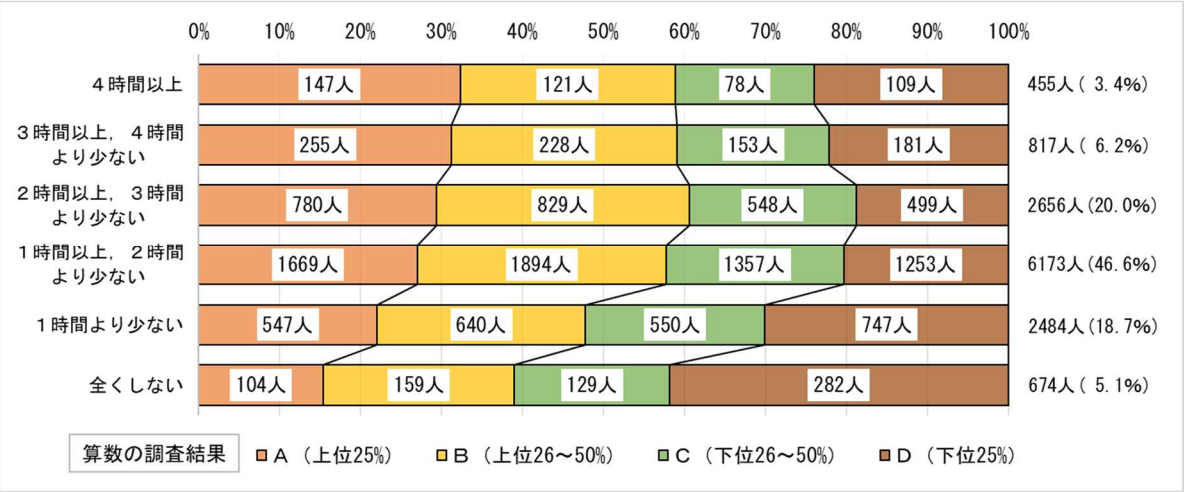
小学校４年生　算数



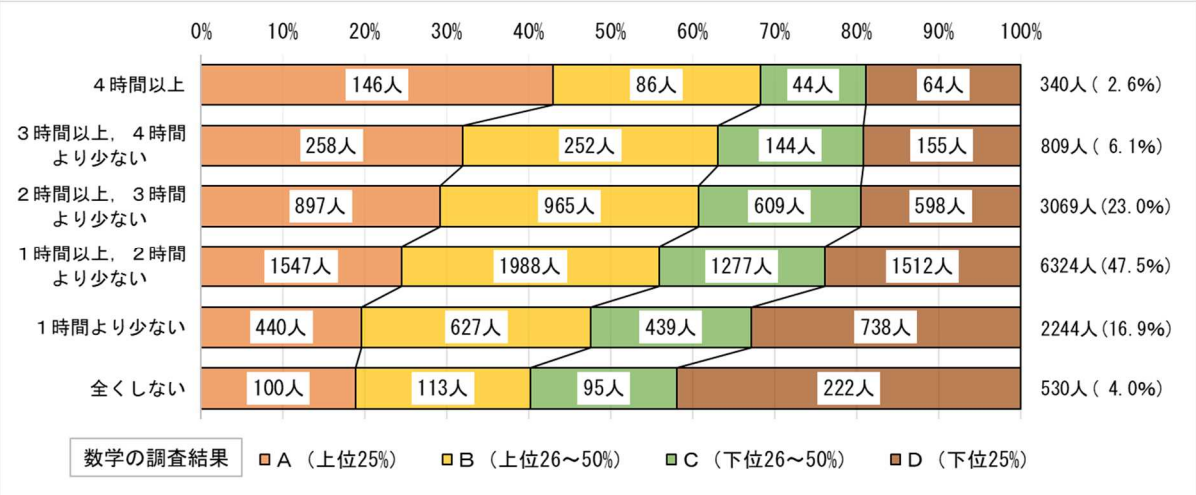
小学校５年生　算数



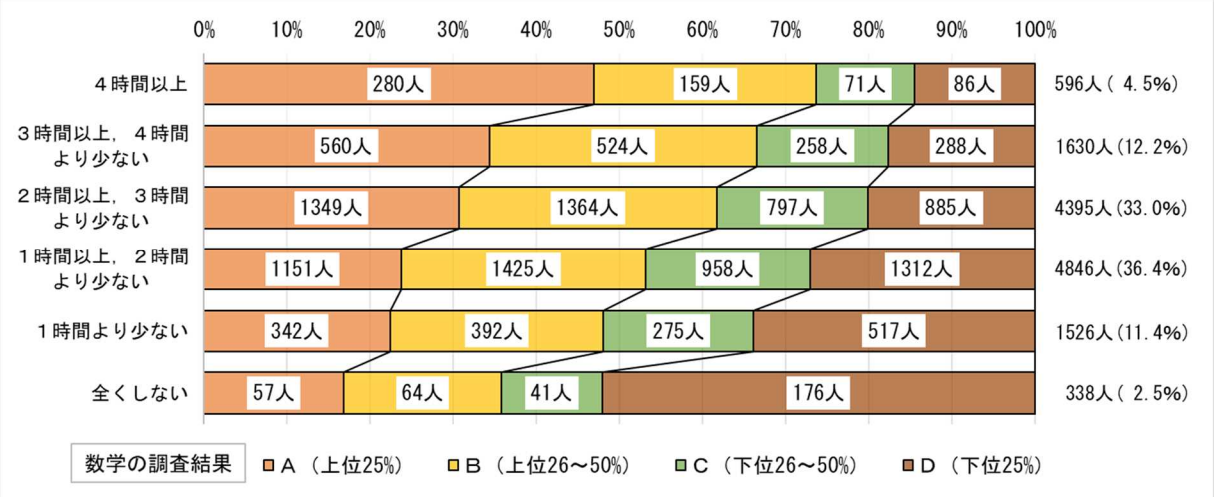
小学校６年生　算数



中学校１年生　数学

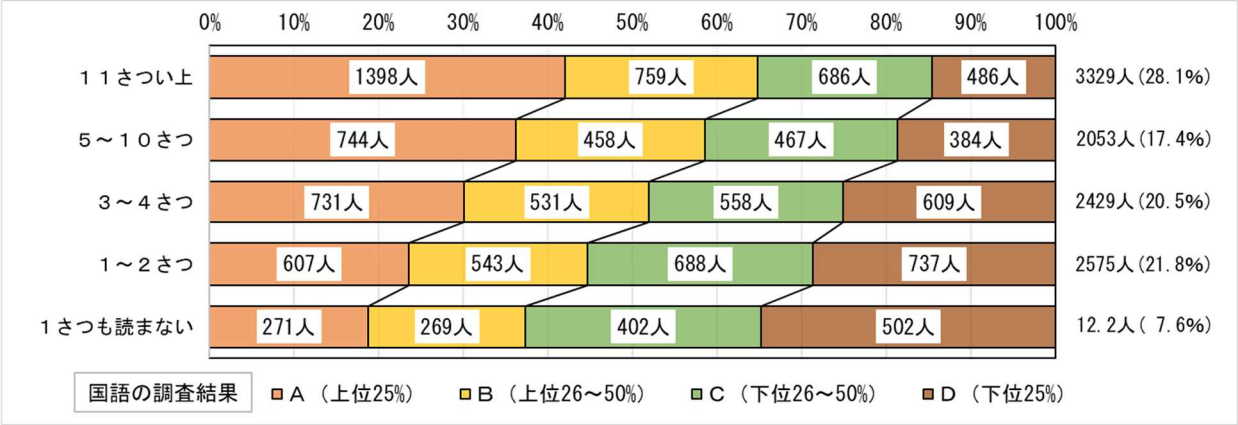


中学校２年生　数学

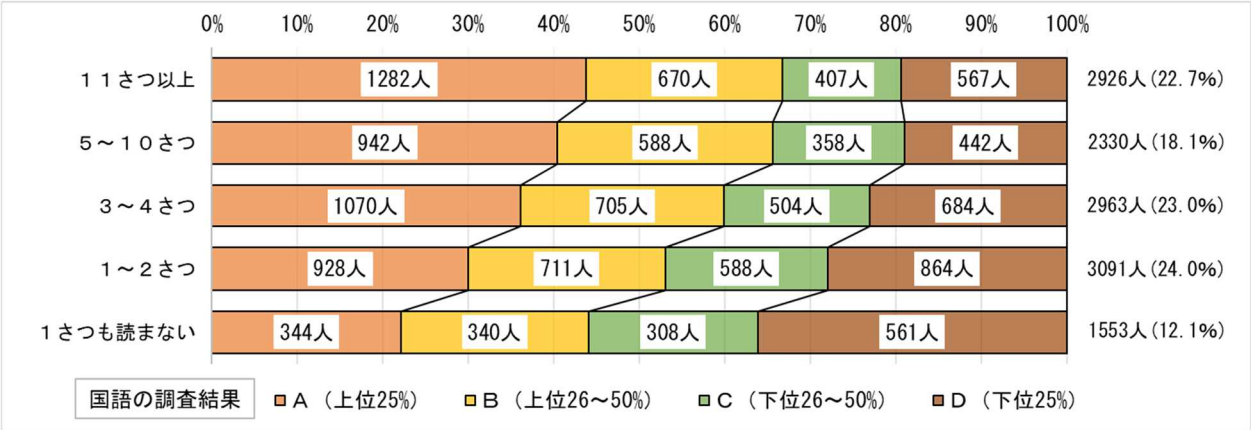


縦軸：質問『１か月に、何冊くらいの本を読みますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除きます）』
横軸：『国語の調査結果』（小４～中２）

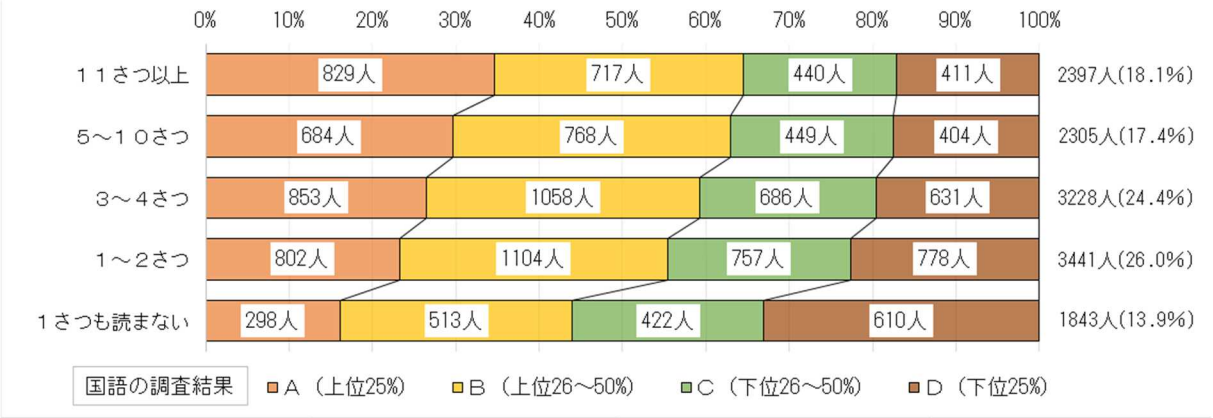
小学校４年生　国語



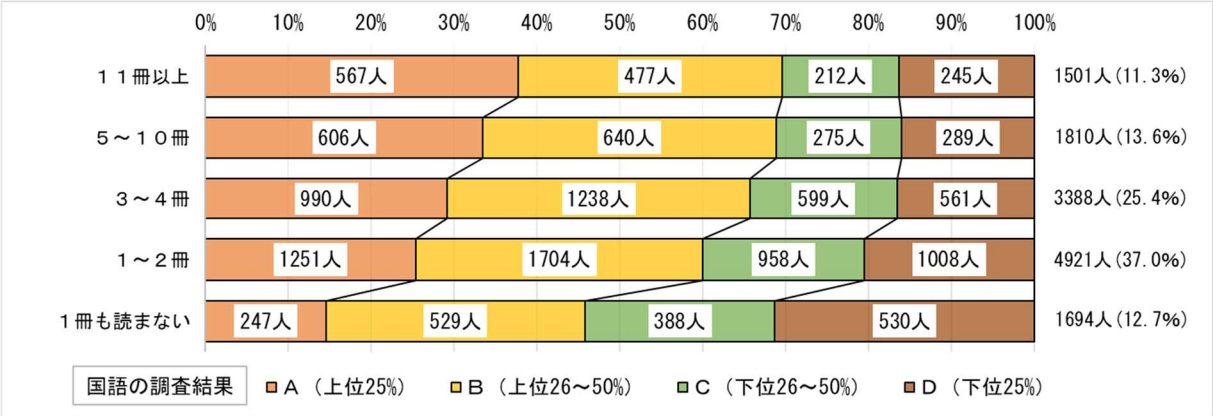
小学校５年生　国語



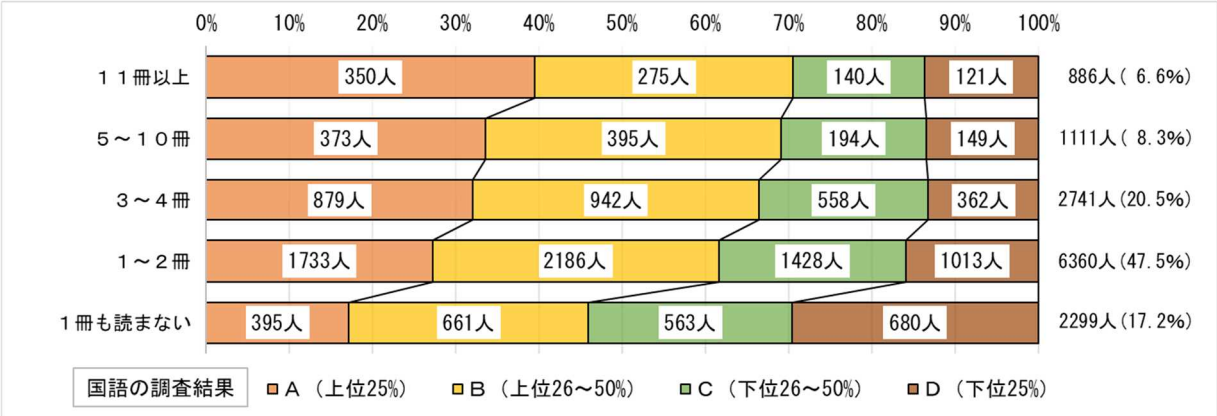
小学校６年生　国語



中学校１年生　国語

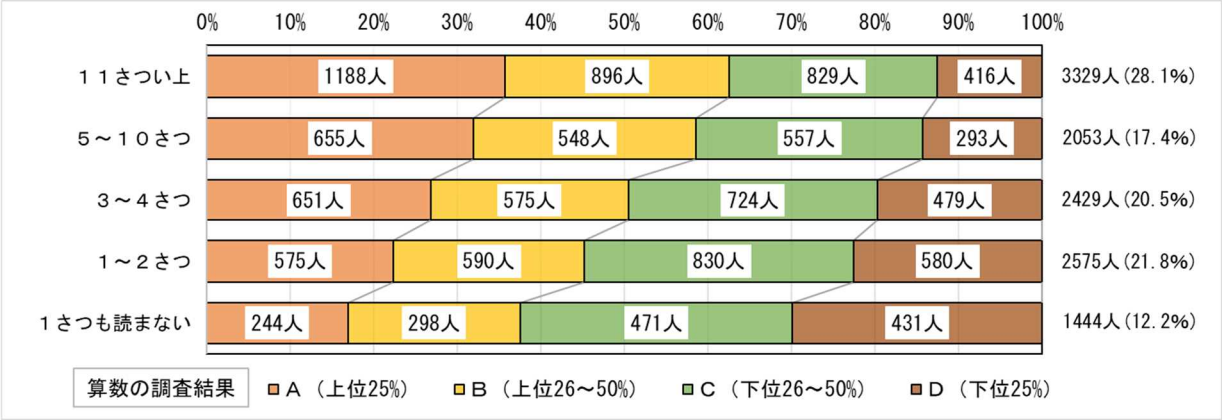


中学校２年生　国語

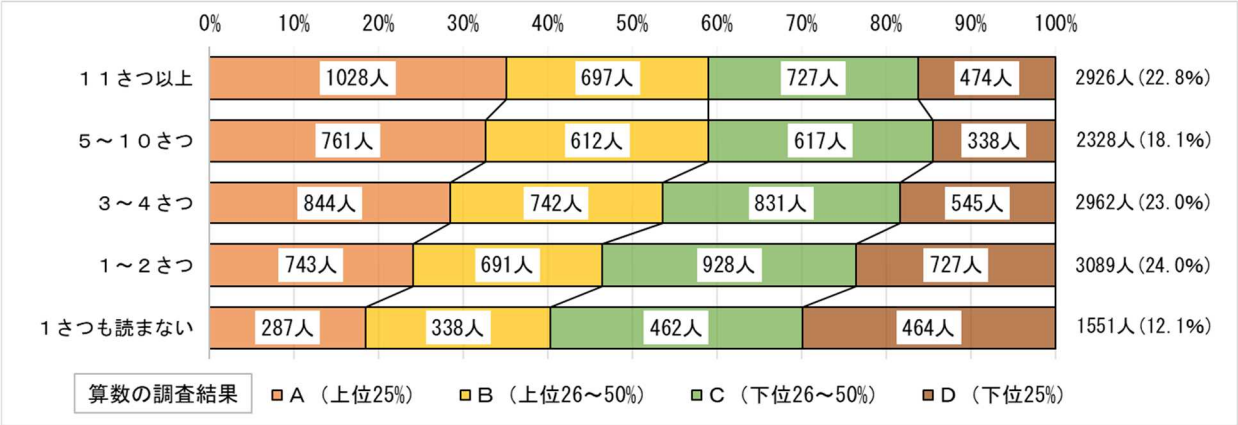


縦軸：質問『１か月に、何冊くらいの本を読みますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除きます）』
横軸：『算数・数学の調査結果』（小４～中２）

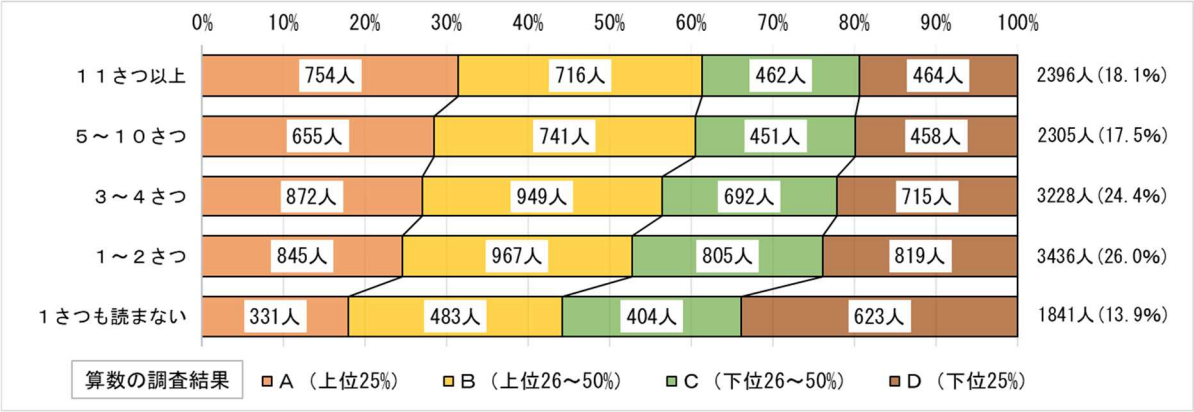
小学校４年生　算数



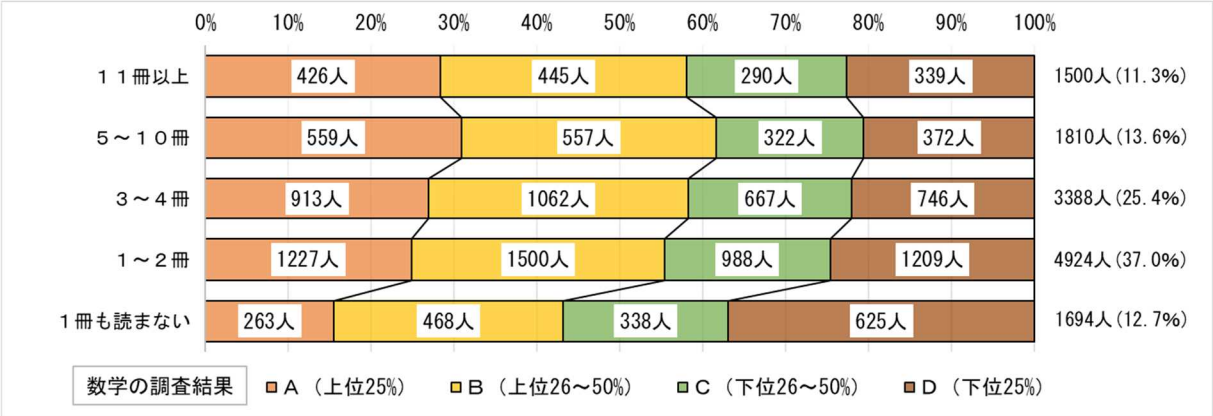
小学校５年生　算数



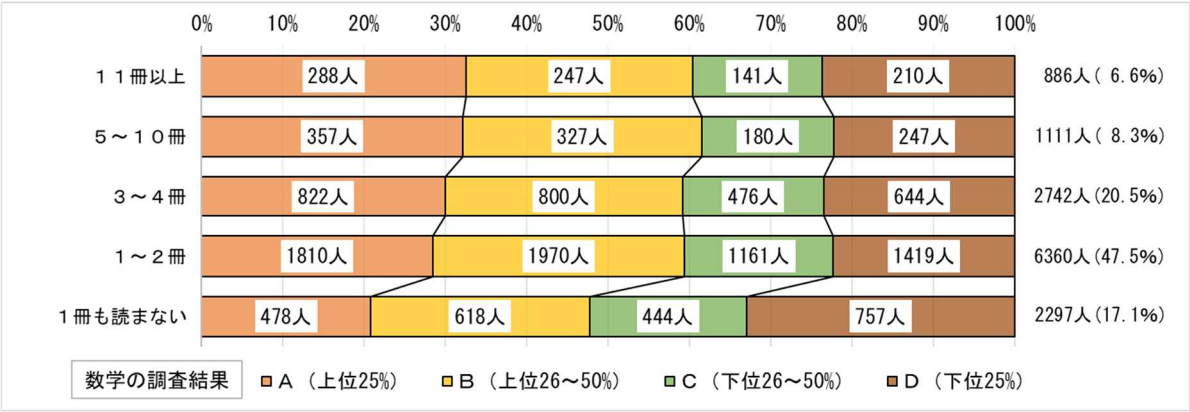
小学校６年生　算数



中学校１年生　数学

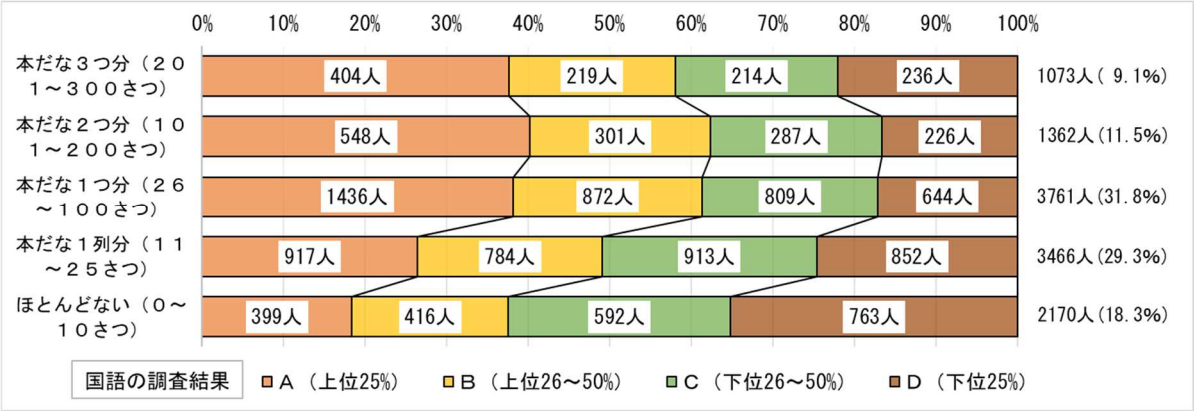


中学校２年生　数学

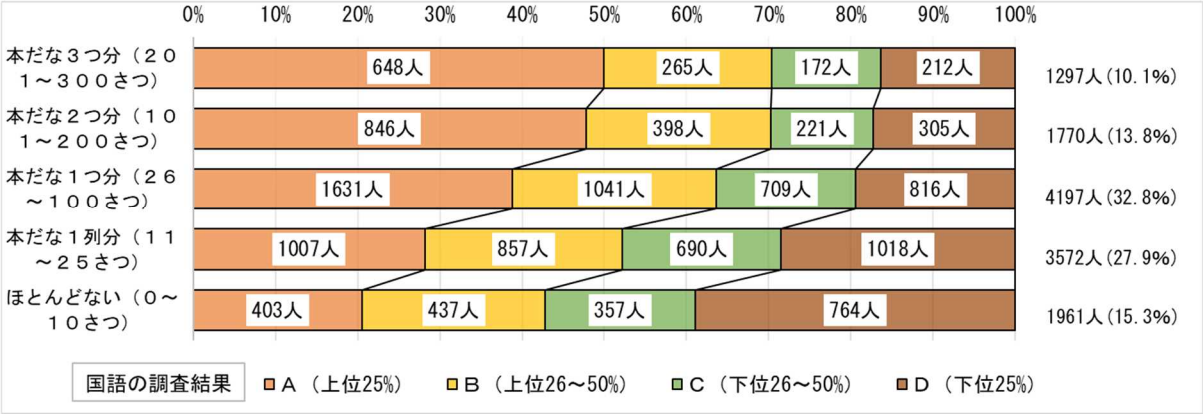


縦軸：質問『家には、自分や家の人が読む本がどれくらいありますか』
横軸：『国語の調査結果』（小４～中２）

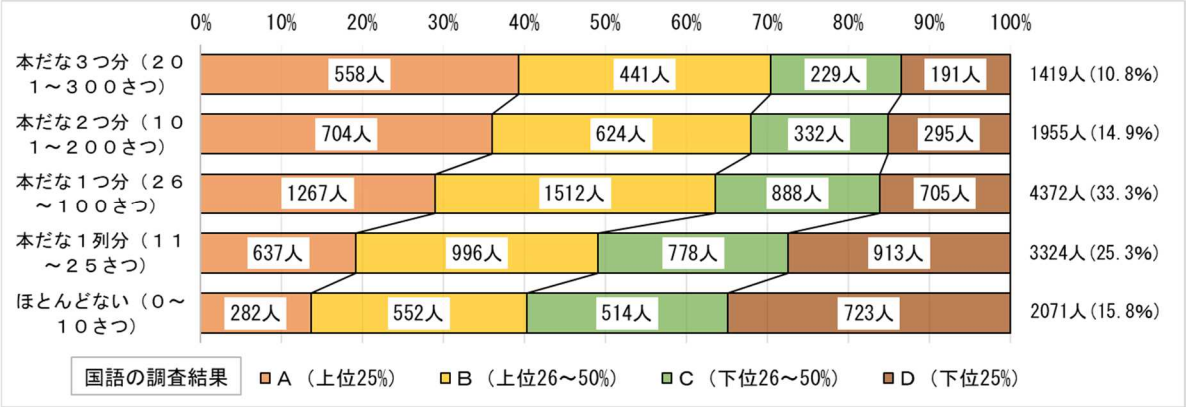
小学校４年生　国語



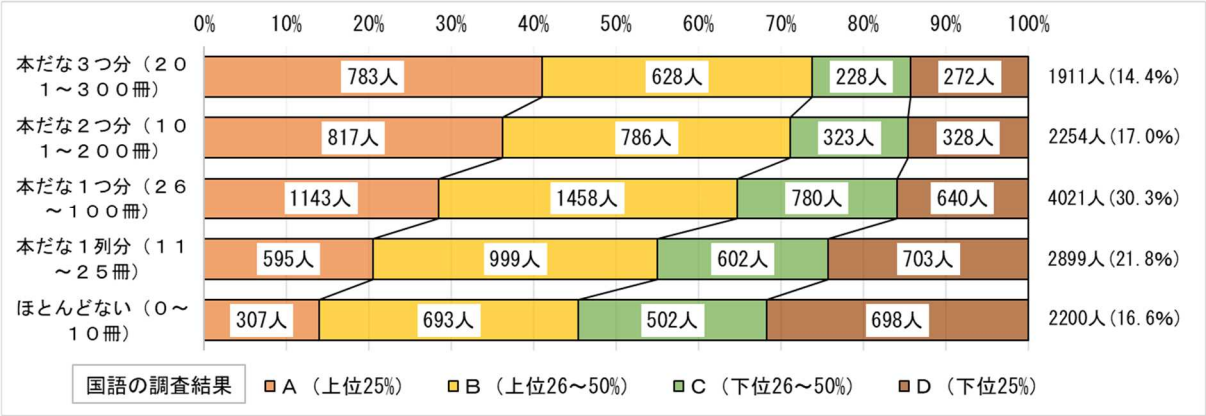
小学校５年生　国語



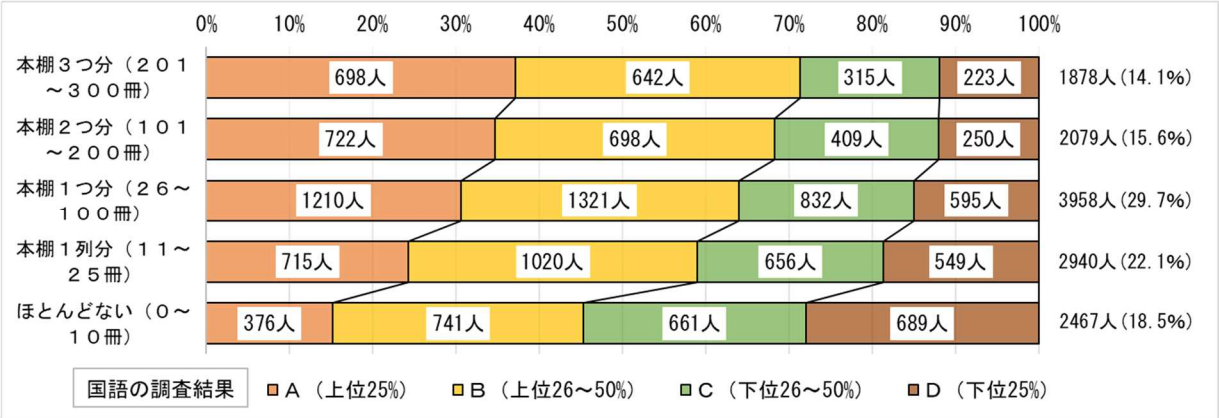
小学校６年生　国語



中学校１年生　国語

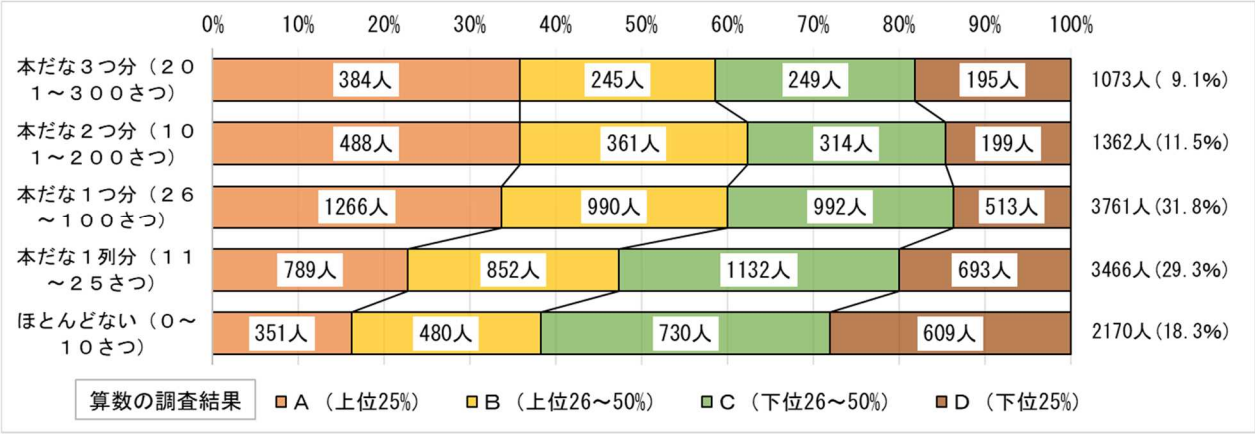


中学校２年生　国語

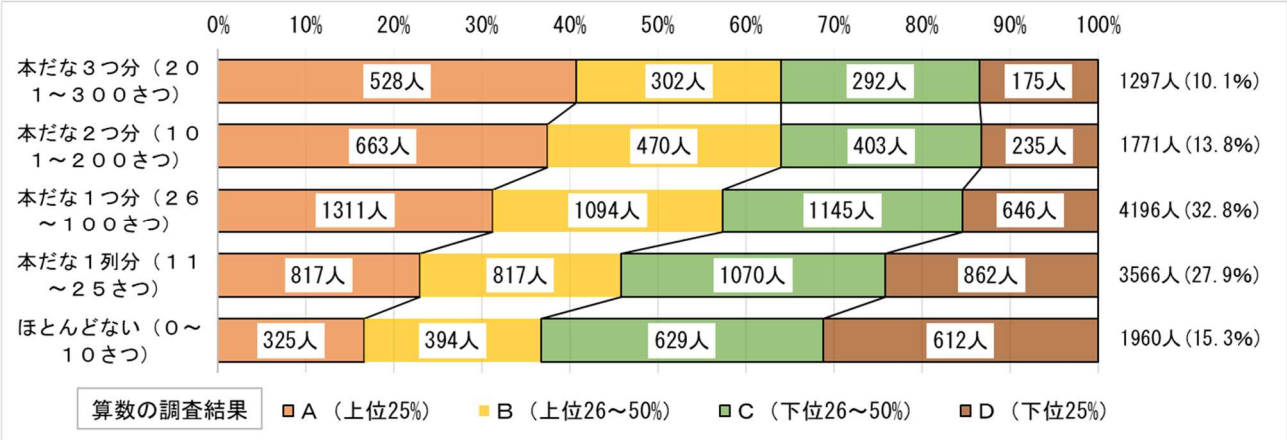


縦軸：質問『家には、自分や家の人が読む本がどれくらいありますか』
横軸：『算数・数学の調査結果』（小４～中２）

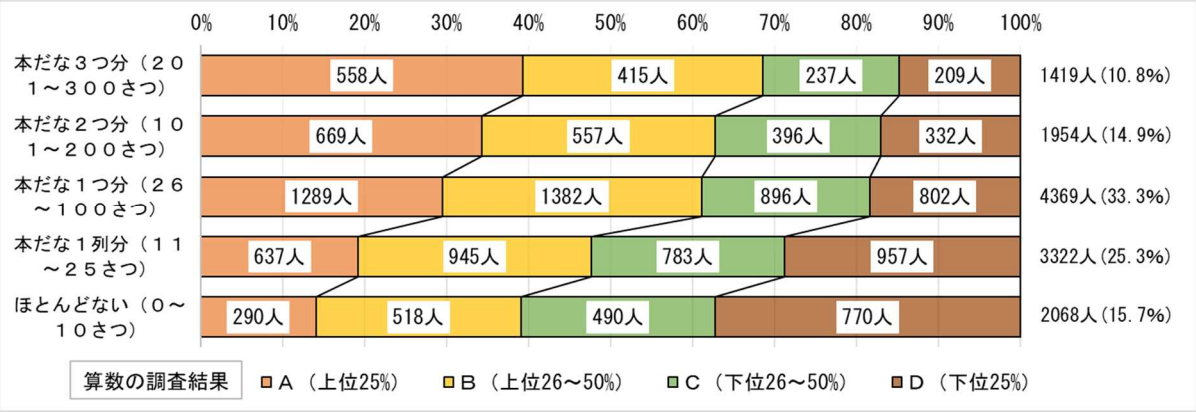
小学校４年生　算数



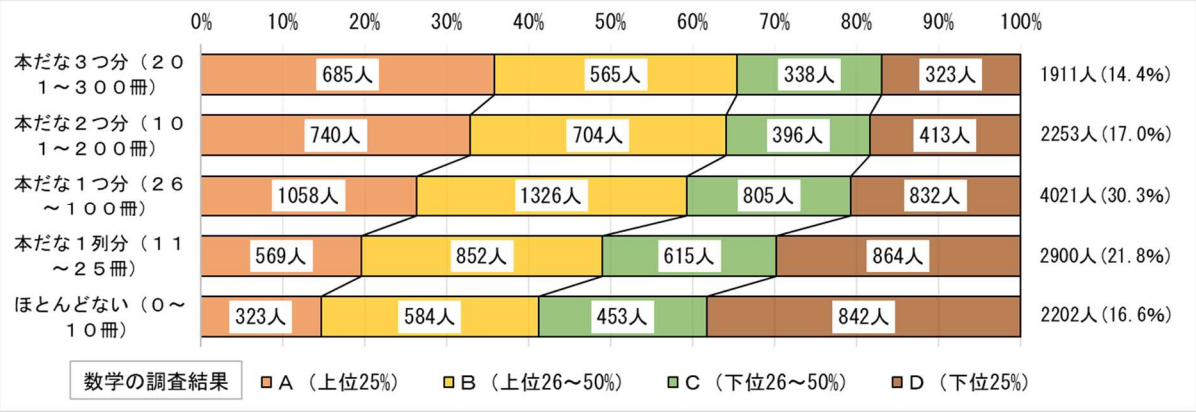
小学校５年生　算数



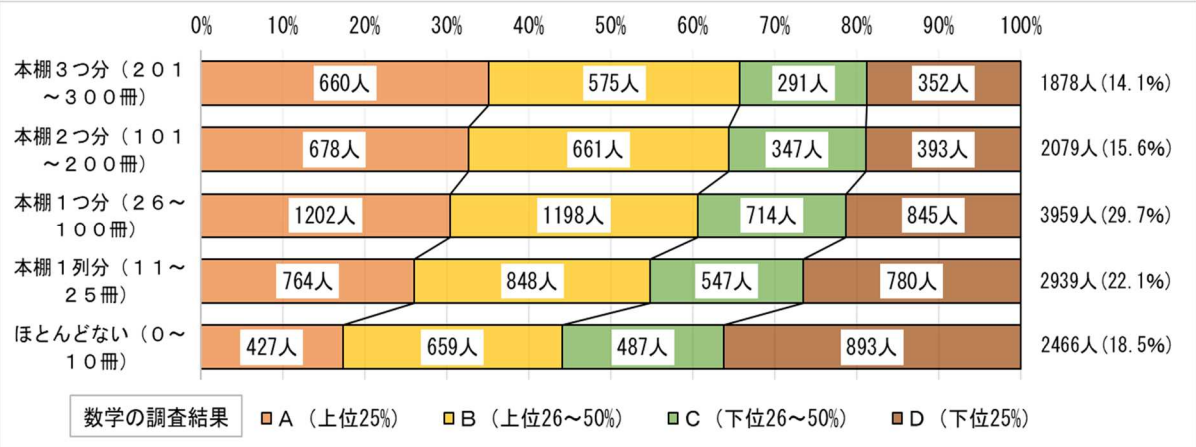
小学校６年生　算数



中学校１年生　数学



中学校２年生　数学



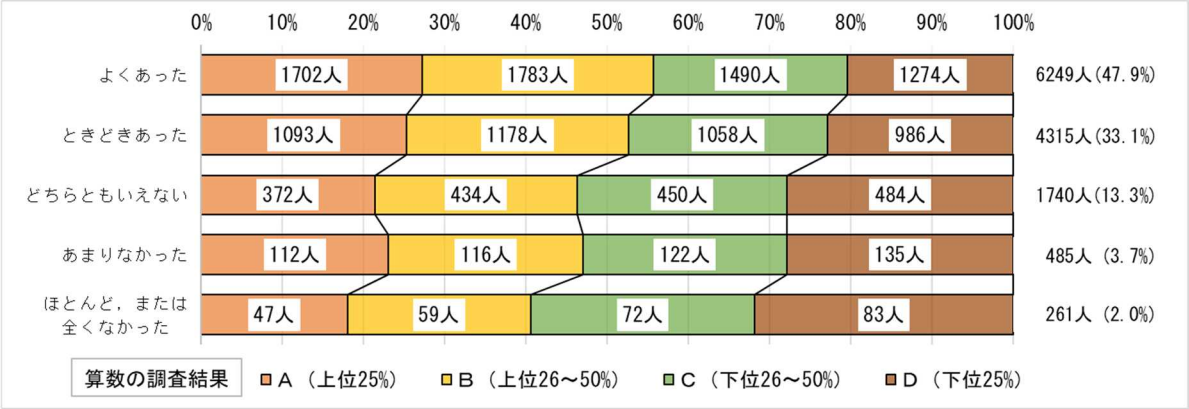
7　児童生徒質問紙調査結果と「学力の伸び」

（１）授業に関すること

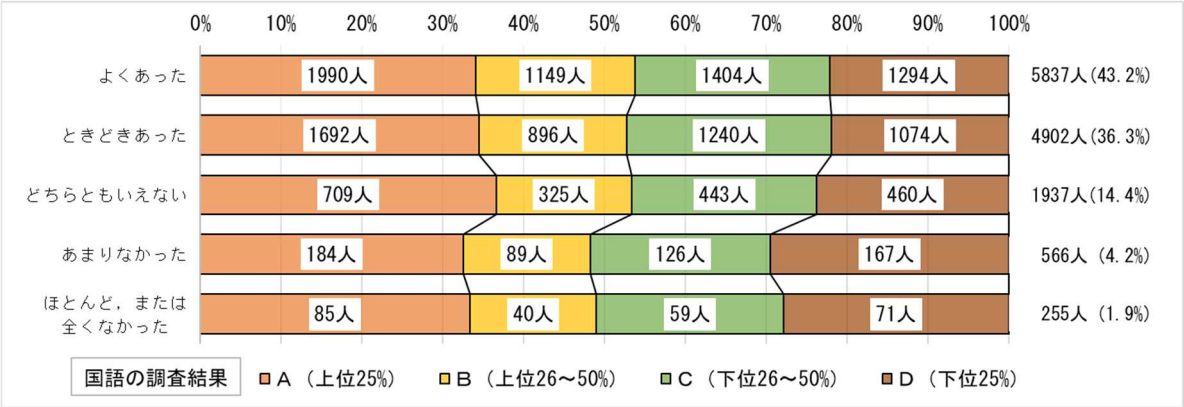
＜児童生徒質問紙調査結果と**「学力の伸び」**の階層のクロス集計結果から＞

縦軸：質問『授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがありましたか』
横軸：『国語の調査結果』（小６・中２）『算数・数学の調査結果』（小５・中１）

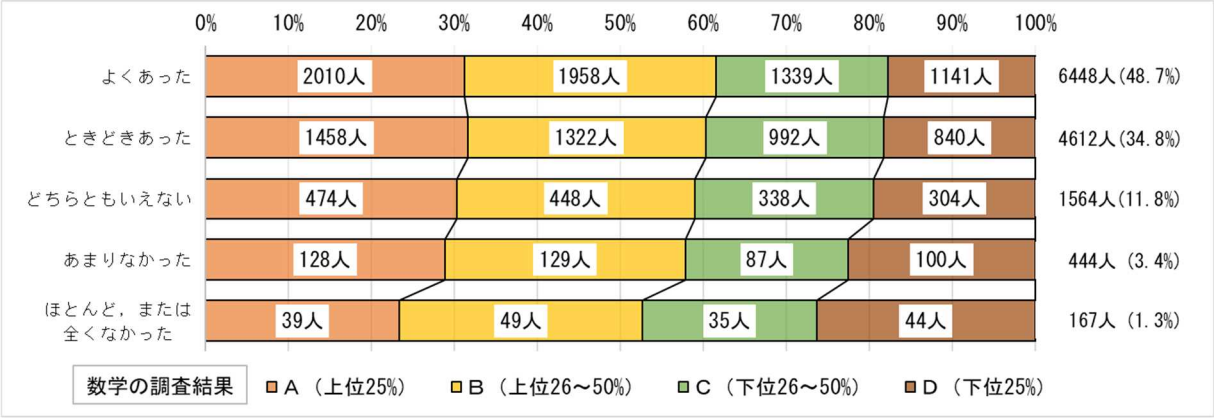
小学校５年生　算数



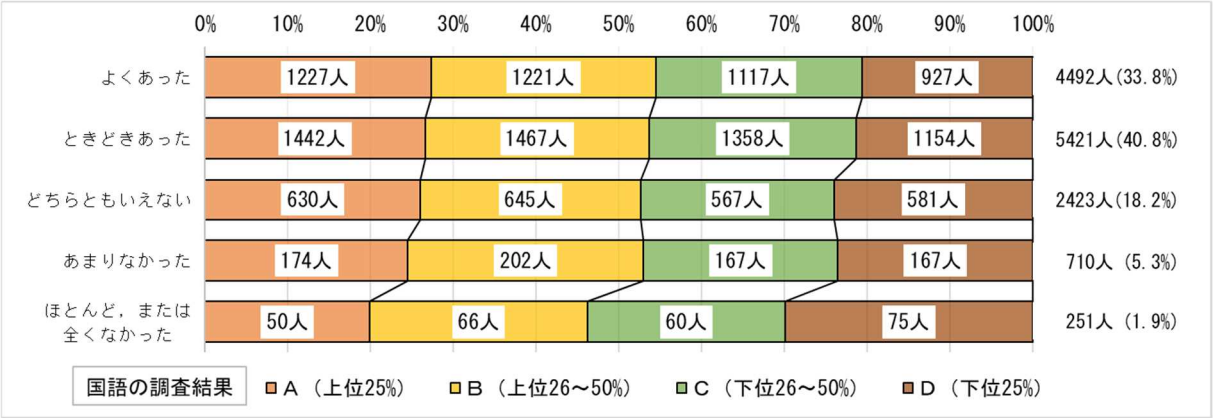
小学校６年生　国語



中学校１年生　数学



中学校２年生　国語



（２）学習意欲や学習環境に関すること

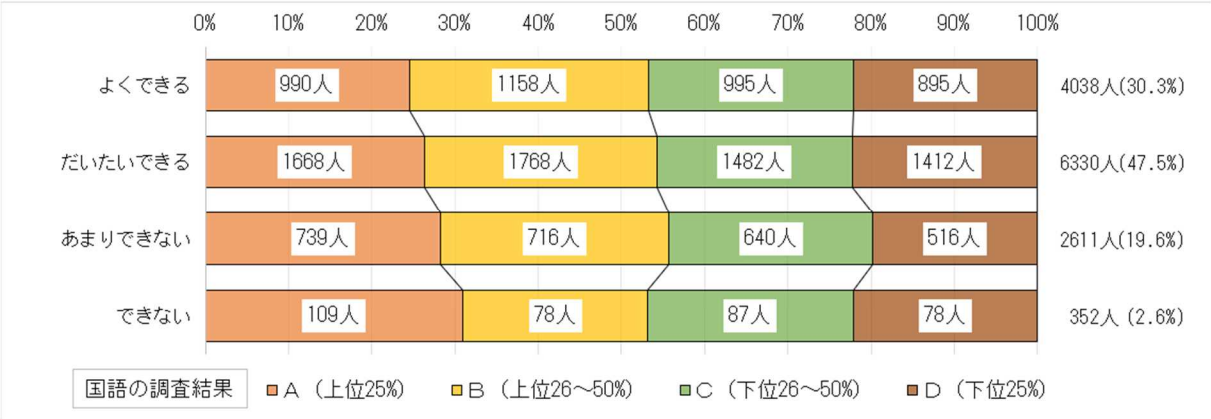
＜児童生徒質問紙調査結果と**「学力の伸び」**のクロス集計結果から＞

縦軸：質問『先生の話や友達の発表をしっかり聞き、発表する（考えを伝える）ことができていますか。』
横軸：『国語の調査結果』（小５～中２）

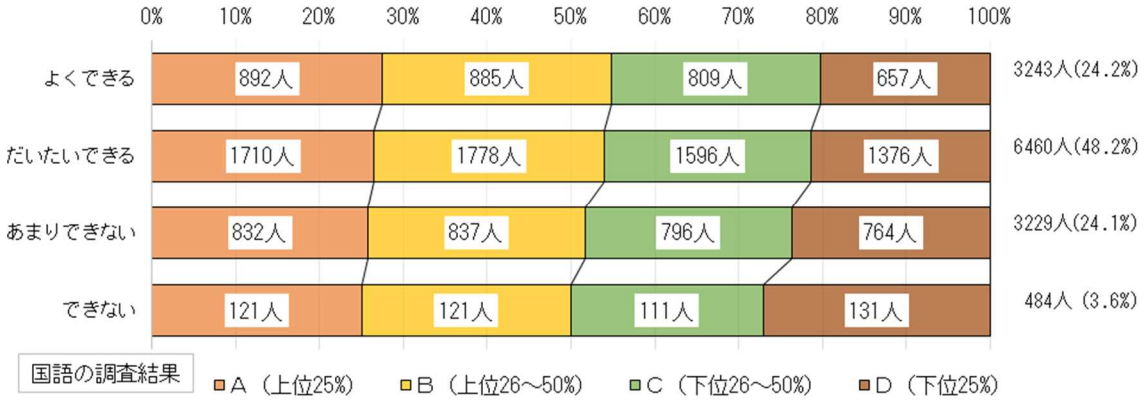
小学校５年生　国語

小学校６年生　国語

中学校１年生　国語



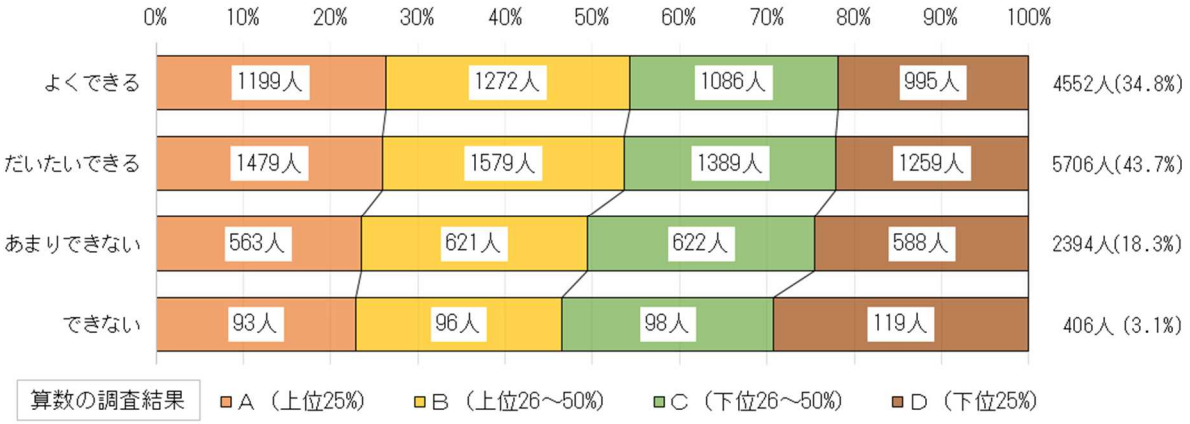
中学校２年生　国語



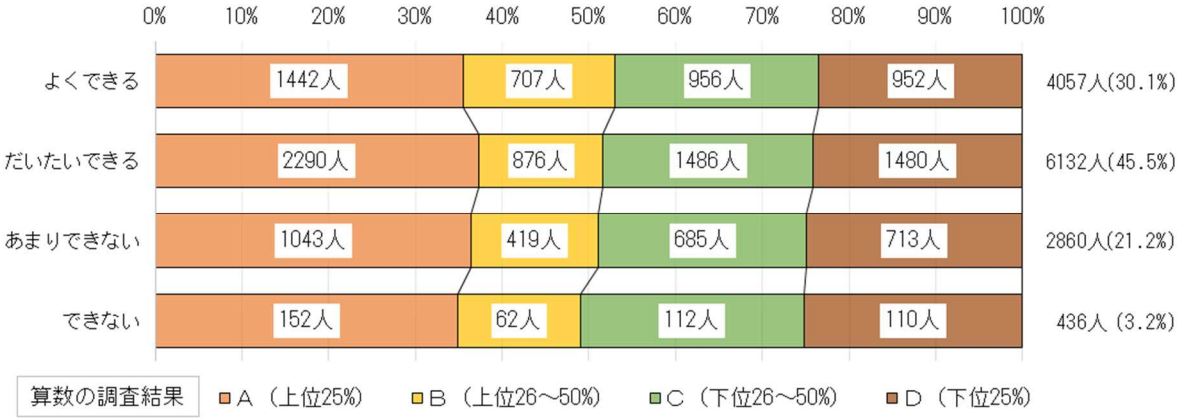
＜児童生徒質問紙調査結果と**「学力の伸び」**のクロス集計結果から＞

縦軸：質問『先生の話や友達の発表をしっかり聞き、発表する（考えを伝える）ことができていますか。』
横軸：『算数・数学の調査結果』（小５～中２）

小学校５年生　算数

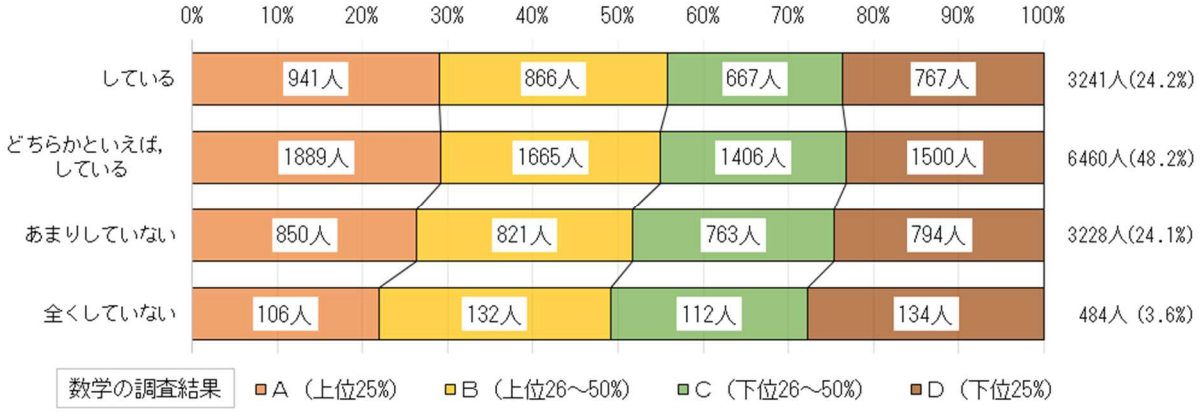


小学校６年生　算数



中学校１年生　数学

中学校２年生　数学



（３）家庭での生活に関すること

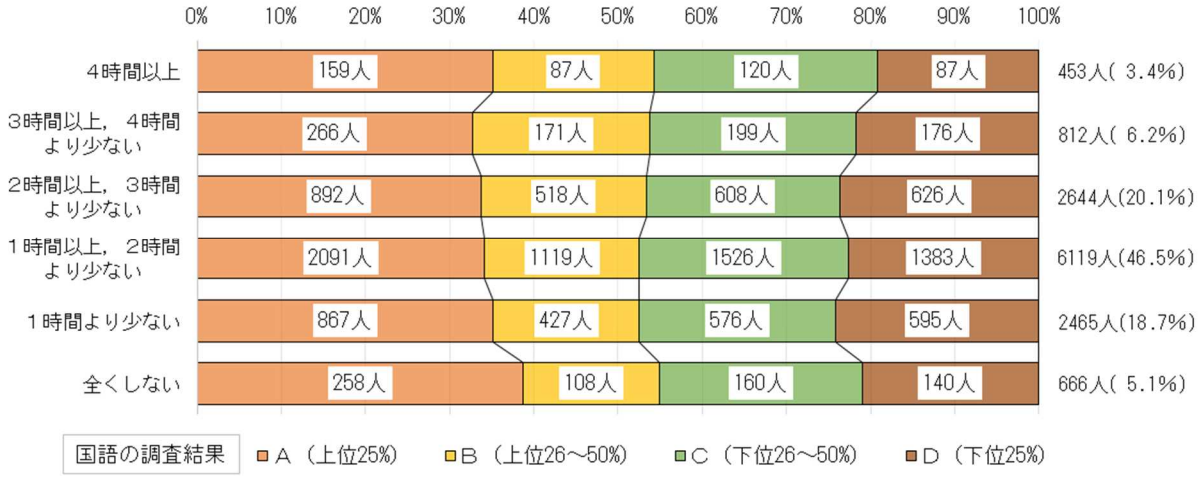
＜児童生徒質問紙調査結果と「学力の伸び」の階層のクロス集計の結果から＞

縦軸：質問『土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含みます）』

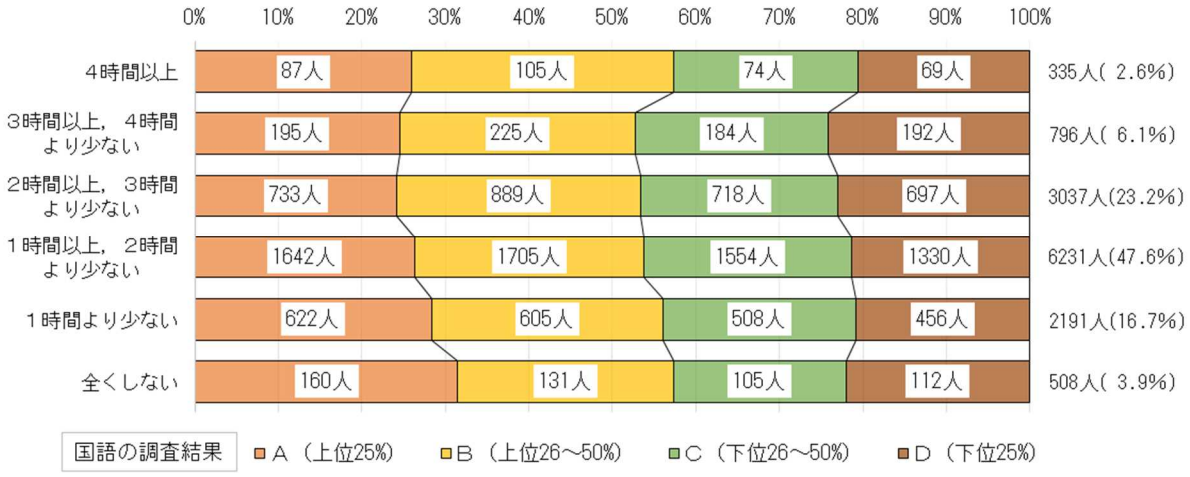
横軸：『国語の調査結果』（小５～中２）

小学校５年生　国語

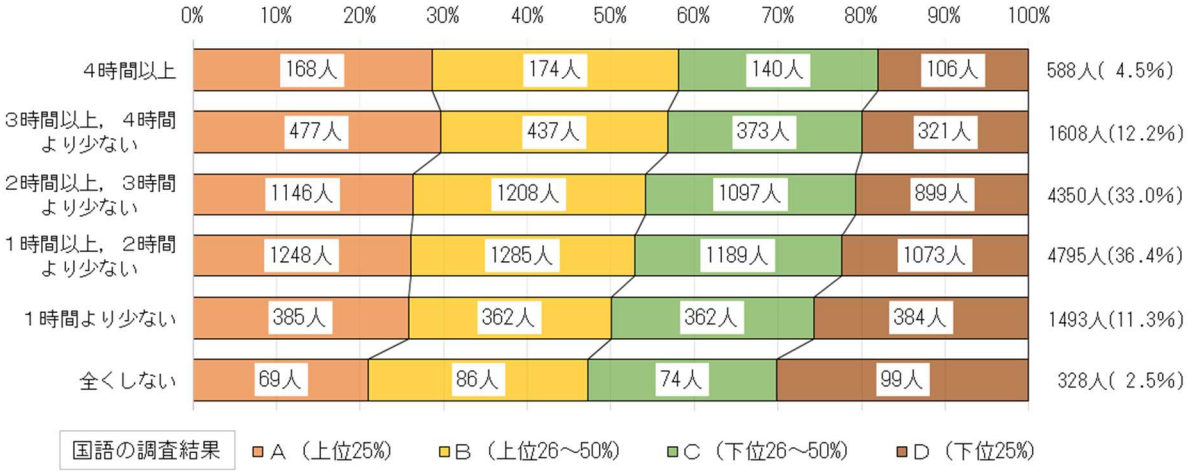
小学校６年生　国語



中学校１年生　国語



中学校２年生　国語

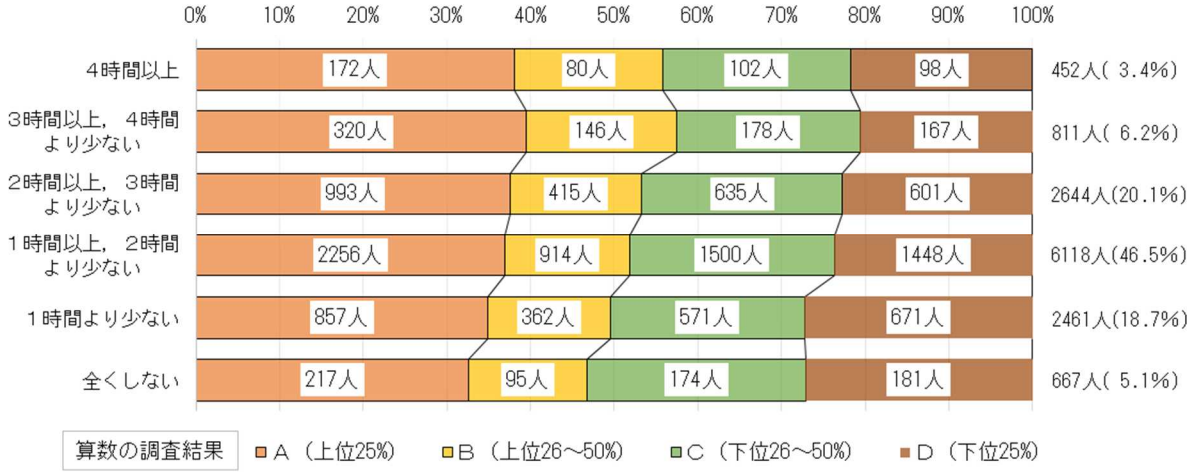


縦軸：質問『土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含みます）』

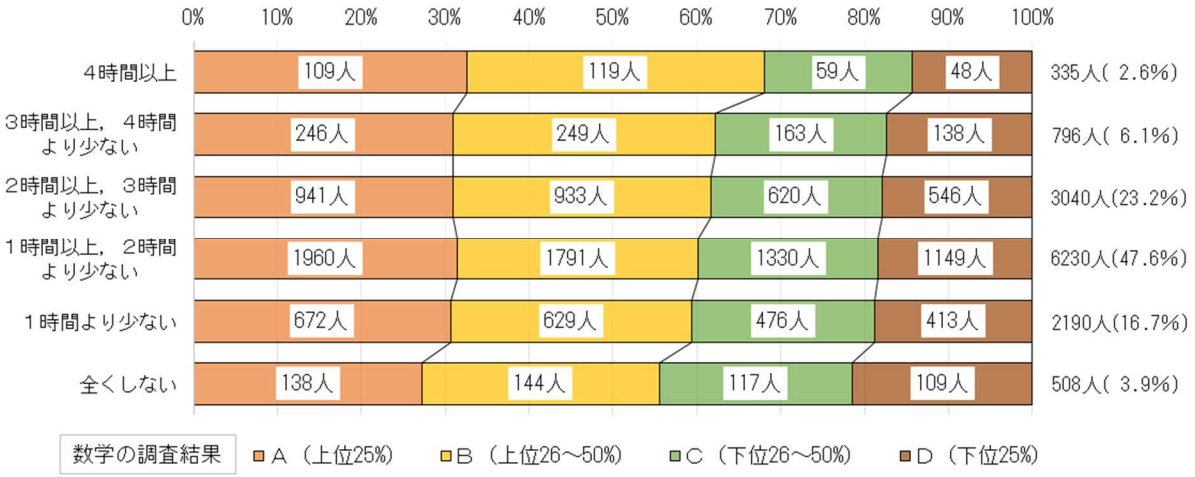
横軸：『算数・数学の調査結果』（小５～中２）

小学校５年生　算数

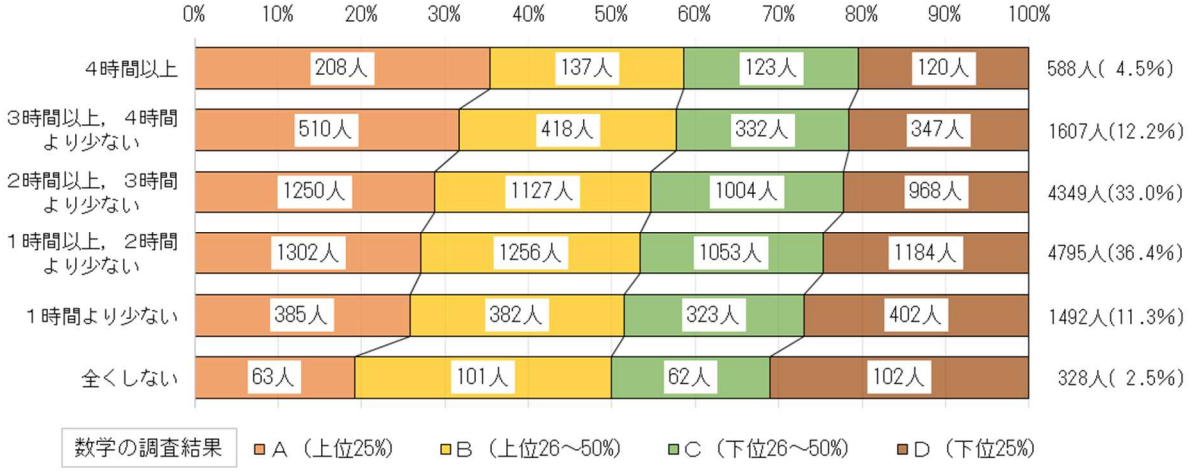
小学校６年生　算数



中学校１年生　数学



中学校２年生　数学



○　県全体としてクロス集計を行った結果、どの質問項目においても、「学力の伸び」の大きさと関係が見られた回答はなかった。

○　一人一人の学力の伸びの要因は実に様々であり、まさに各学校における児童生徒の実態を捉え、<u>個別最適化された学びを実現することが必要である</u>と言える。

8　エビデンスに基づく授業改善に向けた支援について

1　子ども一人一人の「学力のレベルと学力の伸び」の可視化

今年度初めて子ども一人一人の学力の伸びが数値化された。先に各学校に配付されている「帳票４０」には、以下のとおり前年度調査の学力のレベルとの比較により、「昨年度からの学力の伸び」が数値として示されている。

40　　学校用

令和4年度ふくしま学力調査（小学校6年生）

学力分析データ（学力レベル・伸び・学習方略・非認知）児童生徒別

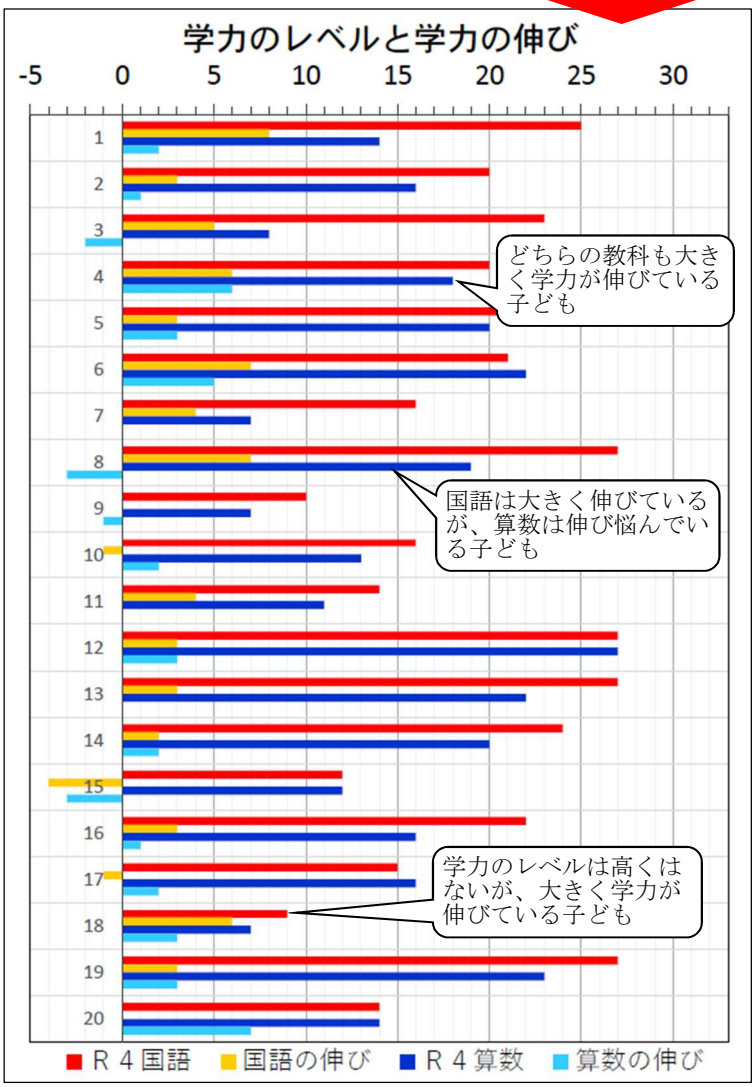
〇〇〇立△△小学校

本帳票の「主体的・対話的で深い学びの実施」「学習方略」「非認知能力」の数値の範囲は、1.0～5.0となっています。
数値が高いほど、よい値となっています。
「昨年度からの学力の伸び」がマイナスの場合は、赤字で表記しています。
令和3・4年度の非認知能力の数値及びそれらの変化量は、参考値として記載しています。

	国語			算数・数学		
	R4レベル	昨年度からの学力の伸び	R3レベル	R4レベル	昨年度からの学力の伸び	R3レベル
学校平均	8-B	2	7-A	7-A	3	6-A
市町村平均	7-A	3	6-A	7-C	3	6-C
福島県平均	7-B	2	6-A	7-C	3	6-C

						R4在籍情報					R3在籍情報								
年度	市町村教育委員会コード	市町村教育委員会名	学校コード	学校名	個人番号	学年	組	出席番号	性別	個人番号	学年	組	出席番号	性別	R4国語レベル	昨年度からの学力の伸び	R3国語レベル	R4算数・数学レベル	昨年度からの学力の伸び	R3算数・数学レベル
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700001	6	1	1	2	1700001	5	1	1	2	9-C	8	6-B	5-B	2	4-A
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700002	6	1	2	1	1700002	5	1	2	1	7-B	3	6-B	6-C	1	5-A
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700003	6	1	3	2	1700003	5	1	3	2	8-B	5	6-A	3-B	-2	4-C
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700004	6	1	4	1	1700004	5	1	4	1	7-B	6	5-B	6-A	6	4-A
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700005	6	1	5	1	1700005	5	1	5	1	9-B	3	8-B	7-B	3	6-B
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700006	6	1	6	2	1700006	5	1	6	2	7-A	7	5-B	8-C	5	6-B
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700007	6	1	7	2	1700007	5	1	7	2	6-C	4	4-A	3-C	0	3-C
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700008	6	1	8	1	1700008	5	1	8	1	9-A	7	7-B	7-C	-3	8-C
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700009	6	1	9	1	1700009	5	1	9	1	4-C	0	4-C	3-C	-1	3-B
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700010	6	1	10	2	1700010	5	1	10	2	6-C	-1	6-B	5-C	2	4-B

本年度義務教育課内に立ち上げた研修支援チームでは、「学力の伸び」から、子どもたちのどのような姿が見えてくるのか、数値だけでは見えにくいのではと考えた。そこで、右のグラフのように、「学力のレベルと学力の伸び」を可視化する「グラフ化ツール」を作成し、これまでの訪問の際に活用し、検証を進めてきた。



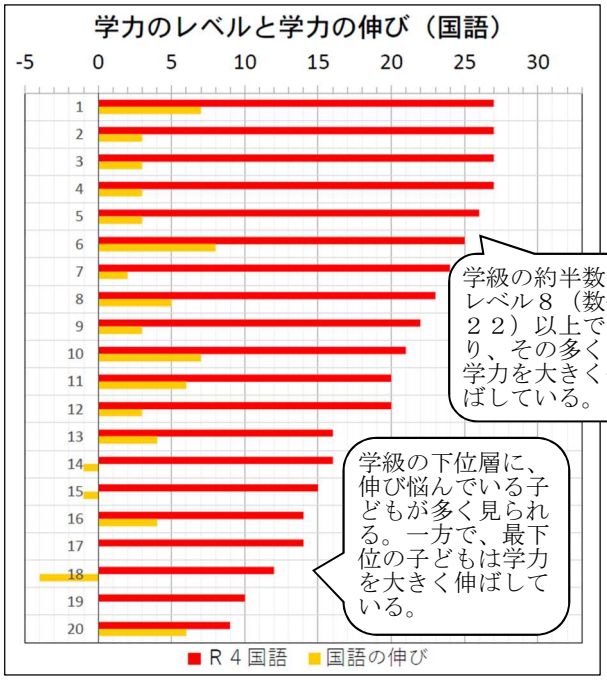
右のグラフは、小学校６学年の例であり、令和４年度の国語と算数の「学力のレベル」と「昨年度からの学力の伸び」を表しており、４本で１人の子どもを示している（学籍番号順）。

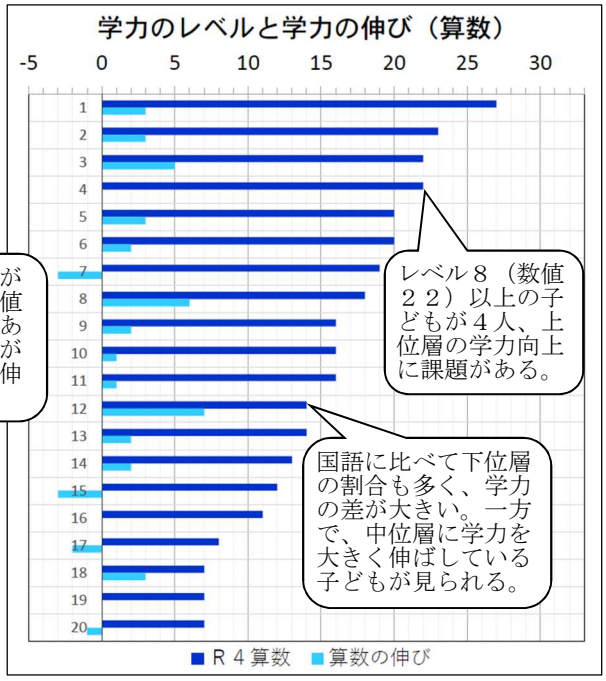
このグラフから、例えば、どちらの教科も大きく学力が伸びている子どもや、国語の学力は大きく伸びているが、算数は伸び悩んでいる子どもなど、子ども一人一人の学力の状況が見えてくる。

これらの結果を基に、子ども一人一人に寄り添い、称賛したり、励ましたりすることはもちろんだが、これらの結果を授業改善に生かすことが大切であると考える。単に結果を見て、学力の状況を把握するだけでなく、例えば、学力が大きく伸びている子どもを、校内研究授業における抽出対象とし、事後研究会で学習への取組状況等を共有したり、伸び悩んでいる子どもに対する個別支援の方法を検討したりすることが考えられる。他にも、子ども一人一人にどのような変容があったのかを、生徒指導の面から話し合うことも考えられる。

２　エビデンスを教科指導に生かすために

子ども一人一人の学力の状況を把握すると共に、教科指導にも生かしたい。そこで、以下のように教科ごとにグラフを分けて表してみる（学力のレベルと学力の伸びの順）。先日訪問した小学校は、現職教育の研究教科が国語であった。グラフを見ると、どの学年においても、国語の学力を大きく伸ばしていることから、学校での取組を客観的に評価することに繋がった。





例えば、上の２つのグラフを見ると、国語においては、学級の約半数がレベル８（数値２２*）以上であり、その多くが学力を大きく伸ばしている。この学級での取組を互見授業等により共有することで、学校全体の授業改善が図られる。また、算数においては、レベル８（数値２２）以上の子どもの数が少なく、上位層の学力向上が課題である。一方で、中位層に学力を大きく伸ばしている子どもがいることから、どのような指導が、学力の伸びによい影響を与えているかを検証し、自身の授業を振り返ることで、具体的な指導方法等の改善に繋げられると考える。

さらに、自校において、教科のどの領域、どの観点において強みや課題が見られるかは、「帳票０９」や「帳票２８」から、学年全体や学級ごとの状況を把握することができる。さらには、必要に応じて「帳票０１」から、子ども一人一人の採点結果を確認し、個別最適な学びに繋げることも大切である。

なお、児童生徒質問紙調査から見える「主体的・対話的で深い学び」「学習方略」「非認知能力」等の分析結果の活用については、今後研究を進め、提案していく。

３　大学との連携によるふくしま学力調査等の結果分析活用

令和４年３月より、ふくしま学力調査等の結果分析を活用したエビデンスに基づく支援を行うため、宮城教育大学教職大学院の田端健人教授を分析協力者に招き、研究を進めている。前述で紹介した「グラフ化ツール」についても、田端教授の協力を得て、作成している。今後も、田端教授と連携しながら、データ分析を活用したエビデンスに基づく支援を行っていく。

【分析協力者プロフィール】

宮城教育大学　教職大学院　　教授　田端　健人　氏

＜研　究＞※科学研究助成事業（科研費）

○研究題目「グローバル世界を視野とする学力・非認知能力の効果的学校モデル」

※　本研究を進めるチームは、田端教授他７名

○研究の概要

・　児童生徒の学力と非認知能力を向上させる「効果的学校」の姿を明らかにすること。

・　校長のどのようなリーダーシップが、教職員のどのようなコラボレーションが、教師のどのような学級づくりや授業や支援が、児童生徒の学力と非認知能力を効果的に向上させるかを明らかにすること。

※　全国学力・学習状況調査等を用いて、上記の研究を行っている。

＜経歴等＞

2019 年４月～　宮城教育大学 大学院教育学研究科 専門職学位課程 高度教職実践専攻（教職大学院）　教授（現職）

2021 年４月～　文部科学省　学力調査アドバイザー（現職）

＜主な著書＞

○『IRT 分析ソフト EasyEstimation による全国学力・学習状況調査の検証と経年比較』（パイデイア出版　2022 年 6 月 13 日発行）

○『子どもの言葉データサイエンス入門－jReadability の活用と検証－』（パイデイア出版　2021 年）

【田端教授より】

ふくしま学力調査等の分析協力者の田端健人（たばたたけと）と申します。教育データサイエンスに基づく学力／非認知能力育成の研究と支援をしています。どうぞよろしくお願いいたします。

１．精度の高い分析による現状把握が大切！

学力／非認知能力を効果的に育成するためには、精度の高い児童生徒理解が大切です。学力テストや質問紙調査のスコアは、子ども個人と学級や学校集団を理解する貴重なデータです。そのデータ分析が粗いと、子ども理解が実態からズレてしまい、個人と集団をミスリードしてしまいます。データを精度よく分析し、日々の実践感覚と照合しながら、「成果」と「課題」をきちんと洗い出します。

学校現場の先生たちはえてして自分に厳しいので「課題」に目を光らせがちですが、「成果」に光を当てることも非常に大切です。私のこれまでの分析経験からすると、先生たちが力を入れて取り組んだ指導や学習は、「成果」としてデータにしっかり表れてきます。児童生徒は先生たちの思いや働きかけを素直に受け止め、成長の糧としていることに感動させられるほどです。児童生徒や教師集団の「成果」を可視化し、学校や教育委員会などの

組織でその「成果」を共有し、先生方の自信とやりがいにしてほしいと思っています。

２.「学力の伸び」の「可視化ツール」

児童生徒の学力と非認知能力の実態を把握し、「成果」と「課題」を洗い出すために、ふくしま学力調査結果はとても貴重なデータです。全国学力・学習状況調査や標準学力テスト（NRT）と合わせて、ぜひ効果的に利活用してください。データの効果的な利活用の方法を、これから少しずつご紹介していきます。

今回義務教育課の研修支援チームが開発し提案しているグラフも、ふくしま学力調査の効果的分析です。帳票の数値だけでは見えにくい学力レベルと伸びを、一目瞭然に可視化するツールです。

グラフの見方として大事なのは、まずは「成果（強み）」を見つけることです。成果を見つけ、その成果を導いた諸要因を実践感覚から推測します。成果につながる要因は複数あるはずです。その要因を推定し、それを指導者や組織の「強み」として大切にします。次に、「もし改善するとすれば…」ということで、「課題」を見つけます。課題が見つかれば、改善の手立てを考えます。

３．ふくしま学力調査の効果的活用例

ふくしま学力調査のベースになっているのは、埼玉県が開発した項目反応理論（IRT）による学力調査と、非認知能力と学習方略を組み込んだ質問紙調査です。この IRT テストを先行導入したある自治体での活用例を紹介します。

その自治体のある中学校の校内研修を参観したのですが、たいへん感動的でした。

各学年でグループになり、帳票 40 から「伸び」が大きかった生徒を数名選び、「なぜこの子が伸びたのか？」をグループで話し合いました。話し合いのルールとして、先生方の「安心安全（セーフティ）」を最初にみんなで確認しました。だれかを非難攻撃しない、ベテランが若手を「指導」しない、経験年数にかかわりなくお互いをリスペクトするなどを、徹底しました。伸びが大きかった生徒を選んだのも、セーフティを確保するためでした。また、研修の最後に Google フォームで簡単なアンケートを取り、セーフティの度合いも評価してもらいました。

この中学校では、年度内に 3 回、同様の研修を実施しましたが、話し合いのセーフティが高まった 3 回目になって、伸び悩んでいる生徒も取り上げました。

参観して驚いたのは、先生方が生徒一人ひとりを普段からいかに温かくきめ細かく見て理解しているかでした。学力の伸びのデータなので、教科指導の話題に終始するかと思いきや、その生徒のクラスや部活での人間関係、授業中の態度、宿題への取り組み、行事での活躍、両親や兄弟姉妹の状態、前の年度からの変化など、その生徒のパーソナリティと家庭環境と学校生活の全体が、その生徒を見たこともない私にもひしひしと伝わってくるのでした。

この話し合いから、もう一つ私が知ったのは、先生方は「学力」を認知能力としてのみとらえているわけではない、ということでした。結果としての学力の伸びは、もちろんその教科の授業中の生徒の態度や認知能力の向上、効果的な教え方の成果ですが、それだけでなく、その生徒のパーソナリティの成長、また家庭や学校生活での人間関係の支えの成果でもあるのです。この中学校の先生方は、学力向上を、生徒たちのこうしたトータルなウェルビーイングの文脈で捉えていたのです。

学力と非認知能力のデータを、国レベル、自治体レベル、学校レベルで分析していると、「学力とは何か？」不思議な感覚をおぼえます。少なくとも、学力はドリル学習で上がるようなものではありません。「子どもが廊下を走っている学校で学力が高いためしはない」というある校長先生の言葉も去来します。児童生徒のトラブルが多く、生徒指導や保護者対応に苦慮する学校の学力テストは、やはり低いのです。特に集団で見るとき、学力とは、なにか大きな底力の一つの現れのように思えてなりません。